

年度	2026
講義コード	1651001
講義名称	教育課程総論
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80551

担当教員

氏名
◎ 野崎 剛毅

授業の目的と概要	学習指導要領・幼稚園教育要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。
到達目標	学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。 教育課程編成の基本原理を理解している。 教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童又は生徒や学校、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。 学習指導要領に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。
授業の進め方	【講義方法】 講義形式を中心に、適宜グループワークをおこなう。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義中提示された質問等については、講義内で回答し、問題意識の共有を図る。 授業内課題についても、返却の際に解説を加える。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	教育課程とはなにか① 幼稚園教育要領
第2回	教育課程とはなにか② 教育課程の役割と機能
第3回	幼稚園教育要領の歴史① 保育要領
第4回	幼稚園教育要領の歴史② 幼稚園教育要領の制定
第5回	幼稚園教育要領の歴史③ 保育所保育指針
第6回	幼稚園教育要領の歴史④ 五領域と教科化
第7回	幼稚園教育要領の歴史⑤ 現行教育要領
第8回	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
第9回	現行幼稚園教育要領の特色
第10回	教育課程の編成① 基本的な考え方
第11回	教育課程の編成② 地域の特色を活かした教育課程

第12回	小テスト カリキュラム・マネジメント
第13回	まとめと最終試験、履修カルテの記入

事前・事後学修	【具体的な内容】 2回目以降は次回の予告をするため、『幼稚園教育要領解説』等の該当する箇所を読んでおくこと。 新聞、ニュースなどを日頃からみて、社会でどのようなことが問題とされているのかを把握しておくこと。 実習経験を思い返し、実習園の教育課程について考えておくこと。 【必要な時間】 復習に重さを置く。事前学修および事後学修は合わせて5時間以上を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	提出物等…40% 12回目におこなう小テスト…20% 最終試験…40%
テキスト	『幼稚園教育要領解説』：毎回持参すること 『保育所保育指針解説』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』
参考文献	民秋言編集代表『幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携認定こども園教育・保育要領の成立と変遷』萌文書林

備考	2026年度中に『幼稚園教育要領』等の改訂について大きな動きがある可能性があります。その場合、内容を変更して新課程を取り上げます。
----	---

年度	2026
講義コード	1693003
講義名称	健康とスポーツⅠ〔幼教〕
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71113
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 林 二士

授業の目的と概要	スポーツを通して身体を動かす楽しさや大切さを学ぶとともに、実技を通して積極性、協調性などを養い保育者としての資質の向上を目指す。 また計画的に運動をする習慣を育てるとともに、健康の増進と体力の向上を図り、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を育てる。 現代社会における様々な健康問題について認識することで、自らの健康に関心を持つことの重要性を理解する。
到達目標	・身体を動かす楽しさや大切さを理解し、自発的に運動に取り組むことができる。 ・実技を通して体力の維持向上を図り、自らの健康の保持増進について理解できる。 ・チーム活動やペア活動を通して協力やコミュニケーションの重要性を理解できる。 ・実技種目における基本技術およびルールを理解し、安全に活動することができる。
授業の進め方	本授業は実技を中心に進める。各回の授業ではウォーミングアップを行った後、スポーツ種目の基本技能やルールを学び、練習およびゲーム形式の活動を行う。 また、健康や運動習慣に関するミニ講義や振り返りを取り入れ、運動と健康の関連について理解を深める。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	振り返りシートについては、授業内での講評やコメントを通してフィードバックを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・アイスブレイク 卓球① 基本技術・個人技術の習得
第2回	卓球② ルールの理解と審判
第3回	卓球③ 試合（コンビ・チームプレイ）
第4回	バレーボール① 基本技術・個人技術の修得
第5回	バレーボール② ルールの理解と審判
第6回	バレーボール③ 試合（チームプレイ）
第7回	ミニ大会 ニュースポーツ（フライングディスク）

事前・事後学修	【事前学修】 ・自らの健康づくりに興味を持ち、日常の生活の中で体を動かすことを心がける。 ・様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。 ・各授業で扱うスポーツのルールや基本技術について、配布資料や動画等を参考に事前に確認しておく 【事後学修】 ・授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。
---------	---

・授業で学んだ技術や健康に関する内容を振り返り、日常生活での運動習慣について考察する。事前学修および事後学修は合わせて1時間以上を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業参加・態度 40% 技能の習得・実技への取り組み 30% 振り返りレポート 20% 授業への貢献（協力・マナー等） 10%
テキスト	・適宜資料を配布する。
参考文献	・適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	大学教育にて「体育実技」「スポーツ」などを指導してきた実務経験がある教員により、楽しく身体を動かしながら体力の維持向上や、健康の保持増進を図る授業を展開する。
備考	・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。 ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。 ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

年度	2026
講義コード	1694003
講義名称	健康とスポーツⅡ [幼教]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72114
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 林 二士

授業の目的と概要	健康とスポーツⅠで学んだ基礎を踏まえ、スポーツ活動を通して身体活動への理解を深めるとともに、チームスポーツを中心とした実技を通して協力やコミュニケーション能力を養う。 また、ゲーム運営や審判活動を体験することで、スポーツにおけるルールや役割の重要性を理解し、主体的に活動する態度を育成する。
到達目標	・スポーツの楽しさを理解し、主体的に運動を実践できる。 ・チームスポーツにおける役割や協力の重要性を理解できる。 ・基本技術を活用し、ゲーム形式の活動に参加できる。 ・ルールを理解し、試合運営や審判を行うことができる。
授業の進め方	チームスポーツやゲーム形式の活動を中心に授業を進める。練習・試合だけでなく、試合の準備や審判、得点管理などを学生自身が担当することで、スポーツ活動における役割と責任について学ぶ。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	振り返りレポートや授業内活動に対してコメントおよび講評を行う。
----------------------------	---------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・アイスブレイク バドミントン① 基本技術・個人技術の習得
第2回	バドミントン② ルールの理解と審判
第3回	バドミントン③ 試合（コンビ・チームプレイ）
第4回	バスケットボール① 基本技術・個人技術の修得
第5回	バスケットボール② ルールの理解と審判
第6回	バスケットボール③ 試合（チームプレイ）
第7回	ミニ大会

事前・事後学修	【事前学修】 ・自らの健康づくりに興味を持ち、日常の生活の中で体を動かすことを心がける。 ・様々なスポーツに興味を持ち「スポーツをする・観る・応援する」を意識する。 ・各授業で扱うスポーツのルールや基本技術について、配布資料や動画等を参考に事前に確認しておく 【事後学修】 ・授業を振り返り、動きや技術の課題について自分の意見や考えを明確にし、次の授業に向けて、解決策や練習方法を調べておく。 ・授業で学んだ技術や健康に関する内容を振り返り、日常生活での運動習慣について考察する。事前学修および事後学修は合わせて1時間以上を目安とす
---------	--

る。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業参加・態度 40% 技能およびゲームへの参加 30% 振り返りレポート 20% 試合運営・協力姿勢 10%
テキスト	・適宜資料を配布する。
参考文献	・適宜資料を配布する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	大学教育にて「体育実技」「スポーツ」などを指導してきた実務経験がある教員により、楽しく身体を動かしながら体力の維持向上や、健康の保持増進を図る授業を展開する。
備考	・運動に適した服装（運動着、運動靴）や準備（タオル、水分、気持ち）をする。 ・運動に不適切な服装や格好の場合は見学となることがある。 ・その他の注意事項は1回目のガイダンスで説明する。

年度	2026
講義コード	1950001
講義名称	社会福祉
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80461

担当教員

氏名
◎ 山内 太郎

授業の目的と概要	本講義は、自分や家族の生活にはあまり関係がないと思っていた社会福祉の話が、実は普段の生活やこれからの人生に大きくかかわっていることを理解し、そのうえで保護者支援にかかわる専門職として本講義で学んだ知識を活かすことができるようになることを目的とする。そのためにテキストや視聴覚資料等を用いて具体的な事例を学び、自分の身近な出来事に引き付けて社会福祉の法制度を理解する。
到達目標	社会福祉の基本的な法制度を理解し、子育て支援の専門職として社会福祉の問題をとらえることができる。
授業の進め方	テキストを用いて講義形式で行うことを基本とするが、必要に応じて視聴覚資料も利用する。講義中にディスカッションやグループワーク、小レポートの提出を行う場合もある。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義終盤に行う小レポートに対し、内容に応じて次回に応答する。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	子どもと家族の福祉 妊娠出産にかかわる制度、児童虐待や子どもの貧困といった社会問題について学びます。
第3回	社会保障 社会保険制度が私たちの暮らしにどのように関係しているのかを学びます。
第4回	障害児・者福祉① 障害児者福祉の法制度がどのように整備され、どんな課題があるのかを学びます
第5回	障害児・者福祉② 障害者施設の実際の支援について学びます（外部講師）。
第6回	障害児・者福祉③ 社会問題としての障害者差別について学びます。
第7回	地域福祉 福祉事務所や社会福祉協議会、NPOやボランティアといった地域に根差した福祉事業体について学びます。
第8回	ソーシャルワーク 保育士として協働的な保育や保護者支援のあり方について学びます。
第9回	女性と社会福祉 DV問題の背景とその対策について学びます。

第10回	低所得者の福祉① 生活保護制度の現状と課題について学びます。
第11回	低所得者の福祉② ホームレス・生活困窮者支援の現状について学びます。
第12回	高齢者福祉 高齢者の生活課題や介護問題の現状について学びます。
第13回	期末試験 期末試験の実施、および解説を行います。

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、配布又は提示された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。 【必要な時間】 予習・復習は、それぞれ2時間半～3時間程度が目安となる。
----------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	到達目標に明示している社会福祉の法制度の内容や意義について問う期末試験を行う。また、グループワークを行った内容に対するレポートや各授業の終盤に本時の内容をまとめる小レポートを作成する時間を設けて評価の基準とする。 授業内試験５０％ レポート課題２０％ 毎時間後の小レポート３０％
テキスト	『図解で学ぶ保育 社会福祉』直島正樹・原田旬哉編著 萌文書林
参考文献	講義中に適宜提示する。

備考	N H K 番組「ハートネットＴＶ」は社会福祉にかかわる良質な情報を提供しているので視聴して授業に臨むと理解が進む。
----	--

年度	2026
講義コード	2018001
講義名称	情報処理演習【遠隔B】
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82211

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の目的と概要	代表的な表計算ソフトであるMicrosft Excelを使い、ビジネス社会で求められる帳票作成、表計算の技能を習得することを目的としています。 目標として、日商PC検定（データ活用）の実技試験の受験体制を整えます。
到達目標	① 情報処理に関する基礎的な事柄を理解し、活用する知識と態度を身につける。 ② コンピュータ関連検定に対応できる、基礎的な知識と技術を身につける。
授業の進め方	毎回の課題の説明を行った後、実際に課題の作成を行ってもらい、提出します。 なお、本講はオンデマンド授業ですので、質問などはWebClassや授業外時間にて対応します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の完成度等について、個別にWebClass等を通じて評価・コメントを行います。 また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	「ガイダンス」「日商PC検定」について 基本的な問題について	オンデマンド
第2回	基本となるExcel操作練習① ピボットテーブル、割合などの計算式	オンデマンド
第3回	基本となるExcel操作練習② 関数、グラフの作成	オンデマンド
第4回	演習問題① 売上の集計	オンデマンド
第5回	演習問題② アンケートの集計	オンデマンド
第6回	演習問題③ 請求書の作成	オンデマンド
第7回	まとめ問題と模擬試験	オンデマンド

事前・事後学修	課題の提出の有無が評価を左右します。必ず完成させて提出するようにしましょう。 事前学修および事後学修は合わせて5時間以上を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題の提出と完成度 80% まとめ問題 20%
テキスト	テキストは用いません。資料はWebClassで随時配布します。
備考	日商PC検定（データ活用）の実技問題に対応しています。 知識問題に関しては「情報特別演習」で対応しています。

年度	2026
講義コード	2170081
講義名称	卒業研究[総キ/石田]【ブレA】
講義開講時期	通年
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(A)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73511

担当教員

氏名
◎ 石田 麻英子

授業の目的と概要	学びを自分で計画・実施しその学びを通して、キャリア＝人生、自分の将来を考えるベースを作ります。授業での学びを振り返り、自分自身の人生を考えたとき、授業だけでは不十分な要素を、自分で考えて補充します。2年間の集大成として、自己設定した目標を達成することで、予測困難な時代を生きるうえで求められる、課題をみつけ立ち向かう力、粘り強く取り組む力、様々な形のコミュニケーションの力、生涯学び続ける姿勢を身に着けます。
到達目標	① 自分の計画進行上の課題を発見し、対策をたて、計画した知識・技能を身に着けること ② 自分の学びの記録をつけ、努力や成果を伝える発信力をつけること ③ 困難を感じたときに逃げずに挑戦し続ける力をつけること ④ 主体性をもって課題に取り組み、自分の成果に自信を持つこと
授業の進め方	演習形式を中心に行います。基本的には進捗状況を確認しながらアドバイスを受け、期限内に目標を達成できるように、教員の補助・支援を受けながら進めます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	LMS等を活用し、『報告・相談・フィードバック・実践』のサイクルを繰り返していきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：授業の流れ、形式、注意点 発表形式等基本的な共通ルール、スケジュールについて知る。 前年度考えた仮テーマをベースに、自分の中にある「疑問」を整理し、答える準備をする。	対面
第2回	テーマ決定への調査① 自分の中の「疑問」について、答えを見つけるための調査を行う。 想定しているすべてのテーマについて、十分な資料があるかを確認する。 資料はリスト化し、提出する。	対面
第3回	テーマ決定への調査② 絞り込みをかけながら、使用する資料について教員と相談しつつ、実現可能なテーマを探る。 資料をリスト化し、提出する。	対面
第4回	テーマ決定 テーマを決定し、序章、構成について整理し、序章部分と構成案を提出する。	対面
第5回	研究スケジュールを立てる 年間の研究スケジュール、およびプランBを考えて提出する。	対面
第6回	進捗状況と報告 スケジュールに照らして、現時点での進み具合を確認し、長期休暇の使い方について計画を立て、計画書を作成する	オンデマンド

第7回	今後の活動の計画と修正 長期休暇中の進捗を振り返り、スケジュールの修正を行う。 作成途中の資料、修正計画を提出する。	対面
第8回	完成に向けたスケジュール提出 フィードバックを受け、不測の事態が起きない限りこれ以上修正しない予定のスケジュールを確定し提出する。 発表日程について相談し、資料提出の締め切り、個別指導の時期なども決定する	対面
第9回	進捗と報告② 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	同時双方向及び対面
第10回	進捗と報告③ 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	同時双方向及び対面
第11回	発表資料仮提出 原稿、資料を仮完成させて提出。	同時双方向及び対面
第12回	発表資料作成・提出、口頭試問準備 フィードバックを反映した完成版資料を提出し、口頭試問の模擬演習を行い、質疑応答に対応できるようにする	同時双方向及び対面
第13回	発表 決められた発表日に発表を行い、質疑応答まで完了する。	対面

事前・事後学修	指摘された課題への対処方向の考案と実行（事前事後学修は合わせて1時間程度）
---------	---------------------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	進捗記録の作成と提出 25％ 成果のまとめの資料作成 25％ 発表 40％ 質疑応答への対処 10％
テキスト	指定は特にありません。授業内で指示があります。
参考文献	個人によって異なります。教員からアドバイスを受けてください。

備考	最終発表、質疑応答は、内容が不十分である、理解が不十分である（質疑に答えられない）などの場合、1度で通過できない場合があります。修正を行い、再トライとなることがあることを念頭に置き、十分な準備をしてください。 授業スケジュールは通年13回、スケジュールが一定ではないので、初回に配布される資料や授業に関する連絡を見落とさないようにいしましょう。
----	--

年度	2026
講義コード	2170082
講義名称	卒業研究[総キ/小林(純)]【ブレA】
講義開講時期	通年
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(A)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73511

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の目的と概要	学びを自分で計画・実施しその学びを通して、キャリア＝人生、自分の将来を考えるベースを作ります。授業での学びを振り返り、自分自身の人生を考えたとき、授業だけでは不十分な要素を、自分で考えて補充します。2年間の集大成として、自己設定した目標を達成することで、予測困難な時代を生きるうえで求められる、課題をみつけ立ち向かう力、粘り強く取り組む力、様々な形のコミュニケーションの力、生涯学び続ける姿勢を身に着けます。
到達目標	① 自分の計画進行上の課題を発見し、対策をたて、計画した知識・技能を身に着けること ② 自分の学びの記録をつけ、努力や成果を伝える発信力をつけること ③ 困難を感じたときに逃げずに挑戦し続ける力をつけること ④ 主体性をもって課題に取り組む、自分の成果に自信を持つこと
授業の進め方	演習形式を中心に行います。基本的には進捗状況を確認しながらアドバイスを受け、期限内に目標を達成できるように、教員の補助・支援を受けながら進めます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	LMS等を活用し、『報告・相談・フィードバック・実践』のサイクルを繰り返していきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：授業の流れ、形式、注意点 発表形式等基本的な共通ルール、スケジュールについて知る。 前年度考えた仮テーマをベースに、自分の中にある「疑問」を整理し、答える準備をする。	対面
第2回	テーマ決定への調査① 自分の中の「疑問」について、答えを見つけるための調査を行う。 想定しているすべてのテーマについて、十分な資料があるかを確認する。 資料はリスト化し、提出する。	対面
第3回	テーマ決定への調査② 絞り込みをかけながら、使用する資料について教員と相談しつつ、実現可能なテーマを探る。 資料をリスト化し、提出する。	対面
第4回	テーマ決定 テーマを決定し、序章、構成について整理し、序章部分と構成案を提出する。	対面
第5回	研究スケジュールを立てる 年間の研究スケジュール、およびプランBを考えて提出する。	対面
第6回	進捗状況と報告 スケジュールに照らして、現時点での進み具合を確認し、長期休暇の使い方について計画を立て、計画書を作成する	オンデマンド

第7回	今後の活動の計画と修正 長期休暇中の進捗を振り返り、スケジュールの修正を行う。 作成途中の資料、修正計画を提出する。	対面
第8回	完成に向けたスケジュール提出 フィードバックを受け、不測の事態が起きない限りこれ以上修正しない予定のスケジュールを確定し提出する。 発表日程について相談し、資料提出の締め切り、個別指導の時期なども決定する	対面
第9回	進捗と報告② 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	同時双方向及び対面
第10回	進捗と報告③ 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	同時双方向及び対面
第11回	発表資料仮提出 原稿、資料を仮完成させて提出。	同時双方向及び対面
第12回	発表資料作成・提出、口頭試問準備 フィードバックを反映した完成版資料を提出し、口頭試問の模擬演習を行い、質疑応答に対応できるようにする	同時双方向及び対面
第13回	発表 決められた発表日に発表を行い、質疑応答まで完了する。	対面

事前・事後学修	指摘された課題への対処方向の考案と実行（事前事後学修は合わせて1時間程度）
---------	---------------------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	進捗記録の作成と提出 25％ 成果のまとめの資料作成 25％ 発表 40％ 質疑応答への対処 10％
テキスト	指定は特にありません。授業内で指示があります。
参考文献	個人によって異なります。教員からアドバイスを受けてください。

備考	最終発表、質疑応答は、内容が不十分である、理解が不十分である（質疑に答えられない）などの場合、1度で通過できない場合があります。修正を行い、再トライとなることがあることを念頭に置き、十分な準備をしてください。 授業スケジュールは通年13回、スケジュールが一定ではないので、初回に配布される資料や授業に関する連絡を見落とさないようにいしましょう。
----	--

年度	2026
講義コード	2170083
講義名称	卒業研究[総キ/和久田]【ブレA】
講義開講時期	通年
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(A)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73511

担当教員

氏名
◎ 和久田 紗恵子

授業の目的と概要	学びを自分で計画・実施しその学びを通して、キャリア＝人生、自分の将来を考えるベースを作ります。授業での学びを振り返り、自分自身の人生を考えたとき、授業だけでは不十分な要素を、自分で考えて補充します。2年間の集大成として、自己設定した目標を達成することで、予測困難な時代を生きるうえで求められる、課題をみつけ立ち向かう力、粘り強く取り組む力、様々な形のコミュニケーションの力、生涯学び続ける姿勢を身に着けます。
到達目標	① 自分の計画進行上の課題を発見し、対策をたて、計画した知識・技能を身に着けること ② 自分の学びの記録をつけ、努力や成果を伝える発信力をつけること ③ 困難を感じたときに逃げずに挑戦し続ける力をつけること ④ 主体性をもって課題に取り組む、自分の成果に自信を持つこと
授業の進め方	演習形式を中心に行います。基本的には進捗状況を確認しながらアドバイスを受け、期限内に目標を達成できるように、教員の補助・支援を受けながら進めます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	LMS等を活用し、『報告・相談・フィードバック・実践』のサイクルを繰り返していきます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション：授業の流れ、形式、注意点 発表形式等基本的な共通ルール、スケジュールについて知る。 前年度考えた仮テーマをベースに、自分の中にある「疑問」を整理し、答える準備をする。	対面
第2回	テーマ決定への調査① 自分の中の「疑問」について、答えを見つけるための調査を行う。 想定しているすべてのテーマについて、十分な資料があるかを確認する。 資料はリスト化し、提出する。	対面
第3回	テーマ決定への調査② 絞り込みをかけながら、使用する資料について教員と相談しつつ、実現可能なテーマを探る。 資料をリスト化し、提出する。	対面
第4回	テーマ決定 テーマを決定し、序章、構成について整理し、序章部分と構成案を提出する。	対面
第5回	研究スケジュールを立てる 年間の研究スケジュール、およびプランBを考えて提出する。	対面
第6回	進捗状況と報告 スケジュールに照らして、現時点での進み具合を確認し、長期休暇の使い方について計画を立て、計画書を作成する	オンデマンド

第7回	今後の活動の計画と修正 長期休暇中の進捗を振り返り、スケジュールの修正を行う。 作成途中の資料、修正計画を提出する。	対面
第8回	完成に向けたスケジュール提出 フィードバックを受け、不測の事態が起きない限りこれ以上修正しない予定のスケジュールを確定し提出する。 発表日程について相談し、資料提出の締め切り、個別指導の時期なども決定する	対面
第9回	進捗と報告② 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	同時双方向及び対面
第10回	進捗と報告③ 計画に沿って進め、できているところまでのチェックを受け、フィードバックを生かしてブラッシュアップを行う	同時双方向及び対面
第11回	発表資料仮提出 原稿、資料を仮完成させて提出。	同時双方向及び対面
第12回	発表資料作成・提出、口頭試問準備 フィードバックを反映した完成版資料を提出し、口頭試問の模擬演習を行い、質疑応答に対応できるようにする	同時双方向及び対面
第13回	発表 決められた発表日に発表を行い、質疑応答まで完了する。	対面

事前・事後学修	指摘された課題への対処方向の考案と実行（事前事後学修は合わせて1時間程度）
---------	---------------------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	進捗記録の作成と提出 25％ 成果のまとめの資料作成 25％ 発表 40％ 質疑応答への対処 10％
テキスト	指定は特にありません。授業内で指示があります。
参考文献	個人によって異なります。教員からアドバイスを受けてください。

備考	最終発表、質疑応答は、内容が不十分である、理解が不十分である（質疑に答えられない）などの場合、1度で通過できない場合があります。修正を行い、再トライとなることがあることを念頭に置き、十分な準備をしてください。 授業スケジュールは通年13回、スケジュールが一定ではないので、初回に配布される資料や授業に関する連絡を見落とさないようにいしましょう。
----	--

年度	2026
講義コード	2356003
講義名称	日本文化論[幼教]【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：7051a

担当教員

氏名
◎ 横川 大輔

授業の目的と概要	「日本には文化がある」ことを疑う人はいないだろう。日本をどこか別の国に替えても同じである。しかし、その「日本の文化とは何か」となると、大変難しい問題を孕んでいる。そもそも「文化」とは何か。日本が生じたときから今にいたるまで不変でありつづけた文化的本質など、存在するのだろうか。もし存在しないなら、なぜ「日本の文化」などというものが語りえるのだろうか。語りえるとしたら、なぜそうであり、何が対象となるのか。本授業は、このような問題群について考える。
到達目標	・文化を語るとはどういうことかを理解し、自分の言葉で表現できる ・今「日本の文化」とはどのようなものを指すのかを理解し、自分の言葉で表現できる
授業の進め方	【講義方法】 フルオンデマンド授業ではあるが、伝統的なスタイルの講義。 課題の提出をもって受講したことの確認とするため、課題には真摯に取り組まねばならない。 本授業は、個々人が映像を視聴し、課題を提出することで受講したものとみなすため、著しく低い視聴率しか記録されていない受講生が課題提出したとしても出席を認めない。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	学生は、さまざまな課題をWebClassを通じて提出する。 フィードバックは、全般的な傾向などは匿名化して授業中に全員で共有し、個別には提出課題に対してWebClass上で行われる。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	「日本文化」は存在するのか？ 文化の本質主義／構築主義 浅い文化と深い文化	オンデマンド
第2回	「日本文化論」とは何か？ 明治以来の日本文化論の変遷	オンデマンド
第3回	外国から見た日本文化 罪に対する恥 ジャパン・アズ・ナンバーワン 人間を幸福にしない日本	オンデマンド
第4回	東アジアの中の日本文化 文明と文化 中華文明と日本文化 真名と仮名	オンデマンド
第5回	近代と日本文化 西洋近代文明と日本文化 ジャポニズムとシノワズリー 「敗戦」という烙印	オンデマンド
第6回	現代の日本文化 ジャパン・ポップカルチャー ネオ・ジャポニズム？	オンデマンド
第7回	第一部のまとめ	オンデマンド
第8回	各論①「矛盾の両立」 陰と陽 ホンネとタテマエ カミとホトケ	オンデマンド
第9回	各論②カミとマツリ 変化するカミ 多様なオカミ マツリとマツリゴト 天皇	オンデマンド
第10回	各論③「生と死」 あちらとこちら 里と山 ご先祖サマ 袖振り合うも他生の縁 成仏する草木	オンデマンド
第11回	各論④仲間内コンテンツの発達 根付 擬人化 マンガ アニメ ポカロ	オンデマンド
第12回	各論⑤そぎ落とす美 ワビ・サビ 刀 短歌・俳句 「道」を究める	オンデマンド
第13回	第二部のまとめ	オンデマンド

	【具体的な内容】 1) 毎時授業内容を振り返り、学んだことを自分の言葉でまとめる
--	---

事前・事後学修	2) 学んだことを、日常生活でも応用する 【必要な時間】 週あたり、1) に対して2時間、2) にたいして3時間ほど見込まれる。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・各回の授業内容を理解してるか確かめる課題・・・48％ ・一連の授業をまとめる課題・・・・・・・・・・52％
テキスト	テキストは用いない
参考文献	・大久保喬樹『日本文化論の系譜』中公新書1696、中央公論新社、2003年 ・遠山 淳ほか編『日本文化論キーワード』有斐閣、2009年 ・船曳健夫『「日本人論」再考』講談社学術文庫1990、講談社、2010年

年度	2026
講義コード	2466001
講義名称	北海道論
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71441

担当教員

氏名
◎ 山田　英寿

授業の目的と概要	我々の住む北海道の気候風土や特徴を元に、現状と将来に向けた取り組みや実現への課題を考える。 ディスカッションを通じて、地域の発展の方策を考え発表する力を身につける。
到達目標	北海道についての基礎知識を知り、地域ごとの課題や特色を生かした発展について考え、まとめて話せる能力を身に付ける。
授業の進め方	配布するプリントや提示する動画を見ながら各自の考えてをまとめる。その考えを少人数グループ内で質疑、ディスカッションを通じ、見方を深める。 授業内プレゼンテーションも。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	プレゼンテーションに対する相互評価や、講師からの図表を使った説明、解説。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	【オリエンテーリング・基本統計と北海道の強み】 各自のパソコンやスマホで、北海道の基本統計サイトをチェック、北海道の特色や強みを探る	対面
第2回	【北海道の地域の特色（道央）】 札幌集中のメリット・デメリット、今後	対面
第3回	【北海道の地域の特色（道北とオホーツク圏）】 漁業・林業などの歴史と今後、旭川家具	対面
第4回	【北海道の地域の特色（道南圏）】 観光や歴史と今後を考える	対面
第5回	【北海道の地域の特色（道東圏）】 漁業基地の役割と今後	対面
第6回	【北海道の地域の特色（十勝圏）】 畑作や酪農の歴史と今後、スマート農業	対面
第7回	【地球温暖化が北海道に及ぼす影響】 夏の猛暑と冬のドカ雪、今後	対面
第8回	【北海道にとっての物流2024年問題】 遠距離輸送と人手不足、今後	対面
第9回	【北海道観光の特徴、課題、可能性】 恩恵とオーバーツーリズム、今後 北海道ロケの映画	対面

第10回	【北海道の新産業（半導体）】 千歳に進出するラピダスの影響は	対面
第11回	【北海道の電力】 北海道の電力需要と発電の新形態	対面
第12回	【まとめと振り返り】 グループディスカッションと発表	対面
第13回	【まとめと振り返り】 授業内小テスト	対面

事前・事後学修	日頃のニュースから北海道に関連した内容に興味を持ち、ノートやメモに書き留めるなどし不明な点は調べる。それに対し考える習慣をつける。 事前学修および事後学修は合わせて5時間以上を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	講義の中で、それぞれのテーマに対する考えをまとめ、口頭発表（30％） グループワーク・その発表（40％） 授業内振り返り試験（30％）
テキスト	適宜プリントや資料、関連URL、を提示
参考文献	北海道新聞ほか（オンラインニュースも可）

年度	2026
講義コード	2439003
講義名称	保育内容(言葉)[幼教]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80375

担当教員

氏名
◎ 森岡 毅

授業の 目的と 概要	『幼稚園教育要領』や『保育所保育指針』『幼保連携型の認定こども園・保育要領』に示された保育内容（言葉）のねらい及び内容について学ぶとともに、幼児の「言葉」の発達過程に即した主体的・対話的で深い学びの実現に向け、具体的な指導場면을想定し実践する力を身に付ける。
到達目 標	・乳幼児の言葉の発達を理解し、整理できること。 ・ことばの重要性を踏まえ、その指導と援助について適切な方法を具体的に考えることができること。
授業の 進め方	テキストやプリントなどを用いて、理論的な説明を中心に基礎知識を深める講義を行い、適宜小テストを実施する。また、指導場면을想定した演習を実施する。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストや課題などについて、次時の授業などで適宜解説を行う。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・幼稚園教育要領における領域「言葉」
第2回	保育所保育指針における領域「言葉」
第3回	領域「言葉」と他の領域との関係
第4回	ことばの発達
第5回	特別な配慮が必要な子どもとの関わり
第6回	保育の実際①（読み聞かせ1）
第7回	保育の実際②（読み聞かせ2）・まとめ

事前・事後学修	【事前学修】 ・次回授業内容について自分の考えをまとめ、活動を構想するとともに練習を行う。 【事後学修】 ・授業内容を振り返り、ポイントや改善点をノートやファイルにまとめる。 【必要な時間】 ・事前、事後学修ともに、1時間～2時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・課題・提出物の評価：40％ 「ことばの重要性を踏まえ、その指導と援助について適切な方法を具体的に考えることができる」ことを評価基準とする。 ・小テスト等の評価：40％ 「乳幼児の言葉の発達を理解し、整理できる」ことを評価基準とする。 ・振り返りの評価：20％ 「乳幼児のことばの発達」や「指導と援助の適切な方法」について理解し、考えることができることを評価基準とする。
テキスト	保育・教育ネオシリーズ『保育内容・言葉』（太田光洋編著 同文書院）
参考文献	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

備考	授業での配布物を保管するためのファイル（A4版）を用意すること。
----	----------------------------------

年度	2026
講義コード	2591001
講義名称	サービスの心理学
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81411
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 中里　のぞみ

授業の目的と概要	サービスの付加価値を追求し、顧客満足を提供し続けることは企業にとって大きなテーマです。 また、組織で働く上で言語化されない顧客のニーズ・ウオンツを把握し、サービスの実践をすることは職業人として求められる能力です。 本講義ではサービスとは何か、顧客心理とはどのようなものかを具体的に学び、顧客とのよりよいコミュニケーション・クレーム対応など、現場で有益となるサービス創出のための実践的な学習と体験をし、将来に活用できることを目的とします。
到達目標	サービスについての知識を深め、様々な場面でのお客様の心理を察知し、理解できるようになる。 様々な状況で、より適切なサービス提供に必要な判断力・コミュニケーション能力が発揮できるようになる。 顧客のみならず、組織内の人間関係に有益となる他者への配慮ができ、スムーズな業務遂行やよりよい人間関係の構築ができるようになる。
授業の進め方	基本的な知識は講義形式で学びます。自分自身のコミュニケーションのパターンなど自己理解を深めるためにワークシートなどを活用したり、体験ワークを実施します。 また、学んだことを他者と共有化し、考察を深めるためのグループワークやディスカッションも体験していただきます。 最終的に社会人になった後も役立つようなテーマでプレゼンをしてアウトプットしていきます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	グループワーク・ディスカッション・プレゼンテーションについては、随時、授業内でフィードバックしていきます。 レポートなどの課題があった場合には精査した後にフィードバックします。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、　サービスとは何か	対面授業
第2回	サービスとホスピタリティ	対面授業
第3回	ホスピタリティと共感的理解	対面授業
第4回	サービスのマインドとスキル	対面授業
第5回	サービスとコミュニケーション	対面授業
第6回	サービスの品質管理	対面授業
第7回	顧客心理とその事例検討	対面授業
第8回	顧客心理に基づいたクレーム対応	対面授業
第9回	ロイヤルカスタマー獲得のスキル	対面授業
第10回	顧客満足に繋がる具体的方策	対面授業

第11回	具体的方策の検討と提案	対面授業
第12回	プレゼンテーションとフィードバック	対面授業
第13回	総括とテスト	対面授業

事前・事後学修	配布レジュメにメモをしたり、自分でノートを作成したりして、授業後に見直し・振り返りをしてください。 レポートではその授業で学んだことを自分の言葉でわかりやすくまとめましょう。 グループワークやディスカッションの前には事前にアナウンスしますので、各自で必要な情報を収集しておくようにしましょう。 事前・事後の学習はそれぞれ2時間半程度を目安にしてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	テスト 70点 グループディスカッション・プレゼン 30点
テキスト	「ホスピタリティとホスピタリティマネジメント」 中里のぞみ・紺野猷邦著 株式会社バレード
参考文献	「コミュニケーション学」 末他清子・福田浩子著 株式会社松柏社 「対話でみがくことばの力」 宇都宮裕章 ナカニシヤ出版 「人間尊重の心理学」 カールロジャーズ著 創元社

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	提出物の期限は厳守してください。

年度	2026
講義コード	2681001
講義名称	現代生活と経済【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71423

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の目的と概要	現代の生活では、さまざまな経済活動が関わっています。日常生活には関連がないような経済指標も、実際には生活に大きく関わる人が多いので す。 経済のしくみが理解できれば、政府の政策や市場の動きが見えてきます。 社会人として知っておくべき経済の基礎知識を、かみ砕いて解説していきます。
到達目標	① 報道や経済情報などの内容を理解し、経済が生活にどのような影響を与えているかを考えられる。 ② 経済分野の幅広い情報に興味・関心を持つ。
授業の進め方	授業はオンデマンド授業となるため、動画による学修となります。動画内では小テストも実施しますので、確実に回答するようにしましょう。 また、質問は随時メールやWebClassなどで受け付けますが、授業内でも紹介することがあります。 授業時間外でも研究室などで随時質問は受け付けています。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	出題された課題については、動画内やWebClassなどで、考え方や回答を公開します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	「ガイダンス」「経済とはなにか」 経済のなりたちと社会の関係を考えます。	オンデマンド
第2回	「貨幣と所得」 経済に欠かすことができない貨幣とはどのようなものかを検討します。 またその貨幣がもたらす所得について考えます。	オンデマンド
第3回	「消費者と生産者」 それぞれの立場から起こされる経済行動について検討します。	オンデマンド
第4回	「価格の決定」 消費者と生産者の経済行動から決定される価格、また市場メカニズムについて学びます。	オンデマンド
第5回	「市場の失敗①」 市場における政府の役割に注目し、市場原理だけでは解決できない問題を考えます。	オンデマンド
第6回	「市場の失敗②」 市場における政府の役割に注目し、市場原理だけでは解決できない問題を考えます。	オンデマンド
第7回	「GDPと付加価値」 国家経済の規模を示すGDPと、そのもととなる付加価値とはなにかを学びます。	オンデマンド
第8回	「GDPと私達の生活」 GDPの増減が私達の生活にどのように影響するのかを学びます。	オンデマンド
第9回	「景気と物価」 景気の変化、またそれによって起こる物価の変化について学びます。	オンデマンド
第10回	「外国為替」 通貨レートの変化と海外貿易の関係、インフレとデフレによる為替の変化などについて学びます。	オンデマンド

第11回	「世界経済の動き」 世界の国々の経済力や経済指標をもとに、世界経済の現状を検討します。	オンデマンド
第12回	「政府の経済政策」 政府が行う経済政策・金融政策について学びます。	オンデマンド
第13回	「日本の借金」 現在の日本が抱える借金について学ぶとともに、日本経済の課題を検討します。	オンデマンド

事前・事後学修	授業で扱われる内容に関し、新聞記事およびニュースなどに積極的に触れながら予備知識をつけ、問題意識を持って授業に臨むこと。 授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。 事前・事後学修の時間として、1講あたり5時間程度の学修時間を目安としてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内で提示される課題 60% 小レポート 40% なお、出席については提出物の提出またはオンデマンド動画の視聴が行われていることが条件となります。
テキスト	適宜プリントや資料を提示します。一部資料はWebClassにて共有します。

年度	2026
講義コード	4084004
講義名称	保育内容(表現)[幼教]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80376
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 林 二士
田村 めぐみ

授業の目的と概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解を深める。また子どもの表現を引き出す知識・技術を身に付ける。
到達目標	①幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。 ②表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる。 ③実践の内容を学生が相互に評価し合うことで、各自の保育技術の課題を見つけ、領域「表現」の理解を実践的に深めることができる。
授業の進め方	子ども、表現、遊び、保育、保育者などの観点を取り入れながら、音楽・身体等の表現活動に関わる演習（および講義）をオムニバス形式で行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については学生の実践に合わせて都度助言を行う。また、各回の振り返り（授業感想や質問等）をもとに、次回授業時に課題に対する具体的な助言を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	・オリエンテーション：保育内容（表現）の目的 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」の意味 ・授業内レポート／第1回課題「表現について」 ：林・田村
第2回	保育技術の基本（音楽表現）：田村
第3回	保育技術の基本（身体表現）：林
第4回	「表現」の指導の実際（音楽表現・保育現場での取り組み）：田村
第5回	「表現」の指導の実際（身体表現）：林
第6回	領域「表現」の実践的理解(身体表現）：林
第7回	・領域「表現」の実践的理解（音楽表現）：田村 ・授業内レポート（最終レポート）、履修カルテの記入：林・田村

事前・事後学修	【具体的な内容】 音楽・身体表現に必要な資料や歌、楽譜、手遊び、絵本、遊びのレポーターリー等を準備する。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間半ずつ、合計1時間を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準 と方法	①授業内レポート+授業記録：60点（第1回課題「表現について」10点、最終レポート30点、授業記録20点） 「領域（表現）のねらいや内容について、学修を通して実践的に理解を深める」ことを評価基準とする。 ②表現活動の実践・成果物：40点 身体表現（林）／音楽表現（田村）各20点 「表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる」「学生が実践を評価し合い、各自の保育技術の課題を見つけることができる」ことを評価基準とする。
テキスト	新版 遊びの指導 乳・幼児編（財団法人幼少年教育研究所／同文書院／2009）
参考文献	・幼稚園教育要領解説（文部科学省／フレーベル館／2018） ・保育所保育指針解説（厚生労働省／フレーベル館／2018） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018） ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭・保育教諭の実務経験のある教員が、保育内容「表現」にかかわる知識や技術を活かし、保育の場で実践される表現活動の構成と指導法について、保育者の視点から理解できる学修を実施する。
備考	・演習授業であることから意欲的に参加し、活動することを必要とします。 ・動きやすい服装で授業に臨むこと。 ・スマートフォンおよびタブレット、パソコンなどを使用する場合があるので、持参する。

年度	2026
講義コード	4092002
講義名称	幼稚園実習指導[幼教]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82394
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 深浦 尚子
小川 久恵

授業の目的と概要	事前指導では教育実習生として学校（幼稚園）の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では教育実習を経て得られた成果と課題等を省察すると共に、教員免許取得までに修得すべき知識や技能等について理解します。これらを通して教育実習の意識を理解します。
到達目標	・教育実習生として順守すべき義務等について理解すると共に、その責任を自覚したうえで、意欲的に教育実習に参加することができる。 ・教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、教員免許取得までに更に修得することが必要な知識や技能等を理解する。
授業の進め方	学外幼稚園実習に向け、グループワークやディスカッション、保育計画の作成等の演習、発表、講義を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、ディスカッションやグループワークを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びにつなげていくことを目指します
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（幼稚園実習の意義と目的）
第2回	幼稚園実習記録の作成について（日誌の振り返り、日誌記載における課題の確認
第3回	指導案作成① 保育実習における指導案の振り返りを踏まえた立案
第4回	指導案作成② 子ども理解・保育内容・指導法を踏まえた立案
第5回	幼稚園実習の研究課題の設定（実習園の概要、実習目標、実習内容）
第6回	幼稚園実習の振り返り（自己課題の振り返り、成果と自己課題の交流）
第7回	幼稚園実習のまとめ（自己課題の改善に向けて、実習記録の作成）、履修カルテの記入

事前・事後学修	【具体的な内容】 『幼稚園実習（基礎）付属認定こども園実習ハンドブック』と『実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習し、ノートにまとめてください。研究課題の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ1時間、計2時間を目安とします。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	提出物（指導案、実習報告レポートなど）： 7 0 % 「教育実習生として順守すべき義務等について、理解する」「意欲的に教育実習に参加することができる」「教育実習を通して得られた知識と経験を振り返り、自身の成果と課題を省察する」ことを評価基準とする。 ・授業のまとめ、各授業の感想等： 3 0 % 「教育実習生として教育活動に参画する意識を高める」「教育実習生としての責任を自覚する」「教員免許取得に必要な知識や技能等を理解する」ことを評価基準とする。
テキスト	実習ハンドブック
参考文献	幼稚園実習（基礎）付属認定こども園実習ハンドブック、実習記録

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、認定こども園園長、幼稚園教諭の実務経験のある教員が実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、修得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。
備考	・幼稚園実習（応用）を合わせて履修すること。 ・実習準備で制作をするときは、「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用します。 ・講義の内容によって、PCを使用する場合があります。

年度	2026
講義コード	4287003
講義名称	キャリア形成[幼教]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71141
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小川 久恵
山内 太郎

授業の目的と概要	社会人として必要な常識、態度などについて学びます。就職することについてや専門職についてを考察することにより、就職に対して具体的な理解を深めます。
到達目標	社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解を深めるとともに、保育者としての専門性について理解を深めることを目標とします。
授業の進め方	グループワークやディスカッション、資料作成等の演習を中心としながら、講義や外部講師講話を通して、課題の明確化等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説します。グループワークやディスカッションを通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びにつなげていくことを目指しています。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、自己分析①(ラーニンググラフを用いた自己分析)
第2回	自己分析②(目指す保育者像について)
第3回	就職活動について（キャリア支援センターより）、社会人に求められるマナーについて
第4回	外部講師講話①：就職すること、職業選択について
第5回	就職試験について（実技編）
第6回	就職試験について（一般常識編・専門知識編）
第7回	履歴書の書き方①(書き方のポイントについて・ワークシート)
第8回	履歴書の書き方②(履歴書作成)
第9回	求人票の見方
第10回	外部講師講話②：保育者として
第11回	就職までの手続きについて（キャリア支援センターより）、面接について①
第12回	面接について②

第13回	まとめ及び就職ガイダンス、就職活動についてレポート
------	---------------------------

事前・事後学修	【具体的な内容】 日頃から新聞やニュースなどで、最近の社会や企業の動き、世の中の動向を意識することを心掛けてください。 必ず前回の授業内容を復習し、自分の将来について具体的にイメージして出席してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間は合わせて、5時間を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎時のワークシート等の提出物60％「社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解し身につけることができる」「保育者としての専門性について理解を深める」ことを提出物の評価基準とする。 授業内レポート40％「社会人として豊かな生活を送るための必要な知識、態度などについて理解し身につけることができる」「保育者としての専門性について理解を深める」ことをレポートの評価基準とする。
テキスト	必要に応じてプリントを配布

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭の実務経験のある教員が、就職や専門職にかかわる知識・技術を活かして、働くことの意義や習得すべき専門的な知識・技能について、理解できる講義を実施します。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	4285001
講義名称	情報処理演習(データ活用)
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72132
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 安井 政樹

授業の目的と概要	春学期の情報処理演習に引き続き、ソサエティ5.0時代において、情報機器の必要性や課題について理解をした上で、それらをうまく活用しながら実生活に活かせるような基本的なスキルや知識を身に付けることが目的である。 そのために、情報セキュリティや情報モラルについて学ぶとともに、クラウドの理解、AIとの共存について学ぶことを大切にしていく。 実際に実データを用いたデータの収集や分析を行ったり、相手に伝わることを意識したプレゼンを作成し実際の発表したりするなど、アクティブラーニングを重視した学びを展開する授業である。
到達目標	【到達目標】 情報社会における情報活用能力の必要性や情報セキュリティ等を理解するとともに、タイピングやクラウド利用などの基本操作やofficeアプリの操作等ができるようにする。 実社会の実データを収集し実際に分析しながら、自分なりの考えをまとめてプレゼンをするを通して、ICT活用能力を育成し、養成情報機器操作の基礎スキルを身に付ける。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 (DP1)【専門知識・技能を活用する力】（知識・技能・判断力） 情報セキュリティや情報モラルなどの知識を得て、適切に端末を使うスキルや判断力を身につける。 (DP2)【コミュニケーション能力】（思考力・表現力・主体性・多様性・協働性） 相手意識をもち分かりやすくなるように表現を工夫した資料作成ができる。 (DP3)【課題を発見し、解決する力】（技能・思考力・判断力・表現力・主体性） 実社会のデータから課題を発見し、自分なりに考えを整理することができる。 (DP4)【多様性の理解と協働する力】（知識・主体性・多様性・協働性?関心） 情報セキュリティの必要性などについて、ディスカッションする経験を積みながら、協働する力を身に付ける。 (DP5)【能動的に学び続ける力】（思考力・主体性・意欲） タイピングや基本操作力について、自分の状況をもとに、計画的に自律した学習をできるようになる。 (DP6)【社会に貢献する姿勢】（主体性・多様性・協働性・意欲?関心） 社会に役立つデータの作成を通して、社会貢献の楽しさを感じることが出来る。
授業の進め方	アクティブラーニングを重視した演習形式での学びです。 一人一人が情報機器の基本操作をしながらスキルを高めると同時に、グループワークなどでコミュニケーションを取りながら共同的に学び、思考力を高めることも重視します。プレゼンテーション演習により双方向性のある授業も実施します

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で、学習の仕方についてはその都度フィードバックを行います。 また、課題についてはmanabaを用いて採点をし、改善点などがある場合にはコメントでフィードバックを行います。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・生成AI倫理

第2回	CANVAを活用した文書作成
第3回	実データの収集と分析
第4回	生成AI活用とExcel操作
第5回	課題解決演習
第6回	プレゼン作成とプレゼンスキル

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・学習したことをもとに、 操作練習をすることを求めます。 ・PC操作の基本として、 タイピング練習をし、 タッチタイピングができるように練習すること。 【必要な時間】 ・毎回、 主体的に予習復習を各2時間半程度することを求めます。事前学修および事後学修はそれぞれ5 時間以上を目安とします。
-----------------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	以下のABCDについて総合的に評価します。 A (60%)授業内での課題（10点x6回＝60点）1～6回目 B (10%)タイピングテスト(10点X1回＝10点）7回目 C (30%)毎回の授業内レポート(3点X7回＝21点） 毎回 D（9％） プレゼン発表会（9点×1） 7回目
テキスト	・ 授業内で必要に応じて資料を配布します。
参考文献	・ Officeソフトの各種書籍 ・ 情報セキュリティや情報モラルに関わる各種書籍

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	小学校において20年間の実務経験を有する。 文部科学省学校DX戦略アドバイザーとして、全国各地の幼稚園や子ども園を含む学校での指導助言の経験を活かし、本科目を展開する。
備考	・ 自分のノートPCで学習することを基本としますので、毎回持参して下さい。 ・ CANVAやChatGPTを登録しておきましょう。 ・ 本科目は、AIデータサイエンスプログラムを構成する科目です。

年度	2026
講義コード	4288002
講義名称	キャリア基礎演習[幼教]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72142
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小川　久恵
山内　太郎

授業の目的と概要	社会人・保育者になるための学びにはどのような種類や体系があるか、どのような資質・態度が求められるかを理解します。また、社会人・保育者を目指すための目標や課題を自分自身で具体的に考えられることを目指します。
到達目標	・自分が目指す社会人像・保育者像を具体的に描き、その実現に必要な自己課題を明確にする。 ・自分のライフプラン・キャリアプランを描き、その実現に必要な目標を立て、資質・態度を説明できる。
授業の進め方	フィールドワークやディスカッション、資料作成等の演習を中心としながら、課題の明確化等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
フィールドワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説します。フィールドワークやディスカッションを通して、多様な考えや学びを知ることから自分の考えや学びにつなげていくことを目指しています。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション、自己分析
第2回	実習評価票から考える保育者に求められる資質/保育者とは？
第3回	金融リテラシーについて
第4回	ストレス解消法を身につける
第5回	フィールドワーク①保育職に求められる専門性
第6回	フィールドワーク②支援が必要な子どもへのかかわり
第7回	まとめ(授業内レポート)

事前・事後学修	【具体的な内容】 日頃から新聞やニュースなどで、最近の社会や企業の動き、世の中の動向を意識することを心掛けてください。 必ず前回の授業内容を復習し、自分の将来について具体的にイメージして出席してください。 【必要な時間】 予習・復習の時間は合わせて、2．5時間を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎時のワークシート等の提出物60％「自分が目指す社会人像・保育者像を具体的に描き、その実現に必要な自己課題を明確にする」ことを提出物の評価基準とする。 授業内レポート40％「自分のライフプラン・キャリアプランを描き、その実現に必要な目標を立て、資質・態度を説明できる」ことをレポートの評価基準とする。
テキスト	必要に応じてプリントを配布

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭の実務経験のある教員が、就職や専門職にかかわる知識・技術を活かして、働くことの意義や習得すべき専門的な知識・技能について、理解できる講義を実施します。
-------------------	---

年度	2026
講義コード	4290001
講義名称	住生活論
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72123
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 早川 陽子

授業の目的と概要	生活とは何か、ということを構造的に考察し、生活の原点である住まいを家族、歴史、住環境、インテリアとのかかわりから学習します。 北海道の住宅の歴史と特徴も学びます。 みなさんが近い将来、快適で豊かな住まいを創ってゆくために、賢い消費者として必要な知識を修得します。
到達目標	人間にとっての住まいの大切さや基礎知識を理解し、自分の住まいや暮らす地域に関心を持つことで将来の暮らし方を想像出来るようになります。 講義で習得した知識をもって「私らしい住まい」を設計します。 特に2つの演習は住まいへの関心を促し、より良い暮らし方の意欲につながります。 演習1は、現在の暮らしを把握し、問題点の改善、解決方法を考え、演習2につなげます。 演習2は、将来の暮らし方を想像し、技能や表現方法を講師とコミュニケーションを取りながら進め完成させます。 間取りを完成させ、暮らし方の視点から説明出来ることが目標です。
授業の進め方	一般の講義の形で配布するプリントを使いながら授業を進めます。 写真・図や実例などを用いて、具体的に説明してゆきます。 演習は2題あり、1題は「自分の育った家」を考察します。 もう1題は「私らしい住まいの設計」を暮らし方の視点から設計します。 授業内にテストを1回実施します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題1「私の育った家」自分にとって家とは家族とは何かを確認し、課題2へつなげます。 課題2「私らしい住まいの設計」は、近い将来の職業や暮らし方を想像し、それまでの講義内容と関連付けて間取りを完成させます。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	住生活とは何か…住生活と衣・食・住の関係、生活と住空間の関係	対面
第2回	住生活と住空間…あなたにとって「家」とは、家族と住生活の変化、暮らしと住まいの変化、暮らしと住まいのかたち、ライフテージ・ライフスタイルとは	対面
第3回	【演習1】私の育った家（1）実技、私の住まい歴、間取り図と暮らし方を描く、住まい方の見直しと自分が望むことの考察	対面
第4回	【演習1】私の育った家（2）発表、講評、提出	対面
第5回	住まいと住まい方のルーツ…原始から現代まで、床の変化（土間、床、畳）と暮らし方の変化	対面
第6回	住まいはどのように建てるのか…世界の伝統的な住まい、住まいの材料と構造 北海道のすまいづくり…歴史と暮らしかた（DVD） 授業内試験	対面
第7回	授業内試験の回答 北海道のすまいづくりの解説 アイヌの住まいと暮らし 北海道の豊かな暮らしとすまいづくり（DVD）	対面
第8回	住環境と私たちの生活（1）・・・健康的な住環境の為に、採光と換気、シックハウス	対面

第9回	住まいの室礼（しつらい）とインテリアデザイン テーマ別インテリア、インテリアカラー、住まいの歳時記、ユニバーサルデザイン	対面
第10回	住まいを選ぶ 一戸建てとマンションの比較 住まいを選ぶ…３つの住まいから	対面
第11回	【演習２】私らしい住まいの設計（１）課題の説明、実技、ゾーニングと間取り	対面
第12回	【演習２】私らしい住まいの設計（２）実技、間取りとインテリア	対面
第13回	【演習２】私らしい住まいの設計（３）実技、完成作品の発表、提出	対面

事前・事後学修	予習 次回の講義プリントを読み、質問があれば用意。２時間３０分 復習 講義で作成したプリントの内容を確認し、疑問は次回に質問。２時間３０分
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内試験（１回） 基礎知識（住生活、住まいの歴史、工法）と北海道の住まいづくりの理解度を試験の評価基準とします。３０％ 演習（１）（実技２回）今の暮らしと住まいを分析し課題を見つけ解決することが出来ることを評価基準とします。提出物で評価します。３０％ 演習（２）（実技３回）授業で得た知識をもって理想とする暮らしと住まいを間取り図で表現し、発表します。提出物で評価します。４０％
テキスト	講師作成のプリントを使います
参考文献	図説テキスト 住居学（岸本幸臣編・彰国社） 北海道の住宅事情と北方型住宅（一財 北海道建築指導センター） 子どもをはぐくむ住まいづくり（一社 北海道建築士会）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、1978年から建築設計監理業務に携わりながら、1983年に一級建築士資格を取得し、住宅や公共施設の設計をはじめ、長年にわたり豊富な実務経験を積んできました。北海道の住宅設計の現場で培った知識と技術を基に、住生活の基礎知識と設計演習を組み合わせ、実践的な学びを提供する講義を展開します。
備考	近い将来、あなたはどのような職業についていますか。 その時の暮らしの場として住まいはどうあってほしいでしょうか。 将来の生活に夢を持って授業に取り組んでください。

年度	2026
講義コード	4316001
講義名称	情報特別演習【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82212

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の目的と概要	コンピュータやネットワークに関する知識を学び、例題を解いていくことで、ビジネスにおいてITを利活用する実践的な知識を学びます。 目標として、日商PC検定（データ活用）の受験体制を整えます。
到達目標	① 情報処理に関する基礎的な事柄を理解し、活用する知識と態度を身につける。 ② コンピュータ関連検定に対応できる、基礎的な知識を身につける。
授業の進め方	日商PC検定における知識問題の演習問題を出題し、解説することを進めます。 この授業はオンデマンド授業となるため、WebClassを通じた出題と説明が中心となります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業で出題された問題や質問は、WebClassを通じて回答します。 また授業の冒頭で、全体的な回答を行います。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス／共通分野の問題（１）	オンデマンド
第2回	共通分野の問題（２）	オンデマンド
第3回	共通分野の問題（３）	オンデマンド
第4回	データ活用分野の知識 解説と問題（１）	オンデマンド
第5回	データ活用分野の知識 解説と問題（２）	オンデマンド
第6回	データ活用分野の知識 解説と問題（３）	オンデマンド
第7回	授業のまとめ、模擬試験	オンデマンド

事前・事後学修	授業はオンデマンド授業となるため、動画による学修となります。動画内では小テストも実施しますので、確実に回答するようにしましょう。 また、質問は随時メールやWebClassなどで受け付けますが、授業内でも紹介することがあります。 授業時間外でも研究室などで随時質問は受け付けています。 事前事後学修は合わせて5時間程度を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業での提出物 70% まとめ問題等 30% 日商PC検定の受験・合格については評価にプラスします。
テキスト	テキストは使用しませんが、参考になる資料等はWebClassで共有することがあります。
参考文献	この分野については多くの参考になる書籍があります。 それらも活用することで効果的に理解を進めることができます。

年度	2026
講義コード	4291001
講義名称	[夏集]衣生活論
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72122
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 畑 育実

授業の目的と概要	人が被服を着用する目的と効果を知り、フォーマルと普段着の違い、素材や特徴を学び、社会生活において衣装の役割りや機能、心理的側面を理解しコミュニケーションを円滑にする方法を学ぶ
到達目標	衣生活の生理的側面、社会心理的側面を理解し、人にとっての被服の関りかた、目的と効果を説明することができる。 素材の特性と特徴をの習得により、衣生活においての外面的アプローチができ、企業提案では自主性、情報収集力、積極性、分析力、発信力が我々のファッション生活の一部になることを実践を通して理解し、協調性をもって完成させることができるようになる。
授業の進め方	講義で習得した知識を応用し、企画や実践を個別に、またはグループワークで提案する

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	<小テスト> 授業後の質疑応答の時間に確認、およびアンケートを実施し内容の確認 <試験> 設定した内容の完成度の確認を当日に総評
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス～授業目的と今後の内容、衣生活について	対面
第2回	テキスタイルブック作成、オシャレとは、衣服から見える印象、フォーマルウェアとデザインについて	対面
第3回	フォーマルウェアと普段着の違い	対面
第4回	フォーマルウェアのルール、プロトコールについて	対面
第5回	1～4回の中間チェック	対面
第6回	和服について	対面
第7回	条件付きのデザイン企画提案1	対面
第8回	条件付きのデザイン企画提案2	対面
第9回	テーマに合わせた衣装デザインの企画提案1	対面
第10回	テーマに合わせた衣装デザインの企画提案2	対面
第11回	テーマに合わせた衣装デザインの企画提案3	対面
第12回	テーマに合わせた衣装デザインの企画提案4	対面

第13回	定期試験 テーマに合わせた衣装デザインの企画提案	対面
------	-----------------------------	----

事前・事後学修	1・2回目 素材帳を作成するためのルーズリーフかノート、ファイル、ハサミ、ノリ、テープなど用意持参 <事後学習> 予習・復習を含めて2時間30分程度の目安とする
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業内試験60％ 小テスト20％(振り返りアンケート)
テキスト	フォーマルウェアルールブック

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	有限会社DADDIKU fashion 代表取締役。主にTV、タレントなどのスタイリスト＆ヘアメイクアーティスト＆ファッションデザイナーとして活動し、美の総合プロデュースを行うイメージカウンセラーとして、プロ養成講座のスクール、企業などに基礎知識から応用まで実践を通して職業観教育と専門技術をマスターする講習を実施している
-------------------	---

年度	2026
講義コード	4297001
講義名称	健康・医学
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81641
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 時野 香里

授業の目的と概要	人々の健康は個々が暮らしている環境から大きな影響を受けている。社会、自然、職場、学習などの我々を取り巻く状況が影響因子として考えられる。 本講義ではストレスの多い現代において健康を維持するために重要な要素である栄養、運動、保養等について日常生活に即した身近な話題を取り上げ、 必要な基礎知識の習得を目標とする。 栄養については薬膳について学び、調理実習を行う。保養については 学生自身が主体となりリラククス方法を考え、実践する。 効果についてはリラククスの指標は関係の深い因子としていられているアミラーゼ活性の測定値を用いて検討する。 また、講義内で応急講習を行い緊急時の人命救助について学び、技術を習得する。
到達目標	健康の維持・増進のために必要な栄養・運動・保養の重要性について理解できる。 薬膳の考えを知り自分の体質に合った献立を考えることができる。 日常生活における病気における予防の方策について知り理解できる。 身近な疾患について理解することができる。
授業の進め方	教室内での講義は、パワーポイントやプリントを用いて資料を視覚的に呈示する。講義の前半は講師による講義、後半はそれぞれが提示された課題に取り組む。 そのテーマについて必要な場合はディスカッションを行う。 体験的な講義は与えられた課題を自身やグループで取り組み結論を導き出す。 オンデマンドも併用することもあり、その際は1週間以上前に講義内キャンパスプランないで告知する。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義後にはレポートを課す。課題には毎回の講義の感想を記載することとし、学生の理解度を確認する。次回の講義でレポートに関する講評や記載された質問に関して回答し、必要があればディスカッションを行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 授業の説明 講義の内容、講義方法についての説明をおこなう。 健康寿命や身近な疾患について① 生活習慣病について学ぶ。	対面 オンデマンド
第2回	保健機能食品・サプリメントビタミンについて 日焼け アンチエイジングに有効な成分について学ぶ。 保健機能食品と一般の食品の違いについて 効果的なサプリメントの活用法について学ぶ。	対面 オンデマンド
第3回	応急講習について 応急講習の動画による学習し学習後修了証書を提出する。	対面 オンデマンド

第4回	応急講習について 第4回、第5回連続で行う。 応急講習用モデル人形を用いて胸部圧迫の方法を実践する。 助けを呼ぶ、消防署への救急車要請の電話のかけ方などを学ぶ。 また異物除去のハイムリック法などのついても学ぶ。 リラックス実験の計画を立てる。	対面 土曜日
第5回	応急講習について 第4回、第5回連続で行う。 応急講習用モデル人形を用いて胸部圧迫の方法を実践する。 助けを呼ぶ、消防署への救急車要請の電話のかけ方などを学ぶ。 また異物除去のハイムリック法などのついても学ぶ。 リラックス実験の計画を立てる。	対面 土曜日
第6回	薬膳について 薬膳の考え方、陰陽論、五行説、気血について学ぶ。 薬膳での自分の体質を知る。	対面 オンデマンド
第7回	身近なものに含まれるビタミンCの測定実験 普段飲んでいる飲料の中に含まれるビタミンCを測定する。 手洗いチェッカーを用いた手洗いの重要性 模擬汚れを手に塗り、普段通りの手洗いをを行い、手洗いチェッカーを用いて自身の行う手洗いが適切であるかを調べる。 どちらも、実験的な内容となる。	対面
第8回	リラックスの実験 第8回、第9回連続で行う。 健康における保養の重要性を明らかにする。 各班で考えたリラックス方法が体に与える効果をアミラーゼ活性を測定することで明らかとする。	対面 土曜日
第9回	リラックスの実験 第8回、第9回連続で行う。 健康における保養の重要性を明らかにする。 各班で考えたリラックス方法が体に与える効果をアミラーゼ活性を測定することで明らかとする。 実験結果をまとめ、考察する。	対面 土曜日
第10回	薬膳について 食材の四気、献立作成 ここまでの薬膳の知識を用いて、自分の体質にあった献立を考える。 調理実習の説明 身近な疾患について② 自身が興味のある疾患について学ぶ。	対面 オンデマンド
第11回	薬膳調理実習 第10回、第11回連続で行う 作成した献立、食材を用いて調理自習を行う。 それぞれの食材の薬膳としての効果を学ぶ。	対面 土曜日
第12回	薬膳調理実習 第10回、第11回連続で行う 作成した献立、食材を用いて調理自習を行う。 それぞれの食材の薬膳としての効果を学ぶ。	対面 土曜日
第13回	研究発表会 第8回、9回で行ったリラックスの実験について、方法、結果や考察をスライドにまとめグループごとに発表を行う。 結果、考察に関してデスカッションを行う。	対面

事前・事後学修	事前学修および事後学修は合わせて5時間以上を目安とする。
---------	------------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	この講義では試験は行わない 講義内（事後）課題 40% ディスカッション力 10% 体験講義課題 40%
テキスト	講義内で配布した資料

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある 教員の経歴と授 業内容	担当教員は、薬剤師としての実務経験を基に、薬学博士やスポーツファーマシストの資格を取得し、医療事務や調剤薬局事務の検定合格、さらに応急講習指導員資格取得予定など、幅広い専門スキルを持っています。この豊かな経験を基に、医療と薬学の実践的な知識を提供する講義を展開します。
備考	実習に関しては実費がかかる場合もあり。（昨年度は徴収なし） 講義予定13コマ中、対面講義5回で（8コマ）、他はオンデマンド5回で（5コマ） 対面講義には土曜日の講義（3回登校 6コマ分）が含まれる予定。 オンデマンドも併用（今年度は5コマを予定）、試験期間は1週間で講義内キャンパスプラン内で告知（1週間以上前に告知する）。

年度	2026
講義コード	4309001
講義名称	調理実習(応用)【ブレA】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	ブレンド(A)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72811
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 和久田　紗恵子

授業の目的と概要	多種多様な目的に応じた調理知識と技術を習得することは、人間生活を豊かにし心身ともに健全な食生活をおくる上で大きな意義を持ちます。本科目では健康で自律的な食生活の実現に向けて、調理に関する基本知識と技術を習得すること、応用可能な調理手法について実習を通して実践的に学ぶことを目的とします。
到達目標	各種食品を用いて、目的に応じた料理構成や調理手法を学び、食卓の演出等が的確に行える知識と技術について習得することを目標とする。
授業の進め方	講義と実習形式

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内やLMSを通じて解説します。
----------------------------	-------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション・調理実習室の使用方法について・アレルギー調査	
第2回	調理実習（和食）	
第3回	振り返り・実習記録ノート作成	オンデマンド
第4回	調理実習（洋食）	
第5回	振り返り・実習記録ノート作成	オンデマンド
第6回	調理実習（中華）	
第7回	振り返り・実習記録ノート作成	オンデマンド
第8回	調理実習（和食）	
第9回	振り返り・実習記録ノート作成	オンデマンド
第10回	調理実習（洋食）	
第11回	振り返り・実習記録ノート作成	オンデマンド
第12回	調理実習（行事食）	
第13回	振り返り・実習記録ノート作成・まとめ	

事前・事後学修	実習記録ノート作成にむけて、毎回の授業内容と留意点を正確に記録し、適切に分りやすくまとめてください。また、小レポートを作成するため関連資料を収集しまとめてください（事前事後学修各2時間程度）。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実習記録ノート：50％ その他提出物：50％
テキスト	適宜プリント配付
参考文献	調理に関する書籍等。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、東海大学医学付属大磯病院の栄養科において2008～2015年の勤務経験があり、患者の栄養管理や食事指導に携わりました。その実務経験を基に、栄養学の実践的な視点を学べる講義を展開します。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	4324001
講義名称	ブライダル演習
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82431
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 竹島 鉄也

授業の目的と概要	ウェディングプランナーとして、披露宴をプランニング・プロデュースするために必要な知識・技能を学びます。 そして、学生がプロデュースした模擬披露宴を行うことにより、ブライダルに関する経験や興味を深めます。 また、本授業を通して発想力とプレゼンテーション能力、発信力などの向上と併せ結婚披露宴のシーンに必要なマナーなども習得します。 授業の中で、教員からの説明や動画を視聴し基本を学ぶため、結婚式に参列経験がない学生でも、問題なく履修が出来ます。
到達目標	1.プランニングの基本知識を習得する事。 2.履修生全員が協力し合って、細部にまでこだわり抜いた模擬披露宴を創り上げることにより、人を感動させるポイントや結婚披露宴の意義や楽しさなどを理解する事。
授業の進め方	.プリントや関連資料を配布し、基礎学習を行います。 2.実際の披露宴の動画を視聴し、プログラムの組立てや必要なアイテムなどの理解を深めます。 3.グループワークにより、グループごとにテーマを決め実現可能な模擬披露宴のプランニングを行います。 4.各グループごとにプレゼンテーションを行い、グランプリを決定します。 5.グランプリを獲得したプランに基づいて、模擬披露宴に必要な製作物などを各グループに割振り、作業を行います。 6.札幌市内ホテルのパーティ会場を貸切り、模擬披露宴を行います。新郎新婦役は学生がモデルになります。他の履修生はゲストとして、料理・飲み物を楽しみながら本格的な披露宴を実習・体験できます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や実習内容については授業内で随時、解説します。
----------------------------	---------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	・ガイダンス ・結婚式や結婚披露宴の意義 ・プランニングの基本	対面
第2回	・演出やコーディネートの考え方	対面
第3回	・実際の披露宴動画を視聴	対面
第4回	・グループ結成 ・プランニング 1	対面
第5回	・プランニング 2	対面
第6回	・プランニング 3 ・プレゼンテーション	対面
第7回	・プレゼンテーションの結果発表と作業分担 ・グループごとに製作作業1	対面

第8回	・グループごとに製作作業2	対面
第9回	・グループごとに製作作業3	対面
第10回	・グループごとに製作作業4	対面
第11回	・フィールドワーク（市内ホテルの会場を貸切り、模擬披露宴の実施）	対面
第12回	・フィールドワーク（市内ホテルの会場を貸切り、模擬披露宴の実施）	対面
第13回	・振り返りとまとめ	対面

事前・事後学修	SNSやテレビ、雑誌などからウェディングシーンに触れ、イメージを膨らませ、参考になりそうな材料を収集しておいてください。 事前学修および事後学修は合わせて1～2時間を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	グループワークでの取り組みや発言状況　70％ 期末レポート　30％
テキスト	適宜、プリントを提示・配布します。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、永年、ブライダル業界やホテル業界において、ウェディングプランナーや人材育成、ウェディングプロデュース等の実務経験のある教員が担当します。
備考	フィールドワーク（模擬披露宴）の実施は、２０２６年７月の土・日曜日または祝日を予定しています。 披露宴は本来、高額な費用が掛かりますが、そのほとんどは大学が負担します。 履修生は披露宴での飲食代として、お一人5,000円～6,000円程度の自己負担金があります。

年度	2026
講義コード	4385001
講義名称	子どもの音楽(応用)
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82187
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 伊藤 柱子

授業の目的と概要	保育職に必要な音楽に関する基礎的な知識と技能を発展させ、身につけた知識と技能をより実践的に使うことを目指します。
到達目標	①子どもの発達を踏まえた音楽表現のための実践的な知識について理解している。 ②子どもの音楽表現に必要な実践的な音楽理論について理解している。 ③子どもの音楽表現に必要なピアノや楽器の使い方、歌唱についての発展的な方法が身についている。
授業の進め方	音楽の基礎的な知識、技術を確認した上で、学生自身が音楽の技術を活用していけるように、実技を多く交えながら丁寧に進めていきます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業終了時に提出するコミュニケーションシート（一言感想）を基に、次回の授業時に課題に対する具体的な助言をおこないます。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／子どものうたの新譜に挑戦
第2回	コード奏のバリエーション
第3回	コード奏のバリエーション～伴奏のアレンジ
第4回	定番の子どものうたの楽曲分析
第5回	簡単な作曲の実践
第6回	簡単な作曲の実践～コード進行を考えて
第7回	期末試験、まとめ

事前・事後学修	授業内で扱った課題について、演奏や演習の復習が必要です。 事前事後各1時間程度の学修（練習）を目安としますが、 ピアノと同様に、技術を身につけるためには毎日の練習の積み重ねが必要です。 事前学修および事後学修は合わせて2時間を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・実技試験 50％（授業内で扱った課題について、到達目標①②③を評価基準とする） ・レポート 30％（授業内で扱った課題について、到達目標①②③を評価基準とする） ・毎時の取り組み 20％（課題への取り組みについて、到達目標①②③を評価基準とする）
テキスト	・こどものうた200（チャイルド本社） ※複数科目共用 ・ゆびトレ（本学オリジナル教材）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	ピアニスト、演奏家としての実務経験（演奏活動）や、指導者としての経験を活かして、技術を習得していけるように授業を進めます。
-------------------	---

年度	2026
講義コード	4368001
講義名称	外国語コミュニケーション（基礎）
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：71121

担当教員

氏名
◎ 富田 敏明

授業の目的と概要	本講義では、保育者として必要な基本的な英語表現を身に付ける。また、適宜、英語の歌やゲーム等の活動を通して、保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を育成する。
到達目標	・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。 ・マザーグース等の英語の歌を、リズム、発音に注意しながら、楽しんで歌うことができる。
授業の進め方	実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション Unit 1 What's your name?	対面
第2回	Unit 1 What's your name? 関連した英語の活動（歌、マザーグース）	対面
第3回	Unit 2 Where are you from? 関連した英語の活動（英語の絵本の読み聞かせ）	対面
第4回	Unit 2 Where are you from? 確認テスト① 関連した英語の活動（英語の歌、マザーグース）	対面
第5回	Unit 3 Where are you from? 関連した英語の活動（英語の歌、マザーグース）	対面
第6回	Unit 3 Good morning! 関連した英語の活動（英語の絵本の読み聞かせ）	対面
第7回	確認テスト② 関連した英語の活動（英語の歌、マザーグース）	対面

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。（2時間） ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。（3時間） ・演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・パフォーマンス等の言語活動　３０％ ・毎回の課題等　　　　　　　　３０％ ・小テスト、確認テスト　　　　４０％
テキスト	Speaking of Childcare (Peter Vincent & Naoko Nakazono) NAN'UN-DO
参考文献	・「英語うたの絵じてん」「英語うたの絵じてん２」　三省堂編集所　（三省堂）

備考	・ Be helpful. ・ Be friendly. ・ Be active. ・ Be creative. ・ Be ambitious.
----	--

年度	2026
講義コード	4369001
講義名称	外国語コミュニケーション（応用）
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：72123

担当教員

氏名
◎ 富田　敏明

授業の目的と概要	本講義では、外国語コミュニケーション（基礎）の内容を踏まえ、保育者として必要な基本的な英語表現を身に付ける。また、適宜、英語の歌や英語の絵本の読み聞かせ等の活動を通して、保育者として英語を使う楽しさを子どもたちに伝えることができる指導力を育成する。
到達目標	・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。 ・マザーグース等の英語の歌を、リズム、発音に注意しながら、楽しんで歌うことができる。 ・平易な英語の絵本の読み聞かせができる。
授業の進め方	実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説するとともに、特にパフォーマンスの課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Unit 4 Are you OK? 第1 Quarter で使用した絵本の復習、読み聞かせ	対面
第2回	Unit 4 Are you OK? 関連した英語の活動（英語の歌、マザーグース）	対面
第3回	Unit 5 What are you doing? 関連した英語の活動（英語の絵本の読み聞かせ）	対面
第4回	Unit 5 What are you doing? 確認テスト① 関連した英語の活動（英語の歌、マザーグース）	対面
第5回	Unit 6 How are you feeling? 関連した英語の活動（英語の歌、マザーグース）	対面
第6回	Unit 6 How are you feeling? 関連した英語の活動（英語の絵本の読み聞かせ）	対面
第7回	確認テスト② 関連した英語の活動（英語の歌、マザーグース）	対面

事前・事後学修	[具体的な内容] ・テキストで使用する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。（2時間） ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。（3時間）
---------	--

	・ 演習等に取り組む際は、何回も練習をして臨みましょう。 → 予習・復習の時間はそれぞれ5時間を目安とします。
--	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ パフォーマンス等の言語活動 30 % ・ 毎回の課題等 30 % ・ 小テスト、確認テスト 40 %
テキスト	Speaking of Childcare (Peter Vincent & Naoko Nakazono) NAN'UN-DO
参考文献	・ 「英語うたの絵じてん」「英語うたの絵じてん2」 三省堂編集所 (三省堂)

備考	・ Be helpful. ・ Be friendly. ・ Be active. ・ Be creative. ・ Be ambitious.
----	--

年度	2026
講義コード	4396001
講義名称	[夏集]保育実習Ⅲ(施設)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82397

担当教員

氏名
◎ 山内 太郎
深浦 尚子
森岡 毅

授業の目的と概要	本科目は、卒業後に施設保育士として働きたいと思っている学生が履修していることを想定している。したがって、保育実習Ⅰにおいて経験した施設実習を踏まえた、より専門的ななかかわりの習得が目的となる。
到達目標	施設保育士としての仕事のおもしろさと難しさを体験的に語れるようになる。
授業の進め方	学外における保育所以外の児童福祉施設での実習を行う。実習先によっては宿泊を伴う場合がある。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習先の職員からの助言に加えて、実習終了後は関連する実習指導科目において振り返りを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	実習期間は10日間となる。 講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解がすでに習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得られたことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。 実習の内容については、実習先によって異なるが、大まかには以下のとおりである。 ・施設機能の理解（入所・通所児童の理解含む） ・保育実習指導において設定した実習課題への取り組み ・個別的なかかわりを深める（ケース研究的なかかわり） ・設定保育（行わない場合もある） ・実習のまとめ、反省 ・実習終了後、レポート提出（実習課題についてレポートにまとめる） 実習先によっては関連する地域の諸機関での実習も含まれる。

事前・事後学修	【具体的な内容】 1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。 実習終了後は実習報告書の作成する。 【必要な時間】 実習科目のため一律に必要な時間を設定することはできない。各自の自覚が必要。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実習への取り組み20％ 提出物30％ 評価表50％
テキスト	特になし
参考文献	実習先より適宜提示される

年度	2026
講義コード	4393001
講義名称	幼稚園実習（基礎）
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81091
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小川 久恵

授業の目的と概要	本講義では幼稚園・認定こども園での実習を通して保育者としての在り方や子どもとのかかわり方ついて体験すること、課題意識を持って実習に取り組み、保育者に求められる態度・姿勢、資質・能力について知ることを目的とします。 また、学内研修を通して、保育者に求められる態度・姿勢、資質・能力を身につけることを目的とします。
到達目標	・子どもとかわることへの関心や意欲をもつことができる。 ・保育者として求められる他者との意見交換をしたり、協働で作業したりすることを大切にする態度を身につけることができる。
授業の進め方	幼稚園・認定こども園での実習と、学内研修をローテーションで行います。学内研修では保育技術や指導案作成等のグループワーク、また、弾き歌いや模擬保育等の演習、発表を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークや演習、発表等を通して、他者の考えや学びを知ることから自分の考えや学びに繋げていくことを目指します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・授業計画と学内研修説明、個人票・日誌などの配布 学内研修(手遊び)
第2回	学内研修(弾き歌い)
第3回	学内研修(読み聞かせ)
第4回	学内研修(制作)
第5回	学内研修(日誌の書き方・指導案)
第6回	学内研修(模擬保育)
第7回	実習事前指導
第8回	幼稚園・認定こども園実習①
第9回	幼稚園・認定こども園実習②
第10回	幼稚園・認定こども園実習③
第11回	幼稚園・認定こども園実習④
第12回	幼稚園・認定こども園実習⑤
第13回	実習事後指導・まとめ

事前・事後 学修	【具体的な内容】 『幼稚園実習(基礎)実習ハンドブック』を精読し、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノートにまとめてください。実習目標の設定や自己課題の設定時に課題を出題します。 また、学内研修の内容を振り返り、幼稚園・認定こども園での実習に向けて知識・技能の向上を目指して復習に取り組んでください。
	【必要な時間】 予習・復習の時間は合わせて2時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・幼稚園・認定こども園の実習評価（日誌を含む）５０％「子どもとかわることへの関心や意欲をもつことができる」ことを実習評価の評価基準とする。 ・学内研修(各活動)における提出物・発表等　５０％「保育者として求められる他者との意見交換をしたり、協働で作業したりすることを大切にする態度を身につけることができる」ことを提出物・発表の評価基準とする。
テキスト	『幼稚園実習（基礎）実習ハンドブック』 『実習ハンドブック』
参考文献	『こどものうた200』（チャイルド社）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる講義を実施します。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	4394001
講義名称	幼稚園実習（応用）
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	3単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82393
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 深浦　尚子
小川　久恵
富田　敏明
森岡　毅

授業の目的と概要	教育実習（幼稚園実習）は、将来教員（幼稚園教諭）になる上での能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会として行われます。実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育（幼稚園教育）の実際を体験的、総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身につけることを目的とします。
到達目標	・ 幼児の活動や環境等に対して適切な観察を行うとともに、教育実習園の幼児の実態と、これを踏まえた園経営及び教育活動の特色を理解するため、幼稚園実務に対する補助的な役割を担うよう行動できる。 ・ 大学で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育の実践を通して身に付けることができる。
授業の進め方	8月下旬から3週間、学外の幼稚園で実習を行います。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
フィールドワーク　体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	実習終了後、実習日誌、レポート等を作成し、「幼稚園実習指導」の中で事後指導を行います。 また「学外幼稚園実習記録」の作成に取り組み、記録集として発行し、各自の課題を明らかにするとともに課題点の共有を図ります。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	着任式／観察実習 ※実習前に実習園を訪問し、オリエンテーションを行う
第2回	観察実習
第3回	観察実習、参加実習
第4回	観察実習、参加実習
第5回	観察実習、参加実習
第6回	参加実習
第7回	参加実習
第8回	参加実習

第9回	参加実習、部分実習
第10回	参加実習、部分実習
第11回	参加実習、部分実習
第12回	責任実習
第13回	参加実習／反省会／離任式

事前・事後学修	【具体的な内容】 『実習ハンドブック』と『幼稚園実習（基礎）ハンドブック』をよく読み、実習のねらいや実習準備のポイント等を予習しノート等にまとめてください。 また、幼稚園実習（基礎）や幼稚園実習指導での講義内容と、付属認定こども園実習で気付いたことや各幼稚園での事前オリエンテーションの内容、各自の研究課題に沿って、実習で必要となる指導案や実習グッズの作成、手遊びや読み聞かせ、楽器の練習等を行ってください。また一日ごとの日誌の作成や、課題点の整理などを行ってください。 【必要な時間】 予習・復習に必要な時間合わせて2時間を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・実習園評価 70%「幼稚園実務に対する補助的な役割を担うよう行動できる」「大学で学んだ専門的知識・技術を実践を通して身につける」ことを評価基準とする。 ・提出物（実習日誌など） 20%「幼稚園実務に対する補助的な役割を担うよう行動できる」「大学で学んだ専門的知識・技術を実践を通して身につける」ことを評価基準とする。 ・事前事後指導 10%「大学で学んだ専門的知識・理論・技術等を理解し説明できる」ことを評価基準とする。
テキスト	『実習ハンドブック』
参考文献	『幼稚園実習（基礎）ハンドブック』 前年度『学外幼稚園実習記録』

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は認定こども園園長、幼稚園教諭、学校教員の実務経験のある教員が、実習にかかわる知識・技術を活かして、教育実習の意義、習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できる学びのサポートをします。
備考	・幼稚園実習指導を合わせて履修すること。 ・実習費23,000円（2025年度参考）

年度	2026
講義コード	4395001
講義名称	[夏集]保育実習Ⅱ(保育所)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82396

担当教員

氏名
◎ 山内 太郎
深浦 尚子
富田 敏明

授業の目的と概要	保育所での実習を通して、保育士として必要な知識・技能を身につける。この科目は1年次の保育所実習の発展版と位置付けられるので、学生には実際に現場に立つ卒業後の自分自身を想定しながら、より専門的に学ぼうとする姿勢が求められる。
到達目標	保育現場に立つ者としての自覚ある態度で取り組み、自分自身の課題を明確にする。有意義な実習を行い、保育者として必要な知識・技能をさらに高める。
授業の進め方	基本的には、1年次に実習した保育所で行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	職員からの助言に加えて、実習終了後に関連する実習指導科目で振り返りを行う。
----------------------------	---------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	実習期間は10日間となる。 講義の目的にあるように、この実習は基本的な施設理解が既に習得されているという前提で行われる。そのため、1年次の実習において得たことを踏まえ、さらに課題を設定して行うことが望まれる。 実習の内容については、実習先によって多少異なるが、大まかには以下の通りである。 ・課題の設定 ・部分実習（時間をいただき、絵本の読み聞かせやゲーム、制作等の活動をする。） ・完全実習（仕上げの段階で、クラスの保育を初めから終わりまで一通り任される。） ・実習のまとめ、反省 ・実習終了後、レポート提出（実習前に設定した課題について、レポートにまとめる。） 実習期間中、3歳未満時（0・1・2歳）、3歳児、4歳児、5歳児の各クラスに入ったり、縦割りによる異年齢混合クラスに入って実習を行う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習として1年次の振り返りをしっかりとしておくこと。 事後学習として実習報告書の作成に取り組むこと。 【必要な時間】 実習科目のため事前学習は何時間必要かは学生によって異なるが、おおむね予習・復習にかかる時間はそれぞれ2時間半を下回らない。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業への取り組み20% 提出物30% 評価表50%
テキスト	特になし
参考文献	実習先で示される。

年度	2026
講義コード	4414002
講義名称	保育・教職実践演習（幼稚園）[幼教]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80571
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小川 久恵
森岡 毅

授業の目的と概要	本講義では、これまで学修してきた実習を含む全ての科目を通して、幼児理解のための理論及び方法が形成されてきたかを振り返ります。それらを踏まえ、保育者になる上での自己課題を明確化し、改善に取り組む中で、保育者に必要な資質・能力を高めます。
到達目標	幼稚園、保育所、認定こども園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び、過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。
授業の進め方	グループワークやディスカッション、模擬保育等の演習を中心にしながら、記録からの省察や課題分析等を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワークやディスカッションを通して他者の考えや学びを知り、自分の考えや学びにつなげていくことを目指します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション（履修カルテから自己課題を設定）
第2回	自己課題の設定① 幼稚園実習の振り返り
第3回	自己課題の設定② 自己課題の設定（教員を目指すものとして）
第4回	模擬保育に向けての準備① 望ましい教員のあり方を考察（グループ分け）
第5回	模擬保育に向けての準備② 環境（物的環境・人的環境）（個人案作成）
第6回	模擬保育に向けての準備③ 子どもの理解と保育内容を踏まえた指導案作成（グループ案作成）
第7回	模擬保育に向けての準備④ 子どもの発達を保育内容を踏まえた指導案作成（グループ案作成・保育準備）
第8回	模擬保育に向けての準備⑤ 個と集団の発達と保育内容を踏まえた指導案作成（リハーサル）
第9回	模擬保育（保育実践）① 保育方法の展開・発展
第10回	模擬保育（保育実践）② 保育方法の展開・発展
第11回	模擬保育（保育実践）③ 保育方法の展開・発展
第12回	模擬保育の振り返り 保育方法の実践への反省・評価・改善・計画
第13回	自己の学びの振り返り（まとめ）・履修カルテ

事前・事後学修	【事前学修】
	・子どもの発達過程の特徴と保育のポイントなどを予習しノートにまとめる。
	・これまでの学修や実習を通して明確になった自己課題をノートにまとめておく。自己課題の設定や指導案作成時に課題を出題する。
	【事後学修】
	・毎回の授業を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめる。
	【必要な時間】
	・事前学修、事後学修の時間はそれぞれ2～3時間、合計5時間程度を目安とする。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・提出物、レポート、発表：70％ 「幼児の発達や学び、過程で生じるつまずき、その要因を把握する」こと及び「そのための原理や対応の方法を考える」ことを提出物、レポート、発表の評価基準とする。 ・まとめのレポート：30％ 「到達目標」に明示してある「原理や対応方法」を考え、論述できることをまとめのレポートの評価基準とする。
参考文献	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』内閣府・文部科学省・厚生労働省 フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭や学校教員として実務経験のある教員が、保育・教育の計画・実践に関わる視点・知識・技術を活かして、指導方法や振り返りを通して自己課題を改善する方法を身に付けられる内容を行います。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	4427002
講義名称	子どもの食と栄養(応用)[幼教]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82364
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 和久田　紗恵子

授業の目的と概要	保育を通して食育の展開ができるようになることを目指す。また、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、特別な配慮を要する子どもの食と栄養について体系的に理解し、学んだ知識や理論を実際の保育現場で実践し発展させることができる力を養うことを目的とする。
到達目標	①保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解する。 ②家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する。 ③特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。
授業の進め方	テキストを中心に講義形式で進める。 グループワークやミニテストを行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内およびLMSを通じて解説する。
----------------------------	--------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・知識や経験の確認
第2回	学童期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活
第3回	食育の基本と内容
第4回	食育の実践①
第5回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養・特別な配慮を要する子どもの食と栄養
第6回	食育の実践②
第7回	子どもの食と栄養(応用)のまとめ

事前・事後学修	事前学修：授業前に教科書の該当箇所を読んでおくこと 事後学修：前回の授業を振り返り、分からない箇所は調べておくこと。 事前学修および事後学修は合わせて1時間以上を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	テスト（50％）、提出物（20％）、食育教材作成・発表（30％）、
テキスト	最新保育士養成講座総括編集委員会編（2019）『第8巻 子どもの食と栄養』全国社会福祉協議会 ISBN 9784793513114
参考文献	太田百合子・堤ちはる（2025）『子どもの食と栄養 第3版 保育現場で活かせる食の基本』羊土社 ISBN 9784758113809 堤ちはる・土井正子（2025）『子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養〈第12版〉』萌文書林 ISBN 9784893471543

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	大学病院にて管理栄養士として7年間勤務。献立管理、病棟管理、栄養指導（疾患別栄養指導、個別支援）を担当し、医療・栄養・多職種連携の実務経験を有する。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	4431002
講義名称	保育実習Ⅰ〔幼教〕
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	4単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81391

担当教員

氏名
◎ 深浦 尚子
山内 太郎

授業の目的と概要	保育所・各種児童福祉施設での実習を通して保育士として必要な知識・技能を身につけ、学内における学習と関連付けて学ぶ。また具体的な実践を経験することで保育士を職業として選択する動機づけにすることも本科目の目的である。
到達目標	保育所・施設での実習が終了することで単位の認定が行われる。それぞれの実習先で充実した実習を行うことが最大の目標であるが、さらに2年次での発展学習への課題を明確にすることが求められる。
授業の進め方	学外の児童福祉施設の現場に身を置き、職員に準じる業務を体験する。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL フィールドワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	現場の職員からの助言に加え、実習就業後に関連する実習指導科目において振り返りを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	保育所10日間、施設10日間の実習を行う。 保育所、施設理解から始まり、子どもや施設の利用者とのかかわりを通して、参加、部分的な責任実習を行う。実習の内容については実習先によって多少異なる。 ・事前訪問（オリエンテーション）・・・スケジュールの確認、実習のための諸注意 ・観察参加実習・・・子どもたち、利用者とともに生活しながら観察・援助をする。 ・部分実習・・・絵本の読み聞かせ、ゲーム、制作など保育のなかの一部分を責任をもって担う。

事前・事後学修	【具体的な内容】 健康管理をしっかりとる。 挨拶など基本的な対人関係のマナーをしっかりと身につけて、実習終了後は実習先に礼状を送付する。 【必要な時間】 上記の内容は時間で示せるものではなく、普段から心がけておくべき事柄である。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	

(DP6)社会に貢献する姿勢	
----------------	--

成績評価基準と方法	授業への取り組み 20% 提出物 30% 評価表 50%
テキスト	特になし。実習指導の授業で使用する「実習ハンドブック」を随時参照すること。
参考文献	実習先において提示される。

年度	2026
講義コード	4432002
講義名称	保育実習指導Ⅰ〔幼教〕
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81392

担当教員

氏名
◎ 山内　太郎

授業の目的と概要	保育所・各種福祉施設での実習を有意義なものにするために、事前及び事後の指導として必要な知識、技術を習得するとともに、必要な諸手続きについて理解する。
到達目標	実習を円滑に行うために、必要な知識・技術を身につける。 実習を開始するための諸手続きと実習終了後の諸手続きの必要性を理解する
授業の進め方	基本的に講義形式でおこなう。また、重要事項等の確認や演習等で必要な場合はグループにわかれて演習形式でおこなう。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回授業の終了時に質問を募り、次回授業の冒頭で回答を伝える。
----------------------------	--------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	実習で扱う書類について（個人表作成等）
第3回	実習に向けた準備　実習事前事後の流れ確認/評価表の観点について/実習課題の検討/報告書の書き方
第4回	活動研究①/指導案の作成
第5回	活動研究②/指導案を用いた実践
第6回	場面を想定した実践練習①（0・1・2歳児）
第7回	場面を想定した実践練習②（3歳児以降）
第8回	活動研究③/指導案の作成（学生の制作物を使って）
第9回	活動研究④/指導案を用いた実践
第10回	実習における記録について①保育所実習日誌の書き方/オリエンテーション確認
第11回	実習置ける記録について②文章の書き方（日誌の様式で）
第12回	実習直前Q&A/実習報告書の書き方/評価表の観点について/次年度実習科目の選択について/礼状の書き方
第13回	実習の振り返り・お礼状確認/次年度の実習科目選択について

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習として実習ハンドブックの毎回のテーマに該当する箇所に目を通しておくこと 事後学習として配布資料等を読み返しておくこと
---------	--

	【必要な時間】 事前・事後、それぞれ2時間半程度で合計5時間を目安とする。
--	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	実習指導は実習事前指導の部分だけではなく事後指導も含んでいるため、実習が終了していることが評価の前提となる。それを踏まえて下記の内容で評価される。 提出物：50% 課題：20% 小テスト：30%
テキスト	『実習ハンドブック』 『これからの時代の保育者養成・実習ガイド: 学生・養成校・実習園がともに学ぶ』 大豆生田啓友ほか編著 中央法規
参考文献	『保育所保育指針』

年度	2026
講義コード	4433001
講義名称	保育実習指導Ⅱ(保育所)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82398

担当教員

氏名
◎ 山内 太郎
富田 敏明

授業の目的と概要	1年次に行った保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらに深めることを目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。 また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを目指す。
到達目標	実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解する。
授業の進め方	1年次実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、次の実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で適宜質問を受け付けることでフィードバックを行う。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：保育実習Ⅱの目的
第2回	記録技法について①：指導案の基本的な考え方
第3回	実習課題の設定
第4回	実習事前事後の留意点
第5回	記録技法について②：実習日誌の書き方の確認
第6回	記録技法について③：日案作成について
第7回	実習事後指導（実習の振り返り）

事前・事後学修	【具体的な内容】 毎回の授業で提示された資料等を読み返して理解を深めること。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、合わせて5時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 提出物(授業で課された課題など)：50% ・ 授業への取り組み、毎回のまとめ：50%
テキスト	実習ハンドブック 大豆生田啓友他『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』（中央法規）：1年次購入済み
参考文献	授業中に適宜提示する。

年度	2026
講義コード	4434001
講義名称	保育実習指導Ⅲ(施設)
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82399

担当教員

氏名
◎ 山内 太郎
森岡 毅

授業の目的と概要	1年次に行った保育実習Ⅰの経験を踏まえて、子ども理解と保育・養護の技術のさらに深めることを目的とする。そのために事前指導として課題の明確化や指導案・記録技法の習得が中心となる。 また、事後指導として、実習終了後に保育者としての自身の特性や課題を明確にすることを目指す。
到達目標	実習での経験を踏まえて、保育士としての自身の特性と課題を理解している。
授業の進め方	1年次の実習の振り返りをもとに課題を明らかにし、次の実習に向けての取り組みを具体化できるよう、講義・演習・発表形式で行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の中で随時質問を受け付けることでフィードバックを図る。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：保育実習Ⅲの目的
第2回	記録技法について①：指導案の基本的な考え方
第3回	実習課題の設定
第4回	実習事前事後の留意点
第5回	記録技法について②：実習日誌の書き方の確認
第6回	記録技法について③：日案作成について
第7回	実習事後指導（実習の振り返り）

事前・事後学修	【具体的な内容】 毎回の授業で配布された資料等を読み返して理解を深めること。 【必要な時間】 事後学修学修合わせて5時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 提出物(授業で課された課題など)：50% ・ 授業への取り組み、毎回のまとめ：50%
テキスト	実習ハンドブック 大豆生田啓友他『これからの時代の保育者養成・実習ガイド』（中央法規）：1年次購入済み
参考文献	授業中に適宜提示する

年度	2026
講義コード	5103001
講義名称	キャリア特別講義【ブレB】
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73211
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 樋原 智恵

授業の目的と概要	少子高齢化、グローバル化、ジェンダーレスの進展など、現代社会を取り巻く環境は急速に変化している。このような状況下においては、多様な価値観や考え方を理解し、それらを尊重する姿勢を涵養することが不可欠である。 本授業は、多様性への理解を基盤とし、長期的視野に立って自己の在り方を捉える力を養うことを目的とする。具体的には、自分らしく生きるために必要な対人対応力、発想力、思考力を体系的に学び、これからの職業人生を主体的かつ前向きに構想する力を育成することを目指すものである。
到達目標	本授業の到達目標は、以下の三点である。 1.社会で働くために必要な基礎的知識および社会の仕組みを理解すること。 2.社会人として求められる能力を理解し、それらを実践的に身に付けること。 3.自分らしい働き方について主体的に考察し、自らの職業生活を設計・構想できるようになること。
授業の進め方	本授業では、グループワーク、プレゼンテーション、実践的課題を中心に構成し、社会人として求められる諸能力の習得を目指す。 グループワークにおいては、協働的課題解決能力および協調性の向上を図る。プレゼンテーションでは、資料作成能力および論理的表現力の向上を目的とする。また、実際のビジネス場面を想定した課題に取り組むことで、課題発見力および問題解決能力を総合的に高める。 以上を通じて、理論と実践を往還しながら、実社会で活用可能な実践的能力の育成を図るものである。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題に対するフィードバックは、授業内において適宜実施するものである。各活動や提出課題に対して講評を行い、理解度や到達状況を確認しながら改善点を具体的に提示する。 また、授業時間外においても、必要に応じて電子メールによる個別対応を行い、学修の深化および課題解決を支援する体制を整えるものである。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション（講義内容、評価方法の説明） 個人プレゼンテーションの概要	対面
第2回	対人関係の形成と維持Ⅰ（印象形成，第一印象）	対面
第3回	対人関係の形成と維持Ⅱ（信頼形成，ストレス・メンタルヘルス）	対面
第4回	対人関係の形成と維持Ⅲ（プロティアンキャリア）	対面
第5回	集団と個人Ⅰ（組織の中の個人と個性，役割認識）	対面
第6回	集団と個人Ⅱ（集団における葛藤と解決策）	対面
第7回	ジェンダーと社会Ⅰ（ジェンダーギャップ指数，社会における性差）	対面
第8回	ジェンダーと社会Ⅰ（市場価値）	対面
第9回	キャリアトーク（卒業生とのパネルディスカッション）	対面
第10回	金融リテラシーⅠ（お金を貯める・増やす・借りる）	対面
第11回	金融リテラシーⅡ（若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺）	対面
第12回	ホスピタリティマインド（他者理解・共感・ニーズの把握）	対面

第13回	まとめ：講義全体を統合し、自分らしいキャリアを築くための目標設定	対面
------	----------------------------------	----

事前・事後学修	日常的に新聞等の活字媒体に触れ、文章読解力および表現力の向上に努めることが求められる。また、社会で起こっている出来事や時事ニュースに主体的な関心を持ち、社会的事象を多角的に捉える姿勢を養うことが重要である。 さらに、必要に応じて次回授業のテーマに関する示唆や参考資料を提示するため、事前に関連事項を調査・整理し、自らの見解を形成したうえで授業に臨むことが望ましい。授業後においては、扱った内容を振り返り、理解の深化および自己の考察の発展に努めるものとする。 事前学修および事後学修は合わせてそれぞれ5時間以上を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	成績評価は、毎時の小レポート（60％）、プレゼンテーション（20％）、最終レポート（20％）の総合評価によって行う。 1. 毎時の小レポート（60％） 各授業回において、社会で求められるスキルに関する理解度を確認するための小レポートを課す。提出された内容をもとに、授業内容の理解度および定着度を評価するものである。 2. プレゼンテーション（20％） 授業内で実施するプレゼンテーションについて、内容の妥当性、論理構成、資料の完成度、発表態度等を総合的に評価する。これにより、情報伝達能力およびプレゼンテーション能力の到達度を測定する。 3. 最終レポート（20％） 授業で扱った内容を踏まえ、自己の学修成果および考察を文章化した最終レポートを課す。これにより、授業全体に対する理解度、論理的思考力および考察力を総合的に評価するものである。
参考文献	徳谷智史著「キャリアづくりの教科書」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、国家資格キャリアコンサルタント資格を有している。これまで新規学卒者に対する就職支援および転職希望者に対するキャリア支援に長年従事し、個別相談対応、応募書類作成支援、面接対策指導、キャリアプランの策定支援など、多岐にわたる実務経験を有している。 本授業では、これらの実務経験を基盤として、理論と実践を有機的に結び付けた講義を展開する。単なる知識の習得にとどまらず、実際のキャリア形成場面で活用可能な実践的知識およびスキルの修得を目指すものである。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	5109001
講義名称	課題解決演習Ⅰ[石田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71331

担当教員

氏名
◎ 石田 麻英子

授業の目的と概要	学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力でできることを探し、提案、実行します。課題解決演習Ⅰでは、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決Ⅰ終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。
到達目標	扱うテーマと、実際の社会の問題との関連性を意識して活動できる チームでの自分の役割を意識し貢献できる プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる スケジューリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようになる。
授業の進め方	グループワークが中心 情報収集、ディスカッションをする 活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員を上司に見立て、チームの活動＝仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる。 毎回の活動報告、振り返りシートに対し、オンラインでチーム全体へ、または個別にフィードバックを行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション これまでの学びと卒業に向けて 課題解決演習で目指すもの チームワークで重要なこと
第2回	チームワークで重要なこと 各プロジェクトの狙い、ビジョンと、学科の学びとのつながり 仮エントリート、本エントリーについて注意すること
第3回	本エントリーを行う シート完成者から面談を行う。記載にあいまいな部分がある場合は、書き直しの指示もある。
第4回	結果発表とチームのキックスタート
第5回	チームごとの活動①
第6回	チームごとの活動②

第7回	チームごとの活動③
第8回	チームごとの活動④
第9回	チームごとの活動⑤
第10回	チームごとの活動⑥
第11回	チームごとの活動⑦
第12回	チームごとの活動⑧ 次回中間報告に向けた発表準備
第13回	中間発表とピア評価

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。 事前事後、最低でも5時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
--------------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	個人提出物 （アクション記録、個人レポート他） 50% グループ提出物 （中間報告、提出物、ピア評価他） 50%
参考文献	プロジェクトごとに指示があります

年度	2026
講義コード	5109002
講義名称	課題解決演習Ⅰ[和久田]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71331

担当教員

氏名
◎ 和久田　紗恵子

授業の目的と概要	学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力でできることを探し、提案、実行します。課題解決演習Ⅰでは、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決Ⅰ終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。
到達目標	扱うテーマと、実際の社会の問題との関連性を意識して活動できる チームでの自分の役割を意識し貢献できる プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる スケジュールリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようになる
授業の進め方	グループワークが中心　情報収集、ディスカッションをする 活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員を上司に見立て、チームの活動＝仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション これまでの学びと卒業に向けて 課題解決演習で目指すもの チームワークで重要なこと
第2回	チームワークで重要なこと 各プロジェクトの狙い、ビジョンと、学科の学びとのつながり 仮エントリー、本エントリーについて注意すること
第3回	本エントリーを行う シート完成者から面談を行う。記載にあいまいな部分がある場合は、書き直しの指示もある
第4回	結果発表とチームのキックスタート
第5回	チームごとの活動①
第6回	チームごとの活動②
第7回	チームごとの活動③
第8回	チームごとの活動④

第9回	チームごとの活動⑤
第10回	チームごとの活動⑥
第11回	チームごとの活動⑦
第12回	チームごとの活動⑧ 次回中間報告に向けた発表準備
第13回	ピア評価・中間発表

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。 事前事後、最低でも5時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	個人提出物 （アクション記録、個人レポート他） 50％ グループ提出物 （中間報告、提出物、ピア評価他） 50％
参考文献	プロジェクトごとに指示があります

年度	2026
講義コード	5110002
講義名称	課題解決演習Ⅱ[和久田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72331

担当教員

氏名
◎ 和久田　紗恵子

授業の目的と概要	課題解決演習Ⅰから継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。チームでの活動をとおして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。活動をとおして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。
到達目標	① チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる ② 課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける ③ 進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる ④ プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる ⑤行ってきた活動と社会の問題との関連性についてまとめ、提案ができる
授業の進め方	グループワーク、ディスカッション、発表を行う フィールドワークを行い記録を残す まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング				
PBL	グループワーク	フィールドワーク	ディスカッション	

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行うほか、LMSを使用して個別にも行う
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	チームでの活動①
第2回	チームでの活動②
第3回	チームでの活動③
第4回	チームでの活動④
第5回	チームでの活動⑤
第6回	チームでの活動⑥
第7回	チームでの活動⑦
第8回	チームでの活動⑧
第9回	チームでの活動⑨
第10回	チームでの活動⑩ まとめと成果発表に向けた準備開始
第11回	チームでの活動⑪ まとめと成果発表に関する活動

第12回	チームでの活動⑫ まとめと成果発表資料の完成提出 全体での授業 2年間の学びの振り返り、まとめ
第13回	成果報告、発表、ピア評価 学科発表会で成果報告を行い、最後にピア評価を行う

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。 事前事後、最低でも5時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	個人提出物（アクション記録、最終レポートなど）50％ グループ提出物（最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など）50％
参考文献	プロジェクトごとに指示があります

年度	2026
講義コード	5110003
講義名称	課題解決演習Ⅱ [小林(純)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72331

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の目的と概要	課題解決演習Ⅰから継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。 企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。 チームでの活動をととして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。 活動をととして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。
到達目標	① チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる ② 課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける ③ 進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる ④ プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる ⑤ 行ってきた活動と社会の問題との関連性についてまとめ、提案ができる
授業の進め方	グループワーク、ディスカッション、発表を行う。 フィールドワークを行い記録を残す まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行うほか、LMSを使用して個別にも行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	チームでの活動①	対面
第2回	チームでの活動②	対面
第3回	チームでの活動③	対面
第4回	チームでの活動④	対面
第5回	チームでの活動⑤	対面
第6回	チームでの活動⑥	対面
第7回	チームでの活動⑦	対面
第8回	チームでの活動⑧	対面
第9回	チームでの活動⑨	対面
第10回	チームでの活動⑩ まとめと成果発表に向けた準備開始	対面
第11回	チームでの活動⑪ まとめと成果発表に向けた活動	対面

第12回	チームでの活動⑫ まとめと成果発表資料の完成・提出 全体での授業 2年間の学びの振り返り、まとめ	対面
第13回	成果報告、発表、ピア評価 学科発表会で成果報告を行い、最後にピア評価を行う。	対面

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。 事前事後、最低でも5時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	個人提出物 （アクション記録、最終レポートなど） 50％ グループ提出物（最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など） 50％
参考文献	プロジェクトごとに指示があります。

年度	2026
講義コード	5110004
講義名称	課題解決演習Ⅱ [竹島]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72331
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 竹島 鉄也

授業の目的と概要	課題解決演習Ⅰから継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。チームでの活動をととして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。活動をととして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。
到達目標	① チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる。 ② 課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける。 ③ 進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる。 ④ プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる。 ⑤行ってきた活動と社会の問題との関連性についてまとめ、提案ができる。
授業の進め方	グループワーク、ディスカッション、発表を行う。 フィールドワークを行い記録を残す。 まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行うほか、LMSを使用して個別にも行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	チームでの活動①	対面
第2回	チームでの活動②	対面
第3回	チームでの活動③	対面
第4回	チームでの活動④	対面
第5回	チームでの活動⑤	対面
第6回	チームでの活動⑥	対面
第7回	チームでの活動⑦	対面
第8回	チームでの活動⑧	対面
第9回	チームでの活動⑨	対面
第10回	チームでの活動⑩ まとめと成果発表に向けた準備開始	対面

第11回	チームでの活動⑪ まとめと成果発表に関する活動	対面
第12回	チームでの活動⑫ まとめと成果発表資料の完成提出 全体での授業 2年間の学びの振り返り、まとめ	対面
第13回	成果報告、発表、ピア評価 学科発表会で成果報告を行い、最後にピア評価を行う。	対面

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。 事前事後、最低でも5時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	個人提出物（アクション記録、最終レポートなど）50％ グループ提出物（最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など）50％
参考文献	プロジェクトごとに指示があります。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、永年、ブライダル業界やホテル業界において、ウェディングプランナーや人材育成、ウェディングプロデューサーなどの実務経験のある教員が担当します。 現場で体験した事や、業界の現状や今後について詳しく解説します。
-------------------	---

年度	2026
講義コード	5109004
講義名称	課題解決演習Ⅰ〔竹島〕
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71331
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 竹島 鉄也

授業の目的と概要	学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力のできることを探し、提案、実行します。課題解決演習Ⅰでは、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決Ⅰ終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。
到達目標	扱うテーマと、実際の社会の問題との関連性を意識して活動できる。 チームでの自分の役割を意識し貢献できる。 プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する。 テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる。 スケジューリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようになる。
授業の進め方	グループワークが中心 情報収集、ディスカッションをする。 活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク ディスカッション 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員を上司に見立て、チームの活動＝仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる。 毎回の活動報告、振り返りシートに対し、オンラインでチーム全体へ、または個別にフィードバックを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション これまでの学びと卒業に向けて 課題解決演習で目指すもの チームワークで重要なこと	対面
第2回	チームワークで重要なこと 各プロジェクトの狙い、ビジョンと、学科の学びとのつながり 仮エントリー、本エントリーについて注意すること	対面
第3回	本エントリーを行う シート完成者から面談を行う。記載にあいまいな部分がある場合は、書き直しの指示もある。	対面
第4回	結果発表とチームのキックスタート	対面
第5回	チームごとの活動①	対面
第6回	チームごとの活動②	対面

第7回	チームごとの活動③	対面
第8回	チームごとの活動④	対面
第9回	チームごとの活動⑤	対面
第10回	チームごとの活動⑥	対面
第11回	チームごとの活動⑦	対面
第12回	チームごとの活動⑧ 次回中間報告に向けた発表準備	対面
第13回	中間発表とピア評価	対面

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。 事前事後、最低でも5時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	個人提出物（アクション記録、個人レポート他） 50％ グループ提出物（中間報告、提出物、ピア評価他） 50％
参考文献	プロジェクトごとに指示があります

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、永年、ブライダル業界やホテル業界において、ウェディングプランナーや人材育成、ウェディングプロデューサー等の実務経験のある教員が担当します。 現場で体験した事や、業界の現状や今後についても詳しく解説します。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	5110001
講義名称	課題解決演習Ⅱ[石田]
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72331

担当教員

氏名
◎ 石田　麻英子

授業の目的と概要	課題解決演習Ⅰから継続して活動を行い、最終成果の発表に向けて活動します。企画を再構築したり、効果検証を行い、完全なものにするための工夫を継続します。チームでの活動をとおして、協働する意味、役割を認識し、最後までやり遂げる大切さを学びます。活動をとおして、今後、社会生活において起こり得る様々な問題に対応できる力を身につけます。
到達目標	① チームでの自分の役割を意識し、他者への配慮を忘れず組織的に動くことができる ② 課題を最後までチームで遂行するための技術と力を身につける ③ 進捗状況を明確にし、期日までに予定された仕事を完遂することができる ④ プランの適切な効果検証を行い、改善に向けた提案ができる ⑤行ってきた活動と社会の問題との関連性についてまとめ、提案ができる
授業の進め方	グループワーク、ディスカッション、発表を行う。 フィールドワークを行い記録を残す まとめと成果物の作成を通じた取り組みへの反省を発表する

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL　グループワーク　ディスカッション　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員によるチェックとフィードバックは、授業内で適宜行うほか、LMSを使用して個別にも行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	チームでの活動①
第2回	チームでの活動②
第3回	チームでの活動③
第4回	チームでの活動④
第5回	チームでの活動⑤
第6回	チームでの活動⑥
第7回	チームでの活動⑦
第8回	チームでの活動⑧
第9回	チームでの活動⑨
第10回	チームでの活動⑩ まとめと成果発表に向けた準備開始

第11回	チームでの活動⑪ まとめと成果発表に関する活動
第12回	チームでの活動⑫ まとめと成果発表資料の完成提出 全体での授業 2年間の学びの振り返り、まとめ
第13回	成果報告、発表、ピア評価 学科発表会で成果報告を行い、最後にピア評価を行う。

事前・事後学修	毎回の授業前に、授業時間以外でプロジェクトの情報収集や、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、授業外にその完成作業をしてもらうこととなります。授業時間では間に合いませんので、前後に最低でも1時間以上の準備時間は必要です。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人提出物（アクション記録、最終レポートなど）50％ グループ提出物（最終ポスター、発表、ピア評価、成果物など）50％
参考文献	プロジェクトごとに指示があります

年度	2026
講義コード	5109003
講義名称	課題解決演習Ⅰ[小林(純)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71331

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の目的と概要	学科の学びの集大成として、今までに学んだことを生かすための授業です。与えられたテーマの下で課題を見つけ、それを解決するために、自分たちの力でできることを探し、提案、実行します。課題解決演習Ⅰでは、まずプロジェクト学習の基本と手法を押さえ、この授業がどのような効果を意図しているのか、どのような力を育成しようとしているのかを踏まえたうえで、チームを組み他者との協働により実施します。課題解決Ⅰ終了時においては、ゴールを決め、計画書を作成し、ある程度実施を進め、報告できることが、最低限の目標になります。
到達目標	・扱うテーマと、実際の社会の問題との関連性を意識して活動できる ・チームでの自分の役割を意識し貢献できる ・プロジェクトの進め方と効果検証の方法について理解する ・テーマに対する理解を深め実現可能な解決策を立てる ・スケジューリング、タスクマネジメント、報連相などの基本的な仕事の技術を活用できるようになる
授業の進め方	グループワークが中心。情報収集、ディスカッションをする。 活動状況を、教員や他チームにわかりやすいように報告する発表を行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	担当教員を上司に見立て、チームの活動＝仕事についての報告・連絡・相談をし、成果を認めてもらう形式となる。 毎回の活動報告、振り返りシートに対し、オンラインでチーム全体へ、または個別にフィードバックを行う。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション これまでの学びと卒業に向けて 課題解決演習で目指すもの チームワークで重要なこと	対面
第2回	チームワークで重要なこと 各プロジェクトの狙い、ビジョンと、学科の学びとのつながり 仮エントリー、本エントリーについて注意すること	対面
第3回	本エントリーを行う シート完成者から面談を行う。記載にあいまいな部分がある場合は、書き直しの指示もある。	対面
第4回	結果発表とチームのキックスタート	対面
第5回	チームごとの活動①	対面
第6回	チームごとの活動②	対面
第7回	チームごとの活動③	対面

第8回	チームごとの活動④	対面
第9回	チームごとの活動⑤	対面
第10回	チームごとの活動⑥	対面
第11回	チームごとの活動⑦	対面
第12回	チームごとの活動⑧ 次回中間報告に向けた発表準備	対面
第13回	中間発表とピア評価	対面

事前・事後学修	毎回の授業前には授業時間以外でプロジェクトの情報を収集したり、授業内で成果物、書類が完成しなかった場合、その完成作業を授業外でもらうことになります。 事前事後、最低でも5時間以上の時間がかかることを想定しておいてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	個人提出物（アクション記録、個人レポート他）50% グループ提出物（中間報告、提出物、ピア評価他）50%
参考文献	プロジェクトごとに指示があります。

年度	2026
講義コード	5169001
講義名称	子ども音楽療育概論[幼教]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81363

担当教員

氏名
◎ 下出　理恵子

授業の目的と概要	音楽教育、保育、発達臨床、音楽療法などの様々な関連分野から保育音楽療育の専門性を論理的に学習する。また音楽を構成している要素と療育における音楽活動の関係性を学び、音楽療育における音楽の役割を理解する。
到達目標	・対象者理解のために知識を備える・保育音楽療育における音・音楽の役割を理解する・保育音楽療育の意義と目的を理解する。
授業の進め方	関連領域の文献、臨床のDVDを使用し、必要に応じて演習を交えながら講義を行う。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については理解度を確認し返却し講義の中で評価等を行う。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・保育音楽療育とは
第2回	対象者理解(成人、高齢者)
第3回	対象者の会(乳幼児，児童、WSの子どもたち)
第4回	音楽の特性
第5回	歌唱(声)の活動の目的とデザイン
第6回	器楽(既成曲を使用して) 活動の目的とデザイン
第7回	動きを伴う活動の目的とデザイン
第8回	器楽(即興的な) 活動の目的とデザイン
第9回	音楽のコミュニケーション性
第10回	音楽活動のサポートとは
第11回	アセスメント・プログラム・評価について大切なこと
第12回	保育者として大切なこと、音楽療育の有効性
第13回	講義のまとめ・テスト

事前・事後学修	関係する領域は多岐にわたるため、参考文献や講義内で紹介された著書は手に取り読み、自ら学ぶ姿勢を身につけ、興味を拡げていくことが大切である。 事前学修および事後学修は合わせて1時間以上を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義での提示された課題、レポート、出席等を総合して50％ テスト 50％
テキスト	適宜資料配布
参考文献	音楽療法の手引き 松井紀和 音楽療法 特別支援教育の発達の視点を踏まえて 加藤博之

年度	2026
講義コード	5170001
講義名称	子ども音楽療育演習[幼教]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82377
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小川 久恵

授業の目的と概要	本講義は発達が多様な子どもを対象とした音楽療育実践に必要な基礎知識と技術を獲得することを目的とします。 また、音楽療育実践のための音・音楽の使い方、対象に応じた展開やサポートの方法を習得することを目指します。
到達目標	・ 目的に応じた音楽療育を計画し、実践することができる。 ・ 音楽活動時に見られる子どもの姿を発達の視点で捉え、活動をサポートする方法を考えることができる。
授業の進め方	グループワークやディスカッション等の演習、発表などを通して療育プログラムの立案・模擬セッション・省察・セッション再構成を体験します。 また、講義を通して療育のための音楽活動の構成力、実践力を高めます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／部分実習事前指導／部分実習（音楽付きミニシアター）の計画・練習 グループワーク
第2回	発達の多様性を知る、からだあそび・スキンシップあそび
第3回	身体の知覚、ボディイメージを高めるあそび
第4回	部分実習：音楽つきミニシアター準備・打ち合わせ グループワーク
第5回	部分実習：音楽つきミニシアター発表・振り返り グループワーク
第6回	子どもの観察ポイントを学ぶ、身体模倣あそび
第7回	環境構成について、うたあそび、ことばあそび
第8回	ほめて育てるコツを学ぶ、楽器あそび
第9回	社会性の発達、ことばとコミュニケーションを促すあそび
第10回	模擬セッション計画・練習 グループワーク
第11回	模擬セッション練習・打ち合わせ グループワーク
第12回	模擬セッション発表 グループワーク
第13回	模擬セッション振り返り グループワーク、まとめ

事前・事後 学修	【具体的な内容】
	『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障がいの特性やかかわりのポイント、音楽あそびなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラムの計画や実践時に課題を出題します。
	毎回の授業を振り返り、ポイントなどを復習してノートにまとめてください。
	【必要な時間】
	予習・復習の時間は合わせて1時間を目安とします。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・療育プログラムの立案・実践・省察レポート70%「音楽活動時に見られる子どもの姿を発達の視点で捉え、活動をサポートする方法を考える」また「目的に応じた音楽療育を計画し、実践する」ことを評価基準とする。 ・コメントシート(毎回授業後に提出する)30%「各回の授業内容を理解し、課題を提出できる」ことを評価基準とする。
テキスト	【テキスト】 『ユニバーサルデザインの音楽表現』星山麻木編著・板野和彦著　萌文書林
参考文献	【参考文献】 授業時、配布資料

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽療育実践に必要な知識と技術、実践方法について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	5121001
講義名称	オフィス演習
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73612
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 保浦 聡

授業の目的と概要	職場で求められる対人処理および事務処理能力をより高めるため、ビジネスの場で実際に発生する仕事を体験して能力開発をします。 限られた時間内にいくつもの案件を、優先順位を付けて処理をする訓練により、段取り力や、早く、正確に業務を処理する力を身に付けます。
到達目標	社会人になってすぐに直面する課題に対応できるよう、仕事力を育成します。ビジネス系授業の集大成として、事務処理能力、対人能力を磨きます。 ①業務の優先順位を決め処理することができる ②早く、確実な仕事ができるようになる
授業の進め方	基本的に講義形式で実施しますが、必要に応じてグループワークやディスカッションなどを取り入れるなど、能動的な学修を目指します。実務経験のある教員が、オフィスのしくみや人間関係についてビジネスワーカーの視点から理解できる講義です。 演習は以下のとおり進めます。 ①オンラインミーティングを通じて、自己紹介、ファシリテーターの役割を実践します ②各種ゲームを通じて、グループ演習、チームワークを実践します ③以上を通じて、コミュにケーション力、課題解決能力の向上を図ります

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	評価基準となる課題については、その評価を個別に示します。 学生からの質問については、授業の始めに全体へ向けて答えます。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	はじめに／自己紹介をしよう ・仕事力とコミュニケーション力とは ・自己紹介のスライドは名刺がわり ・自己紹介スライドを作ってみよう ・スライドを使って自己紹介してみよう	対面
第2回	会議のコーディネート／オンラインmtgのセットアップ（実践演習） ・コーディネーターとファシリテーター ・オンラインミーティング ・Teamsでミーティングをセットアップ ・Teamsでミーティングを実施	対面
第3回	会議のファシリテート／ファシリテーター（実践演習） ・ファシリテーターって何？ ・模擬会議でファシリテーターを実践してみよう	対面

第4回	インバスケ思考／コンセンサスゲーム（実践演習） ・インバスケ思考とは ・問題解決のための力 ・NASAゲームに挑戦してみよう	対面
第5回	コンセンサスゲーム2（実践演習） ・NASAゲームを総括しよう	対面
第6回	チームワーク（実践演習） ・ペーパータワーゲームに挑戦してみよう	対面
第7回	さいごに／チームワークを総括してみよう ・総合演習	対面

事前・事後学修	予習・復習の時間はそれぞれ1時間～2時間を目安とします。 仕事処理の基本である読み取る、聞き取る、数える、書く、まとめるなど、時間計測をしながらトレーニングすることを入れますので、各自、基準を満たす努力が必要です
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①参加姿勢　10％ ②講義内演習　80％ ③期末総合演習　10％
テキスト	教員が準備した教材を配布します
参考文献	講義内で適宜紹介します

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、銀行業務およびIT会社の管理部門において40年間の勤務経験を持ち、金融サービスとITシステム運営の実務スキルを磨いてきました。これらの経験を基に、業界の知識と実践的な視点を融合した学びを提供する講義を展開します。
--------------------------	--

年度	2026
講義コード	5171001
講義名称	子ども音楽療育実習[幼教]
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	実習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80395
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小川　久恵
田村　めぐみ

授業の目的と概要	本講義では音楽活動の多様性を知り、関連領域の理論と音楽活動の関係を体験的に理解することから実践力を広げることを目的とします。また、子どもの多様な発達についての理解を深めながら、音楽活動時に見られる子どもの姿を理解することを目指します。
到達目標	・ワークショップにおいて子どもや保護者・支援者とかかわることから、多様な発達についての理解や子ども理解について深めることができる。 ・概論と演習を繋ぎ、自身の療育プログラムを実習の場で実践することができる。
授業の進め方	音楽療育ワークショップにおける療育実践に向け、音楽療育ワークショップ実習や現場実践者の講義、またグループワークや療育プログラムの検討・作成等の演習を織り交ぜ、能動的な学修を目指します。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション　体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で解説します。また、グループワーク等の演習・実習を通して、多様な理論、実践方法について互いに検討します。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション：実習の心構え、マナー 音楽療育実習の活動計画：ワークショップの構成とねらい
第2回	実習事前指導：観察視点と日誌の書き方
第3回	ワークショップ観察実習：流れを知る ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する
第4回	ワークショップ観察実習：子どもの姿を理解する ワークショップ観察実習：音楽活動時におけるかかわり方を学ぶ
第5回	観察実習事後指導：日誌を使用した省察
第6回	ワークショップ参加実習：指導者と子どものかかわりを学ぶ
第7回	ワークショップ参加実習：音楽活動の関与について学ぶ
第8回	ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画　グループワーク
第9回	ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の計画・打ち合わせ　グループワーク
第10回	ワークショップ部分実習：音楽活動による療育の実践
第11回	ワークショップ部分実習：療育の計画・実践に対する省察

第12回	特別講座：関連領域から障がいの特性や支援方法を理解する
第13回	実習事後指導：まとめ グループワーク、レポート

事前・事後 学修	【具体的な内容】 『子ども音楽療育概論』や関連する科目を参考に、障がいの特性やかかわりのポイントなどを予習しノートにまとめてください。療育プログラムの計画や実践時に課題を出題します。 毎回の授業内容を振り返り、ポイントなどを復習してノートや実習日誌にまとめてください。 【必要な時間】 予習・復習の時間は合わせて1時間を目安とします。
-------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と 方法	・実習日誌などの提出物：50%「子どもや保護者・支援者とかかわることから、多様な発達についての理解や子ども理解について深める」ことを日誌の評価基準とする。 ・部分実習の立案、実践(発表)など：50%「概論と演習を繋ぎ、自身の療育プログラムを実習の場で実践する」ことを評価基準とする。
テキスト	【テキスト】 ・『ユニバーサルデザインの音楽表現』 星山麻木編著・板野和彦著 萌文書林
参考文献	【参考文献】 授業時、配布資料

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経 歴と授業内容	本講義は幼稚園教諭・保育音楽療育士の実務経験のある教員が、療育実践にかかわる知識・技術を活かして、音楽活動の多様性や音楽療育の実践について、保育者の視点から理解できる講義を実施します。
-----------------------	--

年度	2026
講義コード	5175001
講義名称	保育プロジェクト演習[林(二)]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80572
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 林 二士

授業の目的と概要	本授業では、学生が自らの興味・関心に基づいて保育に関するテーマを設定し、主体的に学びを深めるプロジェクト型学習を行う。 指導教員の専門性を踏まえて提示されたテーマを参考に、学生自身が具体的な学習課題を設定し、文献調査や情報収集、討議などを通して理解を深めていく。 課題設定や情報収集・分析の過程を通して、保育者として必要な基礎的知識の深化と探究的な学習態度を養う。
到達目標	①保育に関する課題について、自ら学習テーマを設定することができる。 ②文献調査や情報収集を通して、テーマに関する基礎的知識を整理・理解することができる。 ③調査や討議を通して得た知見を整理し、自らの考えをまとめることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 保育プロジェクト演習Ⅰでの学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング	
PBL	グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習の振り返り（レポートなど）

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	学習への取り組み状況・授業参加（ディスカッション等） 40% 調査・学習の過程で提出する課題やレポート 30% テーマ設定および調査内容のまとめ 30%
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。 この科目の履修者は保育プロジェクト演習Ⅱも履修することを前提としています。

年度	2026
講義コード	5183001
講義名称	表現課題演習(基礎)
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81581

担当教員

氏名
◎ 山内 太郎
深浦 尚子
小川 久恵
富田 敏明
森岡 毅

授業の目的と概要	本講義の目的は保育者として豊かな表現活動を展開できるスキルを身につけることにある。そのために様々な分野の表現活動の演習を実践的に行う。
到達目標	①保育者となる学生としての視点を持って、子どもから大人までが楽しめる表現活動のテーマや内容を設定することができる。 ②テーマの具現化に向けて課題を発見し、解決に向けた手段や方法を探り、計画・目標を立てることができる。 ③自らの取り組みについて省察することができる。
授業の進め方	提示された表現活動の基礎的な知識や方法、活動の見通しに基づいて、学生が主体的に活動する演習形式で行う。授業内容としてはディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどの能動的学修、実践が中心となる。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめる。そのうえで各自の取り組みの課題を振り返る。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	音楽表現①（手遊び・わらべうた）
第2回	音楽表現②（手遊び・わらべうた）
第3回	言語表現①（読み聞かせ）
第4回	身体表現①（運動遊び）
第5回	身体表現②（運動遊び）
第6回	言語表現②（英語遊び）
第7回	造形表現①（ペープサート）

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・取り組み、成果物などの記録を作成する。 ・表現に関わる様々な内容や方法、必要な事について情報を集める。 ・制作や練習などの準備を各自で進める。
---------	--

	【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間半ずつ、合計5時間を目安とする。
--	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・取り組み：50％（毎時間の授業記録提出について、到達目標①②③を評価基準とする） ・レポート①・②：50％（成果物等についての内容において、到達目標①②③を評価基準とする）
参考文献	必要に応じてその都度提示する。

年度	2026
講義コード	5184001
講義名称	表現課題演習(応用)
講義開講時期	秋学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82582

担当教員

氏名
◎ 山内 太郎
深浦 尚子
小川 久恵
富田 敏明
森岡 毅

授業の目的と概要	本講義の目的は保育者として豊かな表現活動を展開できるスキルを身につけることにある。そのために様々な分野の表現活動の演習を実践的に行う。
到達目標	①保育者となる学生としての視点を持って、子どもから大人までが楽しめる表現活動のテーマや内容を設定することができる。
授業の進め方	提示された表現活動の基礎的な知識や方法、活動の見通しに基づいて、学生が主体的に活動する演習形式で行う。授業内容としてはディスカッション、グループワーク、プレゼンテーションなどの能動的学修、実践が中心となる。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	各自の計画・目標、授業での取り組み、成果物、課題などについて記録にまとめる。そのうえで各自の取り組みの課題を振り返る。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	音楽表現③（楽器遊び）
第2回	音楽表現④（模擬保育実践）
第3回	言語表現③（読み聞かせ）
第4回	身体表現③（運動遊び）
第5回	言語表現④（英語遊び）
第6回	造形表現②（ペープサート）
第7回	まとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・取り組み、成果物などの記録を作成する。 ・表現に関わる様々な内容や方法、必要な事について情報を集める。 ・制作や練習などの準備を各自で進める。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間半ずつ、合計5時間を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・取り組み：50％（毎時間の授業記録提出について、到達目標①②③を評価基準とする） ・レポート①・②：50％（成果物等についての内容において、到達目標①②③を評価基準とする）
参考文献	必要に応じてその都度提示する。

年度	2026
講義コード	5185001
講義名称	生活文化
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72111

担当教員

氏名
◎ 和久田　紗恵子

授業の目的と概要	私たちの生活環境、社会環境はめまぐるしく変化しているが、長い歴史の中で培われてきた日本の伝統的な生活文化について知識を深めることはとても大切です。本科目では、社会生活を送る上で必要な生活文化に関する基礎知識と歴史的由来について学習し、自らが文化の作り手、担い手であることを意識できるようになることを目指します。
到達目標	より豊かな生活を送るために日本の生活文化に関する基本的な知識と特徴を理解すること、日常生活の中にある「生活文化」を知り、その在り方について、考察することを目標とする。生活文化について学び、今後の自分たちが新たな生活文化を作っていくという意識をもって生活できるようになる。
授業の進め方	授業は講義形式と演習形式を適宜組み合わせで行います。課題に基づいたグループワーク、ディスカッション等も取り入れます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内やLMSを通じて解説します。
----------------------------	-------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション・日本の食①
第2回	日本の食②
第3回	日本の衣①
第4回	日本の衣②
第5回	日本の住・ポスター作成の準備
第6回	ポスター作成
第7回	ポスター発表・まとめ

事前・事後学修	毎回の授業内容をまとめ、復習をしてください。予習のテーマは授業内で提示します。日頃から、自分の送りたい生活、日常の中の「文化」を意識して生活してみましょう（1時間～2時間程度）。 また、異文化生活の授業の学びを振り返っておくと良いでしょう。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	提出物：60％ ポスター発表：40％
テキスト	適宜プリントを配布
参考文献	日本の伝統文化、年中行事に関する書籍等

年度	2026
講義コード	5186001
講義名称	オフィス総論【遠隔B】
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71412

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の目的と概要	本講義は、ビジネス実務で学ぶ、業務上のオフィス活動やビジネス能力・スキルとともに、ビジネス社会で求められる知識や役割を学ぶ授業です。主にビジネス実務のもととなった「秘書学」をベースに、組織における「人と情報のコーディネート」業務について学びます。基本的には秘書としての業務や目的を学ぶこととなりますが、この知識は秘書だけでなく、組織で働くすべてのワーカーに求められるものです。オフィスワーカーとして働くために必要な知識として、考えていきます。
到達目標	① オフィスで働くワーカーとしての基礎知識を把握し、ペアワークで成果を上げるための力を身につける。 ② 組織の一員として自分の役割を自覚し、確実に仕事を進めるための知識を身につける。 ③ 自分自身のキャリアを検討することができるようになる。
授業の進め方	授業はオンデマンド授業となるため、動画による学修となります。動画内では小テストも実施しますので、確実に回答するようにしましょう。また、質問は随時メールやWebClassなどで受け付けますが、授業内でも紹介することがあります。授業時間外でも研究室などで随時質問は受け付けています。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	出題された課題等については、動画内やWebClassなどで、考え方や回答を公開します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、オフィスワーカーに必要な能力とはなにか	オンデマンド
第2回	秘書教育とキャリアデザイン	オンデマンド
第3回	秘書の役割と業務①	オンデマンド
第4回	秘書の役割と業務②	オンデマンド
第5回	パーソナリティ、職業人としての心構え	オンデマンド
第6回	高度情報化社会と業務	オンデマンド
第7回	情報ネットワークの形成	オンデマンド
第8回	職場の人間関係	オンデマンド
第9回	人的ネットワークの形成	オンデマンド
第10回	秘書とプレゼンテーション	オンデマンド
第11回	マーケティングと秘書	オンデマンド
第12回	秘書の国際化、秘書の専門分化	オンデマンド
第13回	これからのビジネス社会	オンデマンド

事前・事後学修	授業で扱われる内容に関し、新聞記事およびニュースなどに積極的に触れながら予備知識をつけ、問題意識を持って授業に臨むこと。 授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。 事前・事後学修として、1講あたり5時間程度の学修時間を目安としてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内で提示される課題 60% 小レポート 40% なお、出席については提出物の提出またはオンデマンド動画の視聴が行われていることが条件となります。
テキスト	適宜プリントや資料を提示します。一部資料はWebClassにて共有します。
参考文献	「新しい時代の秘書ビジネス論」全国大学実務教育協会編 紀伊國屋書店

年度	2026
講義コード	5175002
講義名称	保育プロジェクト演習[伊藤]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80572
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 伊藤 柱子

授業の目的と概要	本授業では、学生が自らの興味・関心に基づいて保育に関するテーマを設定し、主体的に学びを深めるプロジェクト型学習を行う。 指導教員の専門性を踏まえて提示されたテーマを参考に、学生自身が具体的な学習課題を設定し、文献調査や情報収集、討議などを通して理解を深めていく。 課題設定や情報収集・分析の過程を通して、保育者として必要な基礎的知識の深化と探究的な学習態度を養う。
到達目標	①保育に関する課題について、自ら学習テーマを設定することができる。 ②文献調査や情報収集を通して、テーマに関する基礎的知識を整理・理解することができる。 ③調査や討議を通して得た知見を整理し、自らの考えをまとめることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 保育プロジェクト演習Ⅰでの学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習の振り返り（レポートなど）

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	学習への取り組み状況・授業参加（ディスカッション等） 40% 調査・学習の過程で提出する課題やレポート 30% テーマ設定および調査内容のまとめ 30%
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。 この科目の履修者は保育プロジェクト演習Ⅱも履修することを前提としています。

年度	2026
講義コード	5175004
講義名称	保育プロジェクト演習[田村]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80572
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 田村 めぐみ

授業の目的と概要	本授業では、学生が自らの興味・関心に基づいて保育に関するテーマを設定し、主体的に学びを深めるプロジェクト型学習を行う。 指導教員の専門性を踏まえて提示されたテーマを参考に、学生自身が具体的な学習課題を設定し、文献調査や情報収集、討議などを通して理解を深めていく。 課題設定や情報収集・分析の過程を通して、保育者として必要な基礎的知識の深化と探究的な学習態度を養う。
到達目標	①保育に関する課題について、自ら学習テーマを設定することができる。 ②文献調査や情報収集を通して、テーマに関する基礎的知識を整理・理解することができる。 ③調査や討議を通して得た知見を整理し、自らの考えをまとめることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 保育プロジェクト演習Ⅰでの学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習の振り返り（レポートなど）

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	学習への取り組み状況・授業参加（ディスカッション等） 40% 調査・学習の過程で提出する課題やレポート 30% テーマ設定および調査内容のまとめ 30%
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。 この科目の履修者は保育プロジェクト演習Ⅱも履修することを前提としています。

年度	2026
講義コード	5175003
講義名称	保育プロジェクト演習[小岩]
講義開講時期	春学期
必選区分	必修
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80572
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小岩 季之

授業の目的と概要	本授業では、学生が自らの興味・関心に基づいて保育に関するテーマを設定し、主体的に学びを深めるプロジェクト型学習を行う。 指導教員の専門性を踏まえて提示されたテーマを参考に、学生自身が具体的な学習課題を設定し、文献調査や情報収集、討議などを通して理解を深めていく。 課題設定や情報収集・分析の過程を通して、保育者として必要な基礎的知識の深化と探究的な学習態度を養う。
到達目標	①保育に関する課題について、自ら学習テーマを設定することができる。 ②文献調査や情報収集を通して、テーマに関する基礎的知識を整理・理解することができる。 ③調査や討議を通して得た知見を整理し、自らの考えをまとめることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 保育プロジェクト演習Ⅰでの学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習の振り返り（レポートなど）

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	学習への取り組み状況・授業参加（ディスカッション等） 40% 調査・学習の過程で提出する課題やレポート 30% テーマ設定および調査内容のまとめ 30%
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。 この科目の履修者は保育プロジェクト演習Ⅱも履修することを前提としています。

年度	2026
講義コード	5191001
講義名称	現代生活と福祉
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71433

担当教員

氏名
◎ 山内 太郎

授業の目的と概要	私たちの生活に深く関わる社会福祉の問題は多岐にわたっているが、本講義では特に「子ども家庭福祉」にかかわる内容を中心に取り上げる。少子化対策としての子育て支援や要保護児童への対応など、具体的にどのような施策が行われており、どのような課題があるのか理解することが本講義の目的となる。
到達目標	子どもをめぐる様々な問題が自分たちの生活とどのようにつながっているのか理解できるようになることを目標とします。
授業の進め方	基本的に対面の講義形式で行うことを想定していますが、必要に応じて視聴覚資料を用いたり、グループに分かれた演習を行うことがあります。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の講義の最後に講義に対するコメントや質問を募ります。質問に対しては次の講義の冒頭で回答することを予定しています。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	子ども家庭福祉の歴史①（戦前の社会的養護/保育所の歴史）
第3回	子ども家庭福祉の歴史②（終戦後の子どもをめぐる問題）
第4回	人口問題としての少子化問題
第5回	少子化問題と子育て支援サービス/子どもの健全育成
第6回	現代社会における保育問題①（調べ学習）
第7回	現代社会における保育問題②（プレゼンテーション）
第8回	社会的養護の動向（外部講師を予定）
第9回	障害と子ども・家族
第10回	ひとり親家庭の福祉
第11回	非行少年の背景と支援
第12回	若者の貧困と社会（外部講師を予定）
第13回	期末レポート課題の提示と取り組み

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習としてはテレビや新聞などで子ども家庭福祉に関わる報道をチェックすると授業の理解が進みます。事後学習として配布プリント等を読み返してより関心を深めるために各自で情報収集をすることを求めます。 【必要な時間】 それぞれ1時間程度
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の小レポート30％ 調べ学習・プレゼンテーションへの取り組み20％ 期末レポート50％
テキスト	特になし
参考文献	講義中に適宜提示します

年度	2026
講義コード	5197001
講義名称	コンピュータ統計【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	遠隔(B)
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71621

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の目的と概要	社会に出た後、グラフや表を読み取る力、作成する力は必須となります。そのもととなる数字に着目して、統計資料の読み方や活用方法を通して、北海道の姿を統計資料から概観します。 私たちが生活する北海道のリアルな数字を読みこなし、社会に貢献するための基礎的な知識を得ることを目的とします。 「数理・AI・データサイエンス」関連科目です。
到達目標	① Excelを使用した表やグラフを作成することができる。 ② 一般に公開されている統計資料を読み、事象を説明することができる。 ③ 統計資料をもとに、北海道・日本を比較して、発表することができる。
授業の進め方	教員からの講義・説明の後、課題にしたがって作業を行います。 最終回では、統計を用いたプレゼンテーションを作成し、発表する準備を行います。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題の完成度等について、個別にWebClass等で評価・コメントを行います。 また、全体的講評を授業の冒頭に行い、フィードバックとします。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス／基本統計量	オンデマンド
第2回	ヒストグラムを作る	オンデマンド
第3回	標準偏差から見るばらつき	オンデマンド
第4回	相関から見る関係性	オンデマンド
第5回	アンケートの作成と集計	オンデマンド
第6回	北海道に関する統計を利用して発表してみよう①	オンデマンド
第7回	北海道に関する統計を利用して発表してみよう②	オンデマンド

事前・事後学修	コンピュータを使用して統計の操作を行うので、ブラウザの利用や表計算ソフトはある程度使える状態にしておいてください。 事前学修および事後学修は合わせて5時間以上を目安とします。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	課題の提出・内容・宿題 50％ まとめ課題 30％ 発表 20％
テキスト	教科書は指定しません。資料はWebClass等で随時紹介します。

年度	2026
講義コード	5200001
講義名称	Office English
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：72731

担当教員

氏名
◎ エレーナ フォルトゥナート

授業の目的と概要	This course is designed to help students perform administrative tasks using English. Students will learn how to create business documents in English using Word, write and respond to emails with proper etiquette, and practice answering and making phone calls in English. They will also organize the vocabulary and expressions they learn and create a personalized manual that can be used even after graduation. 英語を使って、事務作業を行うことができるように学ぶ授業です。ワードを使って英語のビジネス文書を作成することや、e-mailの作り方、答え方のマナー、また、電話での受け答えについて練習を行います。学んだ単語や表現を整理し、卒業後も活用できるように、自分専用のマニュアルを作成します
到達目標	Using the manual as a reference, students will be able to create simple business documents in English using Word. To learn how to make, answer, and end phone calls in English, to handle basic conversations. To learn how to write English emails and respond appropriately.
授業の進め方	Take notes while understanding the content based on the distributed materials. Practice what you have learned through practical activities, sometimes interacting with classmates to enhance learning. ノートを取りながら、配布される資料を基に、内容を理解する。学んだ内容を実践的なアクティビティで練習し、時にクラスメートとやり取りしながら学ぶ。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback and advice on assignments and submissions will primarily be given individually during class. 提出物、課題などに対しては、主に授業中に個別にフィードバック、アドバイスをを行う
--	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	Course introduction. Communicating through short writings まずは英文を書いてみる Short introduction to English words and expression specifics related to English documents 1. page format 2. margins 3. font and letter size 4. punctuation 5. common business terms and phrases 英文で書類を作成する上で望ましいフォーマット、余白、フォントサイズ、時制、よく使うビジネス用語やフレーズについて学ぶ。 *How to use the automatic spell check in Word. *Start preparing your manual for Office English - instructions マイクロソフトオフィスのワードを使った際のスペルチェックの仕方についても学ぶ 事務系英語の自分用マニュアルを作る準備を始める

第2回	Composing a simple document in English using Word ワードで英語の簡単な書類を作ります 1. date and address 日付と連絡先 2. topic トピック (タイトル) 3. salutation (greeting) 挨拶 4. introduction of the topic 概略 5. body (support paragraphs) 内容詳細 6. conclusion まとめ 7. closing and signature 締めとサイン Activity – write a short document (3 paragraphs, about 70-100 words) 3パラグラフからなる短い書類を、70–100語程度で作成します
第3回	Report to your supervisor (using an internal line) Handling phone calls in English 内線を使って上司に報告する。英語での電話の受け答えの練習 Activity – Give the document you wrote last class to a classmate. You will communicate the contents of the received document to your supervisor over the internal phone line. The supervisor will take notes, and both of you will confirm the details to ensure accuracy. 前回の授業で作成した書類をクラスメー
第4回	Email writing and email etiquette Writing an effective and professional email. 英文メールの書き方とエチケット 仕事で使うのに効果的なe-mailの書き方を学び Using CC in an email What to avoid when writing an email in English (emojis, nicknames, all caps, etc.) Ccの使い方 英文メールを書く際に避けるべきことなど Structure and format of email in English 1. the topic 2. greetings 3. introduction (if necessary) 4. message body 5. closing and signature 英語のメールのフォーマットと構造を学ぶ 1. 内容 2. あいさつ 3. 概要(必要に応じて) 4. 具体的内容 5. 締めとサイン Activity – compose a short email and send it to a classmate (put the teacher in CC.) クラスメートに短いメールを書きます。フィードバックのため、先生をCcに入れて送ってください
第5回	Answering an email (attention to email etiquette) メール返信の仕方 (エチケットに配慮しながら) 1. greetings 2. introduction – refer to the initial message 3. your answer 4. closing and signature 1. 挨拶 2. 導入 (元のメッセージの内容に言及) 3. 返答 4. 締めとサイン Activity – answer the email you received from your classmate クラスメートから受け取ったメールに返事を書いてみる Prepare for a quiz next week 翌週のテストの準備
第6回	Quiz Revise and finish your Office English manual 1. sections 2. vocabulary and expressions 小テスト オフィス英語のマニュアルを整理し完成させる。 語彙と表現、場面をセクション分けして整理

第7回	Submission of the manual
	Final Cumulative – email writing and answering, phone call)
	マニュアルの提出 最終のまとめ （メールの書き方答え方、電話対応、）
	Feedback

事前・事後 学修	Reviewing the expressions and vocabulary learned in class, writing assignments, and practicing writing are necessary. Therefore, more than one hour of study outside of class is required. 授業で学んだ表現や単語を復習し、ライティング課題を復習し、練習をするなどが必要で、それぞれ2時間以上の授業外学習が必要です
-------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	Participation 準備学習 10% Writing assignments ライティング課題 30% Manual 自分用マニュアルの完成 30% Final cumulative 最終のまとめ 30%
テキスト	The instructor will give handouts whenever they are necessary for the classes.

備考	We will distribute small notebooks for creating the manual マニュアル作成のために小さいノートを配布します
----	--

年度	2026
講義コード	5187001
講義名称	世界の中の日本
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71442

担当教員

氏名
◎ 齋藤 修

授業の目的と概要	本授業の目的は、世界の国々との比較の中で我が国についての理解を深めることにある。そして、我が国の特徴や特異性を理解することである。本授業では、地図やデータを利用し、我が国を俯瞰的に見つめるようにする予定である。そこから日本の良さや課題を知る機会とする。
到達目標	①諸地域または世界全体と比較する中で日本の特徴や特異性を理解することができる。 ②地図や統計資料などから日本を分析することができる。
授業の進め方	基本的には配布資料を用いた講義形式で行う。毎時、課題を実施する。それによって、理解度を確認する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎時の課題において、授業時に解説し、フィードバックとする。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス
第2回	世界の中の日本の領土と人々
第3回	世界の中の日本の自然と宗教
第4回	世界の中の日本の文化
第5回	世界の中の日本の世界遺産と観光
第6回	世界の中の日本の情報・メディア
第7回	世界の中の日本の経済と国際化
第8回	世界の中の日本の教育
第9回	世界の中の日本の政治
第10回	世界の中の日本の法・制度
第11回	世界の中の日本の歴史
第12回	世界の中の日本の幸福水準と課題
第13回	まとめ・最終テスト

事前・事後学修	日頃からニュースをみて、世界や日本の動向をチェックする必要がある。 事前学修および事後学修は合わせて5時間以上を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●

(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	1，最終テスト: 50％ ①日本の特徴や特異性の理解 ②資料などから日本を分析 2，毎時の課題とレディネスアンケート：50％（毎時の平均点） ①日本の特徴や特異性の理解 ②資料などから日本を分析
テキスト	特になし（毎時のレジュメ）
参考文献	昭文社出版編集部『なるほど知図帳 世界 ニュースがわかる世界地図2026』昭文社

備考	欠席するとテストに影響することがある。 国名のついた地図は貸し出しできるが、中学や高校で使用した地図があれば持参の方がよい。 （グーグルマップで対応できるのであれば、それでも構わない） 出席については、「レディネスアンケートの提出」・「キャンパスプランポータルでの登録」・「毎時の課題の提出」の3点がなされた場合とする。
----	---

年度	2026
講義コード	5190001
講義名称	ボランティア【遠隔B】
講義開講時期	通年
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71422

担当教員

氏名
◎ 石田　麻英子

授業の目的と概要	ボランティア活動を必要としている人々が沢山います。社会の中のいろいろな困りごとに目を向け、なぜボランティアが必要なのか、ボランティアとは何なのか、活動を通して考えます。皆さんが生活する学内においても、ボランティアを必要とする場面があります。実働のほかにも、寄付活動、その広報活動など、時間とお金を大きく使わずに行える他者を支援する取り組みも多くあります。本講義では、こうした取り組みの実態をケーススタディなどから学び、理解を深め、実際に1年間にわたり活動してみること、助け合うということ、他者のために何かするという事について理解し、この先の長い人生において、自分が何かの形でかわっていきけるボランティアの形を模索することを目指します。
到達目標	ボランティアの様々な事例を通じて社会の現状や課題を理解し、その内容をまとめ、自身の意見も含めて分かり易く説明することができる。 ボランティアをテーマに、他者と共同作業する能力やコミュニケーション能力を身につけ、グループワークに積極的に取り組むことができる。生涯にわたってボランティア活動に参加するための基礎知識を得る。
授業の進め方	主にオンデマンドで概要について理解し、実際の活動を行って、報告を行うことを重ねていきます。報告を共有し、コメントしあうことで理解をさらに深めます。オンデマンドでは、ボランティアの探し方や、案内もいくつか行う予定ですが、こちらで把握しあっせんするのは、清田区役所関係のいくつかのみです。基本的に活動は自分で申し込み参加をしてもらいます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL　フィールドワーク　体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題は、教員がすべて読み、授業内およびLMSを通じて行う。
----------------------------	------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 共同体の中で生き行くことや、日本人の「やさしさ」について、助け合うことでWellbeingに近づける可能性について解説をきき、活動の探し方や授業の提出物の管理の仕方について理解します。年間のボランティアスケジュールを自分なりに作成します。	オンデマンド
第2回	世の中の困りごとについて調査し、ボランティアの可能性を探る 立てたボランティア計画について下調べを行う	同時双方向
第3回	@アクティビティ　ボランティア活動を参加してみよう 1回目の活動を行ってみます。 活動と記録の仕方の動画を参考に、活動を行い、記録を作成して提出する方法になれます。	オンデマンド
第4回	活動報告と問題共有 他者の活動報告から考えたことを交換します。 他者を誘いたい活動がある場合、他者の活動を自分もしてみたい場合の連絡方法を伝えます。	オンデマンド
第5回	@アクティビティ　ボランティア活動を参加してみよう 次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド

第6回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 次の活動を行い、記録を作成して提出します。（ここまでが春学期の予定） 夏休みに活動を行う人は活動計画を提出します。	オンデマンド
第7回	ここまでの活動と次への目標 春と夏の活動記録を整理し、振り返りを行い、秋冬の計画を立てます ボランティアと自分について、一度整理して考察するレポートを出します。	オンデマンド
第8回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第9回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第10回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第11回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 活動と記録の仕方の動画を参考に、次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第12回	@アクティビティ ボランティア活動を参加してみよう 活動と記録の仕方の動画を参考に、次の活動を行い、記録を作成して提出します。	オンデマンド
第13回	これからの私とボランティア まとめの動画、資料などを視聴した後、これからの自分とボランティアとのかかわり方についてレポートを作成します。	オンデマンド

事前・事後学修	予習・復習としては、自分の活動に関連する資料を自分で調べ、探してエントリーするなどの準備と、活動の目標を報告する準備作業と、事後には講義をもとに実習内容を振り返りまとめる作業に取り組んでもらいます。 事前事後学修は合わせて5時間を目安とします。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	個人活動レポート 50% 授業ワークシート 20% 最終レポート 30%
テキスト	適宜資料配布
参考文献	自分がかかわる活動に関する下調べに、図書館などを活用してください

備考	履修人数を見て、オンラインで行う回が2度ほどできる可能性がある 大学からのあっせん活動時は、対面活動となる場合もある
----	--

年度	2026
講義コード	5192001
講義名称	社会保障
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71421

担当教員

氏名
◎ 山内 太郎

授業の目的と概要	本講義では社会保障の法制度が私たちの生活とどのようにかかわっているか理解することを目的とする。また、現代社会における社会問題といわれるトピックについても取り上げて、社会保障とどのようなかかわりがあるかも考えられるようになることも本講義の目的となる。
到達目標	社会保障にかかわる問題が自分の身の回りで起きていることと関連していると気づくようになることを目指します。
授業の進め方	対面で講義形式の授業を実施しつつ、視聴覚資料による学習や必要に応じてPCを使用した調べ学習、グループによる演習を取り入れる予定である。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業の終了前に質問を受け付け、次回講義の冒頭で回答する予定である
----------------------------	----------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション
第2回	生活の中にある社会保障
第3回	社会保障の役割（社会保険を中心に）
第4回	年金制度の現状と課題
第5回	社会保障としての子育て支援制度と保育施策
第6回	社会的養護とはなにか？
第7回	障害とはなにか？
第8回	相模原障害者殺傷事件が問いかけたもの
第9回	障害者の存在は社会の迷惑か？
第10回	女性への支援と福祉
第11回	ホームレス問題と社会
第12回	低所得者福祉
第13回	高齢者の生活保障

事前・事後	具体的な内容】 授業前に関連する内容について書籍や新聞、インターネット等で調べ学習をしておくこと。また、講義終了後、提示された資料等を見直して、振り返りのポイントや重要事項を復習すること。
-------	---

学修	【必要な時間】 それぞれ2～3時間ずつが目安となる。
----	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	小レポート30％ 調べ学習の取り組み30％ 最終レポート40％
テキスト	特になし。
参考文献	講義中に適宜提示する。

年度	2026
講義コード	5215001
講義名称	[春S＋夏集]登録販売者演習【ブレB】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82631
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 時野 香里

授業の目的と概要	平均寿命の延伸により高齢化が進む現代日本。しかし、日々をいかに健康で過ごすかという健康寿命の延伸こそが目指すべき課題である。そのためには「自分自身の健康に責任を持ち、軽度な身体の不調は自分で手当てしていこう」というセルフメディケーションへの取り組みが重要となっている。 この担い手として注目されてきたのが登録販売者である。登録販売者は病気やくすりについての正しい知識を持ち、一般医薬品（第2類・3類）を薬剤師が不在でも販売ができる専門家のことである。 また、被災地の避難所での一般医薬品の使用における指導などの活躍も注目されている。 登録販売者の資格は各都道府県で実施されている試験を受験、合格することで取得することができる公的資格である。 本講義では医薬・販売の講義で学習した知識を生かして登録販売者の資格取得試験受験対策を行うことを目的とするが、本講義においても再度解説を行うため、本講義からの履修も可能である。
到達目標	登録販売者資格試験にも対応できる知識（一般用医薬品の成分や薬効、人体の仕組み、医薬品に関する法律等）を取得する。 希望者は登録販売者資格試験に挑戦し合格を目指す。
授業の進め方	対面、オンデマンド、夏季集中で行う。 スライドを用いた講義形式（主にオンデマンド）。穴埋めプリントも使用。 対面講義に先立ってオンデマンド講義を試聴する。 対面講義では前年度の各都道府県の登録販売者資格試験過去問題を使用し、講義内で解答解説を行う。 また学習の効果を上げるために、グループで解答を作成する方法も取り入れる。 講義の後半では模擬試験を行い、試験合格に重点をおいた取り組みを行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は講義内で行った各都道府県の登録販売者資格試験過去問題で誤答した箇所を次回の講義までに解き直し、提出する。 また、他年度の過去問を提示するので次回までに取り組む（20から40問）。 正解については正解のプリントを配布し、解説希望があれば解説を行う。 教員は課題の正解率で各自の理解度を確認する。 授業内に疑問点について解説を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識に関するオンデマンド講義 医薬品概論 医薬品の効き目や安全性に影響を与える要因 適正な医薬品選択と受診勧奨 薬害の歴史	対面

第2回	第1章 医薬品に共通する特性と基本的な知識に関する過去問演習	オンデマンド
第3回	第2章 人体の働きと医薬品に関するオンデマンド講義① 人体の構造と働き 消化器系 呼吸器系 循環器系	対面
第4回	第2章 人体の働きと医薬品に関する過去問演習①	オンデマンド
第5回	第2章 人体の働きと医薬品に関するオンデマンド講義② 泌尿器系 目、鼻、耳などにの感覚器官 皮膚、骨、関節筋肉などの運動器官 脳や神経系の動き 薬が働く仕組み 症状から見た主な副作用	対面
第6回	第2章 人体の働きと医薬品に関する過去問演習②	オンデマンド
第7回	第3章 主な医薬品とその作用に関するオンデマンド講義① 精神神経に作用する薬 かぜ薬、解熱鎮痛薬、眠気を促す薬、眠気を防ぐ薬、乗り物酔い防止薬、小児鎮静薬 呼吸器官に作用する薬 鎮咳去痰薬、うがい薬	対面
第8回	第3章 主な医薬品とその作用に関する過去問演習①	オンデマンド
第9回	第3章 主な医薬品とその作用に関するオンデマンド講義② 胃腸に作用する薬 胃の薬、腸の薬、胃腸鎮痛鎮痙薬、その他の消化器官用薬 心臓などの器官や血液に作用する薬 強心薬	対面
第10回	第3章 主な医薬品とその作用に関する過去問演習②	オンデマンド
第11回	第3章 主な医薬品とその作用に関するオンデマンド講義③ 高コレステロール改善薬 貧血用薬その他循環器用薬 歯や口中に使用する薬 禁煙補助薬 滋養強壮保健薬 漢方処方製剤・生薬製剤 公衆衛生用薬 一般検査薬	対面
第12回	第3章 主な医薬品とその作用に関する過去問演習③	オンデマンド
第13回	第4章 薬事に関する法規と制度に関するオンデマンド講義① 法律の目的等 登録販売者に関する法律 医薬品の分類取り扱い等 医薬品の定義 毒薬劇薬の定義 一般用医薬品の分類 添付文書に関する法律 医薬部外品、化粧品、保健機能食品 に関する法律 医薬品販売業の許可について 薬局、店舗販売業、配置販売業	対面
第14回	第4章 薬事に関する法規と制度に関する過去問①	オンデマンド
第15回	第4章 薬事に関する法規と制度に関するオンデマンド講義② 医薬品販売時の情報提供について 医薬品の陳列掲示に関する法律 医薬品の購入に関する法律 医薬品販売に関する法令遵守	対面
第16回	第4章 薬事に関する法規と制度に関する過去問②	オンデマンド

第17回	第5章 医薬品の適正使用情報に関するオンデマンド講義 添付文書の読み方 製品表示の読み方 医薬品医療機器に関する安全性情報 医薬品の安全対策 副作用情報の収集、評価及び措置 医薬品の副作用などによる健康被害の救済 一般医薬品に関する主な安全対策 医薬品の適正使用のための啓発活動	対面
第18回	第5章 医薬品の適正使用情報に関する過去問	オンデマンド
第19回	第1回模試①	対面
第20回	第1回模試②	オンデマンド
第21回	第1回模試解説①	対面
第22回	第1回模試解説②	オンデマンド
第23回	第2回模試①	対面
第24回	第2回模試②	オンデマンド
第25回	第2回模試解説①	対面
第26回	第2回模試埋設②	オンデマンド

事前・事後学修	講義内で取り組んだ問題、課題、模擬試験などで間違えた箇所は解き直しを行い、必要に応じてノートにまとめる。 暗記を必要とすることが多いので予習復習はできる限り時間を見つけて取り組むようにする。 公的資格の試験合格を目指す講座である。合格に向けて学習時間をできるだけ確保することが望ましい。 授業の理解、模擬テストに向けてそれぞれ2時間半程度の学習時間は必要。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	講義内模擬テスト 3回 30％ 課題提出物など70％
テキスト	令和6年版 全国登録販売者試験 過去問正解 株式会社ドーモ 薬事日報社
参考文献	厚生労働省 「登録販売者 試験問題作成に関する手引き」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、薬剤師としての実務経験を基に、薬学博士やスポーツファーマシストの資格を取得し、医療事務や調剤薬局事務の検定合格、さらに応急講習指導員資格取得予定など、幅広い専門スキルを持っています。この豊かな経験を基に、医療と薬学の実践的な知識を提供する講義を展開します。
備考	必要に応じて遠隔もしくはオンデマンドの講義を行う（講義予定の半分はオンデマンドとする） オンデマンド先行で講義が開始するので注意すること オンデマンドは試験期間は1週間とする。開始の1週間以上前に告知する。

年度	2026
講義コード	5436001
講義名称	教育と保育の方法
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80371
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 田村 めぐみ

授業の目的と概要	保育は、目の前にいる子どもの一人ひとりの発達や育ちにに応じたかかわりが必要である。 その実現に向け、幼児期に育みたい資質・能力を理解するとともに、幼稚園教育要領や保育所保育指針等 に示されている各領域のねらい及び内容について、理解を深めていく。 また、具体的な保育場面や子どもとのかかわりを想定して、保育を構想する方法を身に付ける。
到達目標	・ 子ども理解の意義を理解している。 ・ 子ども理解にもとづいた保育を構想することの重要性について理解している。 ・ 各領域の特性や子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材等の活用法を理解し、保育の構想に活動することができる。
授業の進め方	講義形式で行う。事例検討や視聴覚教材などにも触れながら、具体的な保育場面について、自分の考えをまとめたり、グループワークや模擬保育の実践を通すなどして、体験的に学ぶ。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の講義へのコメントや質問等については、次回講義の際に回答する 指導案・記録・評価について、全体で共有し、改善の視点について検討する。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 保育とは何か
第2回	子ども理解に基づいた保育方法
第3回	子どもにふさわしい園生活と保育形態
第4回	養護と教育が一体となった保育の方法
第5回	環境を通した保育の方法 遊びを通した保育の方法
第6回	個と集団を活かした保育の方法
第7回	0・1・2歳児の発達に応じた保育方法 3・4・5歳児の発達に応じた保育方法
第8回	配慮を要する子どもへの保育方法
第9回	教材や情報機器を活かした保育方法 家庭・地域・小学校と連携した保育
第10回	保育の計画・実践・評価①

第11回	保育の計画・実践・評価②
第12回	保育の計画・実践・評価③
第13回	全体のまとめと振り返り・履修カルテの記載 最終試験

事前・事後学修	【具体的な内容】 授業内容と各解説書を参照し、3法令に対応した理解を進める。 図書館等を利用し、広い範囲からの情報を収集し、指導案作成等に取り組んでほしい。 【必要な時間】 事前事後それぞれ2時間半程度を目安とする。
----------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	○定期試験　３０％ 「子ども理解の意義を理解している」「子ども理解にもとづいた保育を構想することの重要性について理解している」ことを評価基準とする。 ○授業内レポート　３０％ 「子ども理解の意義を理解している」「各領域の特性や子どもの体験との関連を考慮することができる」ことを評価基準とする。 ○授業内提出物　３０％ 「子ども理解に基づいた保育の構想をすることができる」「子ども理解に基づき、情報機器や教材等の活用法を理解し、保育を構想することができる」ことを評価基準とする。 ○模擬保育　１０％ 「専門知識・技能を活用することができる」「保育の構想や模擬保育を通して、課題を発見し、解決する力を身に付ける」ことを評価基準とする。
テキスト	必要に応じてプリントを配布
参考文献	「保育方法・指導法」大豆生田啓友・渡邊英則編著　ミネルヴァ書房 「幼児理解からはじまる　保育・幼児教育法【第２版】」小田豊・中坪史典編・著建帛社 「保育方法の実践的理解」久富陽子・梅田優子　萌文書林 「保育所保育指針解説書」厚生労働省編　フレーベル館 「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編　フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書」内閣府・文部科学省・厚生労働省編　フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園・認定こども園での実務経験のある教員が子どもとかわかる視点や保育の計画の重要性等について理解を深める講義を実施する。
備考	これまでの保育原理や教育原理で学んだ、保育・幼児教育の基本を復習しておくこと。子どもの発達の道筋を理解しておくこと。これまでに経験をした各実習の日誌や、実践した指導案を振り返ったり、省察しておくこと。

年度	2026
講義コード	5439001
講義名称	子どもの健康と安全[幼教]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80561
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 林 二士

授業の目的と概要	保育現場において、子どもの健康と安全を守るために、保育の専門職として必要な知識と技術の習得を図る。
到達目標	1. 子どもが安全で健康に生活できる保育環境や援助について説明できる。 2. 保育の場における感染症の予防対策が説明できる。 3. 保育の場におけるアレルギー対応が説明できる。 4. 子どもの体調不良時の対応が説明できる。 5. 保育における保健的対応の考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に適した対応について考えることができる。 6. 保育における衛生管理、事故防止と安全対策、危機管理、災害対策について説明できる。
授業の進め方	・保育士や幼稚園教諭に必要な基礎知識を各テーマにて講義・演習形式で行う。 ・現場で起こる（起きた）具体的な事例をもとに、内容によってはデモンストレーション等も取り入れ展開していく。 ・「より良い保育を自ら考え、創意工夫する力」を育むため、学生が主体的に学べる演習課題やグループワークを取り入れ、実践的に学びを深める。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・口頭発表には、その場で助言する。 ・講義内容の振り返りや課題については授業内で解説する
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	保健的観点を踏まえた保育環境と援助 ・子どもの健康と保育環境 ・子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理
第2回	保育における健康と安全の管理 ・衛生管理 ・事故防止と安全対策 ・危機管理 ・災害への備え
第3回	子どもの体調不良等に対する適切な対応 ・体調不良や傷害が発生した場合の対応 ・応急処置 ・救急処置及び救急蘇生法
第4回	感染症対策 ・感染症の集団発生予防 ・感染症発生時と罹患後の対応

第5回	保育における保健的対応 ・保育における保健的対応の基本的考え方 ・3歳未満児への対応 ・個別的な配慮を必要とする子どもへの対応 ・障害のある子どもへの対応
第6回	健康及び安全の管理の実施体制 ・職員間の連携・協働と組織的取り組み ・保育における保健活動の計画及び評価 ・母子保健・地域保健における自治体との連携 ・家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携
第7回	これからの「子どもの健康と安全」 ・期末テストとその解説

事前・事後学修	・事前学修(2時間半) 幼稚園、保育園実習を行い「健康と安全」について困ったこと、疑問に思ったこと、学びを深めてみたいと思うこと等をまとめておく。 今回の講義内容についてテキストをよく読み、質問などをまとめておく。 ・事後学修(2時間半) 授業内容を必ず復習し、重要なポイントをまとめておく。 現場の状況を、頭の中でシュミレーションしながら自分なりの事故対応マニュアルを描き、自身の資質を高めていく。 就職に向け、実際に保育や健康・安全・危機管理を進められるよう準備の意識をもつようにする。
-----------------------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・保育現場における事故や安全管理の知識や対応の理解について以下で評価する。 小テスト・小レポート（35％） 期末テスト（35％） ・演習や実技などの授業における取り組みや意欲態度について以下で評価する。 口頭発表・課題（振り返りも含む）の提出（30％）
テキスト	【テキスト】 ・子どもの健康と安全 監修：公益財団法人 児童育成協会 中央法規 ・これだけはおさえたい！保育者のための「子どもの健康と安全」 創成社
参考文献	・保育所における感染症対策ガイドライン 厚生労働省 ・保育所におけるアレルギー対応ガイドライン 厚生労働省 ・保育所における食事の提供ガイドライン 厚生労働省 ・教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン 厚生労働省 ・保育の安全と管理 同文書院

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	認定こども園園長の実務経験をもとに、現場での健康管理や安全管理の事例を示し具体的に講義する。
備考	日ごろから、ニュース・新聞などで「子どもの健康」や「保育の事故や安全」に関する出来事や情報に関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」「どう行動するか」などの意見を持つように心掛けてください。

年度	2026
講義コード	5443001
講義名称	子ども家庭支援論[幼教]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80453
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 田村 めぐみ

授業の目的と概要	子ども家庭支援の意義や役割をはじめとして、子どもとその家庭の理解を深め、子育て家庭への支援に関する保育士としての基本姿勢や支援の内容、具体的に実践するための技術や方法について学修します。
到達目標	子ども家庭支援の意義や役割を説明することができ、それを実践するための具体的な方法や技術を使うことができることを目的とします。
授業の進め方	授業は講義形式で進めるが、内容によってグループワークなどを取り入れて行う。テキストだけに頼らず、北海道や札幌市の具体的な事例も取り入れながら学修を進める。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業においてリアクションシートに感想や質問などを記入し提出。次回の講義の冒頭で質問に対する回答を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 子ども家庭支援とは
第2回	子ども家庭支援の意義と必要性
第3回	子ども家庭支援の目的と機能
第4回	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 保育の専門性を活かした子ども家庭支援とその意義
第5回	子どもの育ちの喜びの共有
第6回	保護者及び地域が有する子育て支援を自ら実践する力の向上に資する支援と保育士の態度 小テスト
第7回	保育士に求められる基本的態度 家庭の状況に応じた支援
第8回	地域の資源の活用と自治体・関係機関等との連携・協力
第9回	子ども家庭支援の内容と対象 保育所等を利用する子どもの家庭への支援
第10回	地域の子育て家庭への支援
第11回	関係機関の種類と社会資源の特徴 小テスト

第12回	要保護児童及びその家庭に対する支援
第13回	子育て支援に関する課題と展望・履修カルテの記載 最終試験

事前・事後学修	【具体的な内容】 毎回授業の単元について読んでくること。またホームページなどで居住地の子育て支援について調べておくこと。 授業後にはノートに内容を整理すること。 【必要な時間】 毎回の授業の事前・事後の学習時間として、それぞれ2時間半を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	○小テスト　３０％ 「子ども家庭支援の意義や役割を理解し、説明することができる」ことを評価基準とする。 ○授業内での取り組み　２０％ 「子ども家庭支援の意義や役割を理解している」ことを評価基準とする。 ○最終試験　５０％ 「子ども家庭支援について理解を深め、実践するための方法や技術を身に付ける」ことを評価基準とする。
テキスト	松原康雄・村田典子・南野奈津子編集「子ども家庭支援論」2023　第2版　中央法規
参考文献	参考文献は必要に応じて周知します。 各自治体のHP（子育てに関するページ）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、子育て支援施策に携わっていた実務経験を持つ教員が担当し、分かりやすく実践的な講義を行う。
備考	「子育て支援」という科目の理論編となるものです。積極的な姿勢で臨み保育士としてのスキルを身につけてください。 保育士資格取得における必修科目です。

年度	2026
講義コード	5442001
講義名称	子ども家庭支援の心理学[幼教]
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80471
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 深浦　尚子

授業の目的と概要	子どもとその家庭を、発達の視点でとらえ、現代の子育て家庭の社会状況と課題について理解することを目的とする。 家族・家庭の機能、子育て家庭の現状、課題について学ぶ。また、子どもの精神保健とその課題についても学ぶ。
到達目標	生涯発達を踏まえ、親子関係、家族を発達的な視点で理解する。また、子育て家庭をめぐる社会的状況と課題の理解、子どもの精神保健とその課題を理解する。
授業の進め方	講義形式で行うが、グループワークなどを取り入れ、ワークシートの作成など能動的な学修を目指す。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については、授業内で解説を行う。
----------------------------	--------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	乳児期の発達と幼児期の発達 乳児期の発達と幼児期の発達について講義する。
第2回	学童期の発達と青年期の発達 学童期の発達と青年期の発達を講義する。
第3回	青年期の発達 青年期の発達について講義する。
第4回	成人期・中年期の発達と高齢期の発達 生涯発達という視点から成人期・中年期、高齢期の発達について講義する。
第5回	家族・家庭の意義と機能 戦後から現代までの家族・家庭の意義と機能の変化について講義する。
第6回	家族関係・親子関係の理解 家族関係と親子関係が戦後から現代までどのような変化をしてきたか、その中で何が問題なのかということを講義する。
第7回	子育て経験と親としての育ち 子育て経験は、親の育ちとしてどのように寄与しているのかを講義する。
第8回	子育てを取り巻く社会状況 子育てを取り巻く社会状況の変化とその影響が子どもにどのように影響するのかを講義する。
第9回	ライフコースと仕事・子育て 女性と男性のライフコースの変化や子育ての変化を講義する。

第10回	多様な家庭とその理解、授業内レポート 現代社会における多様な家庭があることや多様な家庭に影響される子どもについて講義する。授業内でレポート作成する
第11回	特別な配慮を要する家庭 特別配慮が必要な家庭はどのような家庭でどのような配慮が必要なのかということについて講義する。
第12回	子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの生活・生育環境が子どもの心身の発達にどのような影響を及ぼすのかについて講義する。
第13回	子どものこころの健康にかかわる問題 授業内テスト 子どもの心の健康に家庭がどのように影響するのかについて講義する。

事前・事後学修	事前・事後学修については、合わせて5時間程度が必要である。具体的な内容としては、事前は教科書の予習、事後は講義の復習が必要である。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	コミュニケーションシート20％ 中間レポート30％ 授業内試験50％
テキスト	「子ども家庭支援の心理学」新基本シリーズ9 編 白川佳子、福丸由佳 中央法
参考文献	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、札幌国際大学付属幼稚園で園長として、教育・保育の現場を運営し、子どもたちの成長を支える環境作りに尽力してきました。この実務経験を基に、幼児教育の理論と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	5449001
講義名称	社会的養護Ⅱ〔幼教〕
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82472

担当教員

氏名
◎ 山内　太郎

授業の目的と概要	本講義では保育士としての倫理や責務をあらためて確認し、社会的養護の特性を踏まえた具体的なかわり技法について学ぶことを目的とする。
到達目標	事例検討を通して、社会的養護を必要とする子どもたちの現状を理解すること。様々な家庭のかたちがあり、保護者支援も保育士の重要な業務であると理解すること。以上の二点が到達目標となる。
授業の進め方	テキストを中心に進めつつ、各回の講義において個人あるいはグループに分かれた演習を行う予定である。主体的な受講姿勢が求められる。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	講義の時間の中に適宜質疑応答の時間を設ける。
----------------------------	------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション/保育士の倫理と責務
第2回	子どもの健康と成長を守る取り組み
第3回	児童養護の体系と児童福祉施設の概要
第4回	里親制度の現状と課題
第5回	施設養護の実際①【アドミッションケア・インケア】
第6回	施設養護の実際②【リービングケア・アフターケア】
第7回	社会的養護の動向【施設養護と家庭養育】

事前・事後学修	【具体的な内容】 事前学習としてテキストの該当する箇所を読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料や演習内容について復習をしておくこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、合わせて5時間程度が目安である。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	

(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	期末レポート50％ 演習への取り組み35％ 毎回の章レポート15％
テキスト	『児童の福祉を支える 演習 社会的養護Ⅱ』吉田眞理編著 萌文書林
参考文献	必要に応じて適宜提示する。

年度	2026
講義コード	5447001
講義名称	子育て支援[幼教]
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80456
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 田村 めぐみ

授業の目的と概要	「子ども家庭支援論」の学びを基礎として、保護者が置かれている現状を理解するとともに、保育者の子育て支援の意味や重要性について理解すること。 子どもの最善の利益を保証するための子育て支援についての理論や方法を理解するとともに具体的な事例をもとに望ましい子育て支援のあり方を検討する。
到達目標	・ 子育て支援は子どもの最善の利益に基づいて行うことを理解し、その必要性を説明することができる。 ・ 様々な事情を抱えた保護者の心情を理解しようとする。そのうえで、保護者支援のために必要な知識と技術を獲得し、実践的な支援ができるようになる。
授業の進め方	授業は講義と演習を織り交ぜながら、実際の事例について、どのように理解し、支援を行うのがよいのかを実践形式で学習する。 グループワークを行い、自分自身の考えだけではなく、他者の考え方を知り、支援の在り方について幅広い観点をもてるようにする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業感想や質問等を集約し、共通する疑問点については、次回講義時に回答・解説をする。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 子育て支援とは何か 保育者の行う子育て支援の特性
第2回	子育て支援の展開 支援のための連携と協働
第3回	保育者に求められる子育て支援の基本 保育所等における子育て支援
第4回	地域の子育て家庭に対する支援 乳児をもつ保護者の支援
第5回	保護者の自己肯定感を下げない具体的支援 多様なニーズを抱える子育て家庭の理解とその支援
第6回	児童虐待の予防と対応の実践 要保護児童等の家庭に対する支援
第7回	授業の総まとめ及び試験

【具体的な内容】

事前・事後学修	授業前に学習範囲のテキストを読んでおくこと。 【必要な時間】 事前・事後ともにそれぞれ2時間半程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	○毎回提出するワークシート　３０％ 「子どもの最善の利益に基づいた支援が基本であることを理解する」「子育て支援の必要性について理解する」ことを評価基準とする。 ○グループワークや課題への取り組み　２０％ 「保護者支援のために必要な知識と技術を実践的な学びを通して身に付ける」ことを評価基準とする。 ○最終試験　５０％ 「保護者支援のために必要な知識と技術を身に付け、実践的な支援ができるようになる」ことを評価基準とする。
テキスト	太田光洋編著　『子育て支援-保育者に求められる新たな専門的実践-』2022　同文書院
参考文献	渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀編著　『新しい保育講座1　保育原理』ミネルヴァ書房 高嶋景子・砂上史　編著　『新しい保育講座3　子ども理解と援助』ミネルヴァ書房 菊池篤子・金瑛珠編『ワークで学ぶ　子育て支援』2024　(株)みらい 倉石哲也編集代表『人口減少時代に向けた　保育所・認定こども園・幼稚園の子育て支援』2023　中央法規 「保育所保育指針解説書」厚生労働省編　フレーベル館 「幼稚園教育要領解説書」文部科学省編　フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	本講義は、幼稚園教諭・保育教諭の実務経験のある教員が、子育て支援に関わる知識・技術を活かして、子育て支援の意義や習得すべき知識・技能について、教員の視点から理解できるように学びをサポートします。
備考	欠席した場合は必ずその回の内容を各自で補い、必要に応じて教員にも確認すること。 保育士資格必修科目

年度	2026
講義コード	5452002
講義名称	特別支援教育・保育(基礎)
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	1年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：81263
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 愛下 啓恵

授業の 目的と 概要	本講義では、特別な支援を必要とする子どもの幼児教育、保育、発達支援・療育の場において、すべての子どもが安心して育つことができる保育環境づくりの視点を養い、多様性を尊重する保育者としての基礎的な態度・知識・実践力を身につけることを目指し、以下について取り組んでいきます。 1. 障がいに関する理念を学び、発達の視点から障がいを個々の発達過程の一つとして捉える考え方を身につける。 2. 様々な障がいについての基本的な理解を深め、子どもの発達特性を踏まえた支援や援助の方法、環境環境の工夫・構成について学ぶ。
到達目 標	・障がいに関する基本的な理念を理解し説明できる。 ・発達の視点から障がいをとらえ、子ども一人ひとりの個性や可能性を尊重する。 ・様々な障がいの特徴と保育者の支援や援助の基本的な考え方を理解し説明できる。
授業の 進め方	・実務経験のある教員の講義に加えて、重度心身障がい児・医療的ケア児の保育や発達支援・療育についての保育経験者の語りを聴講し、障がい児保育の理念や発達の視点、幼児教育、保育、発達支援・療育の場における子どもも理解や実践的な支援・援助方法を深めます。 ・初回に構成したグループでグループワーク・ディスカッションを行い、発表をします。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	小テストは後日に授業内で解答・解説を行います。また授業内で実施した課題は、次回授業の冒頭で講評します。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 障がい児等の理解と保育における発達の支援や援助①（グループワーク）	対面
第2回	障がい児を支える理念	対面
第3回	障がい児等の理解と保育における発達の支援や援助②（グループワーク）	対面
第4回	障がい児等の理解と保育における発達の支援や援助③（グループワーク発表）	対面
第5回	障がい児等の理解と保育における発達の支援や援助（グループワーク発表）	対面
第6回	障がい児等の理解と保育における発達の支援や援助 まとめ 小テスト	対面
第7回	障がい児等の理解と保育における発達の支援や援助④（重心・医療児ケア児の理解と支援や援助）	対面

事前・事後学修	・事前（予習）、事後学習として、授業に対応しているテキストの該当箇所を熟読しましょう。また、障がい児保育に関係する書籍は数多く出版されています。自身が読みやすい、わかりやすいと感じるものに積極的に触れて欲しいと思います。 ・事後学習（復習）は、授業内容を整理する、テキストのワークを行う、関連する書籍を読むなどし、理解や知識を深めるように心がけてください。 ・グループ発表の準備は、授業内で完成しない場合には事前学修の時間を用いてまとめ、期日までに完成してください。
---------	---

	・事前、事後学修の時間は、それぞれ2時間を目安とします。
--	------------------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	・様々な障害の特徴と支援や援助の基本的な考え方の理解：小テスト（50％）とグループワーク（20％）、レポート（10％） ・障がいに関する基本的な理念や発達の視点から障がいをとらえ、子どもの発達や背景の理解：授業内課題（20％）
テキスト	障害児保育演習ブック、増南太志編著、ミネルヴァ書房
参考文献	適宜紹介します

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	障がい児保育や発達支援・療育、乳幼児発達相談の実務経験のある教員が実践内の事例を含めながら、講義を実施します。
備考	・授業中に発表や発言を求めることがあります。丁寧に考えること、言葉にすることを意識してください ・講義内容を向上させる意味で、受講回数の順序や内容を変更する場合があります

年度	2026
講義コード	5451001
講義名称	特別支援教育・保育(応用)[小岩]
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82266
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小岩 季之

授業の目的と概要	障害病理や発達特徴などの基礎的知識を確認するとともに、特別な支援を要する子どもの困難について背景を含めて理解を深める。 共に育ちあう視座に立った保育における留意点・援助のあり方を、具体的場面を想定しながら検討する。
到達目標	1．障害児支援の枠組みや歴史の変遷について確認し障害児及びその保育について説明できる。 2．個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について説明できる。 3．障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について具体的方法を説明できる。 4．障害児、その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解し、多様な観点から特別支援保育・教育について述べることができる。
授業の進め方	講義を基本とし、必要に応じて視聴覚教材で理解を深め、グループワーク等で能動的な学習を行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提示した課題については、講義中もしくは次回の講義の中でフィードバックを行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 障害について（ICIDHとICF） 障がい児保育の意義
第2回	発達障害の理解と支援 知的障害の理解と支援
第3回	言語障害の理解と支援 聴覚障害の理解と支援
第4回	肢体不自由の理解と支援 視覚障害の理解と支援
第5回	重症心身障害・重複障害の理解と支援 病弱・虚弱児の理解と支援
第6回	家庭および地域・関係機関との連携 特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題
第7回	授業内試験・解説 まとめ

【具体的な内容】

事前・事後学修	事前学習としてテキストの該当する箇所を読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料や演習内容について復習をしておくこと。 【必要な時間】 予習・復習の時間は、合わせて2時間程度が目安である。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	「到達目標」に明示している内容を提出物・授業内試験の評価基準とする。 評価方法の割合は以下のようにする。 授業内試験：50％ 授業内課題：30％ 提出物：20％
テキスト	『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』小林徹・栗林宣夫編 みらい
参考文献	講義中に適宜提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	保育現場における幼稚園教諭・特別支援コーディネーター補佐の実務経験を有する教員により、特別支援教育・保育に関する基本的知識と保育現場における実践を関連づけて授業を行う。
備考	必要に応じてスマートフォン・タブレット・パソコンを使用するため、持参すること。

年度	2026
講義コード	5451002
講義名称	特別支援教育・保育(応用)[愛下]
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：82266
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 愛下 啓恵

授業の目的と概要	本講義では、障がい児保育！で習得した知識や技術をもとに特別な支援を必要とする子どもの理解を深め、実践的な支援方法を学ぶこと、保護者支援や関係機関の連携についての理解を深めることをめざします。当事者の語りや事例なども含めた学びの中で、保育者として実践に必要な子ども理解、専門知識・支援のあり方を主体的に考える力を身につけて欲しいと思います。
到達目標	・特別な支援を必要とする子どもの発達や特性を理解し、支援計画や援助方法について考えることができる。 ・保護者支援のあり方を理解するとともに、インクルーシブ教育の理念を踏まえた地域の専門機関や小学校との連携の意義について説明できる。
授業の進め方	・実務経験のある教員の講義に加えて、専門機関のPT及び保育者、特別な支援を必要とする子どもの保護者の語りを聴講し、職員間や関係機関との協働・連携のあり方や実践的な支援方法、保護者支援の理解を深めます ・初回に構成したグループでグループワーク・ディスカッションを行い、発表をします

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	個別課題についてはLMSを通して必要に応じてコメントする。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション 心の支援	対面
第2回	保育・発達支援（療育）における計画の作成や援助方法①（理論とグループワーク）	対面
第3回	特別な支援を必要とする子どもの生活や遊びの環境・かかわり方	対面
第4回	障がい児の保育とインクルーシブ教育	対面
第5回	地域の専門機関・小学校との連携	対面
第6回	特別な支援を必要とする子どもの保護者支援	対面
第7回	保育・発達支援（療育）における計画の作成や援助方法②（遊びを通した実践的な理解）グループワーク発表 まとめ	対面

・事前、事後学習として、授業に対応しているテキストの該当箇所を熟読しましょう。また、障がい児保育に関係する書籍は数多く出版されています。参考文献に限らず、自身が読みやすい、わかりやすいと感じるものに積極的に触れて欲しいと思います ・事前学習（予習）として、障がい児保育！で学んだことを整理しておきましょう

事前・事後学修	・事後学習（復習）は、授業内容を整理する、テキストのワークを行う、関連する書籍を読むなどし、理解や知識を深めるように心がけてください ・グループ発表の準備は事前、事後学修時間を使用してすすめ、期日までに完成してください ・事前、事後学習の時間は、それぞれ5時間を目安とします。 事前学習としてテキストの該当する箇所を読み込んでおくこと。事後学習として配布された資料や演習内容について復習をしておくこと。
	【必要な時間】
	予習・復習の時間は、合わせて2時間程度が目安である。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	グループワーク（支援計画・発表） 30％ レポート（講義や学び、理解の表現） 20％ 授業参加・ディスカッション 20％ 小テスト・リアクションペーパー（理解・知識確認） 30％
テキスト	障害児保育演習ブック、増南太志編著、ミネルヴァ書房
参考文献	適宜紹介します

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	障がい児保育や発達支援・療育、乳幼児発達相談の実務経験のある教員が実践内の事例を含めながら、講義を実施します。
備考	・授業中に発表や発言を求めることがあります。丁寧に考えること、言葉にすることを意識してください ・講義内容を向上させる意味で、受講回数の順序や内容を変更する場合があります ・本講義は、障がい児保育！で習得した知識や技術を応用し、展開される内容もあります。

年度	2026
講義コード	5482001
講義名称	保育英語Ⅲ
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：73126

担当教員

氏名
◎ 富田 敏明

授業の目的と概要	近年、グローバル化社会の中で、外国とのつながりのある保護者や子どもたちが増加している。本講義では、保育英語Ⅱを踏まえ、保育士として、子どもや保護者と英語を通してコミュニケーションを図るための英語表現を身に付ける。また、海外研修の事後学習の位置づけで、研修中学んだこと、体験したことを英語でプレゼンテーションする機会を設け、英語で効果的、的確に相手にメッセージを伝える能力を身に付ける。
到達目標	・保育現場における基本表現を用いて、日常的な会話ができる。 ・自分の伝えたいメッセージを英語プレゼンテーションの形で伝えることができる。
授業の進め方	・実際の保育現場を想定した英語表現をペアワークやグループワークを中心に学習する。 ・英語を使う楽しさを伝えるため、英語の歌や英語の絵本の読み聞かせなどの演習をする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク 体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で伝えるとともに、特にパフォーマンス課題については学生からのフィードバックをクラス内で共有する。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション	対面
第2回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 英語プレゼンテーションのスキル (1)	対面
第3回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話の関連表現等 FTセッション 英語プレゼンテーションのスキル (2)	遠隔（同時双方向）
第4回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話関連表現等 英語プレゼンテーションのスクリプト作成	対面
第5回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話関連表現等 FTセッション 英語プレゼンテーションのスクリプト作成	遠隔（同時双方向）
第6回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話関連表現等 英語プレゼンテーションのスライド作成、リハーサル	対面
第7回	児童英語のキーワード、保護者や子どもとの会話関連表現等 英語プレゼンテーション（海外研修報告）	対面
第8回	保護者や子どもとの会話関連表現等 英語の歌の指導	対面

第9回	保護者や子どもとの会話関連表現等 FTセッション	遠隔（同時双方向）
第10回	保護者や子どもとの会話関連表現等 英語の歌の指導、英語の絵本の読み聞かせ	対面
第11回	保護者や子どもとの会話関連表現等 FTセッション	遠隔（同時双方向）
第12回	保護者や子どもとの会話の関連表現等 英語の歌の指導、英語の絵本の読み聞かせ	対面
第13回	確認テストと解説 これまでのまとめ	対面

事前・事後学修	[具体的な内容] ・授業で学習する英語表現はすらすら読めるようにしましょう。（2時間） ・学んだ英語表現等はその日のうちにしっかり覚えましょう。（1時間） ・プレゼンテーション等に取り組む際は、何回も練習して臨みましょう。（2時間） 事前学修および事後学修はそれぞれ5時間以上を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①プレゼンテーション、パフォーマンス課題　40％ ②毎回の課題等　　30％ ③小テスト、確認テスト　　30％
テキスト	・「Speaking of Childcare」 Peter Vincent, Naoko Nakazato　（南雲堂） ・「Brown Bear, Brown Bear, What Do You See?」 Bill Martin, Eric Carle (Penguin Random House)
参考文献	・「MY VERY FIRST MOTHER GOOSE」 edited by Iona Opie illustrated by Rosemary Wells (Candlewick Press) ・「英語の歌&アクティビティ集」　アルクキッズ英語編集部編　（アルク） ・「よりぬきマザーグース」 谷川俊太郎訳、鷺津名都江編　（岩波書店）

備考	・ Be helpful. ・ Be friendly. ・ Be active. ・ Be creative. ・ Be ambitious.
----	--

年度	2026
講義コード	5461001
講義名称	幼児理解
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80265
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 深浦 尚子

授業の目的と概要	幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものです。 幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる力を身に付けます。
到達目標	1.幼児理解の意義と原理・・・幼児理解についての知識を身につけ、考え方や基礎態度を理解する 2.幼児理解の方法・・・幼児理解の方法を具体的に理解する
授業の進め方	演習形式で行う。グループワークを取り入れる。また、ワークシートに必要事項を記入、提出を求めます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は、授業中に行い、提出し、コメントをつけて返却します
----------------------------	------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	子ども理解の意義と原理と保育における子ども理解の意義 子ども理解とは何かについて学びます。
第2回	子ども理解に基づく養護及び教育の一体的展開と子どもに対する共感的理解と子どもとの関わり 子ども理解に基づいた保育の展開とそこで重要な共感的理解について学びます。
第3回	子どもの生活と遊びと人的環境としての保育者と子どもの発達 子どもにとっての生活と学びの意義とそこでの保育者の振る舞い、それが子どもの発達にどのように影響するかを学びます。
第4回	集団における経験と育ちと保育環境の理解とその構成 集団を通して子どもはどのように育つのか、子どもにとっての良い環境構成とはを学びます。
第5回	子どもを理解する方法と職員間の対話・保護者との情報の共有 子どもを理解する方法にどのようなものがあるのか、その中での職員間の対話や保護者との情報の共有がどのよう幼児理解につながるのかを学びます。
第6回	発達の課題に応じた援助と関わりと特別な配慮を要する子どもの理解と援助 子どもに応じた発達課題についての関りについて、学修します。
第7回	発達の連続性と就学への支援と授業内テスト 幼保小連携についてと、本科目のまとめを行い、授業内でテストを行う。

事前・事後学修	テキストを読むなどの予習、復習が必要です。それぞれ1時間～2時間程度必要となります。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	ワークシート50％ 授業内テスト50％
テキスト	「子ども理解 個と集団の育ちを支える理論と方法」請川滋大 萌文書林
参考文献	保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の 経歴と授業内容	担当教員は、札幌国際大学付属幼稚園で園長として、教育・保育の現場を運営し、子どもたちの成長を支える環境作りに尽力してきました。この実務経験を基に、幼児教育の理論と実践を融合した学びを提供する講義を展開します。
-----------------------	--

年度	2026
講義コード	5497003
講義名称	人間と心理[幼教]【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：7061a

担当教員

氏名
◎ 永井 敦

授業の目的と概要	心理学の基礎的な知識を習得し、心理学的な見方や考え方を学ぶことを目的とします。
到達目標	（１）心理学的な知識を習得することができる。 （２）心理学的な見方・考え方を活用して日常生活や社会の問題について学びを深めることができる。
授業の進め方	フルオンデマンド授業となります。 パワーポイント資料を用いながら解説していきます。また、授業内容に応じて映像資料等も活用します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業や課題に関わる質問・フィードバックはwebclassやoutlookなどで受け付け、対応いたします。 授業全体に関わるフィードバックに関してはwebclass、 campus portal等を利用して告知いたします。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	オリエンテーション	オンデマンド
第2回	心理学とは何か	オンデマンド
第3回	心と脳	オンデマンド
第4回	感覚と知覚	オンデマンド
第5回	記憶	オンデマンド
第6回	学習・言語	オンデマンド
第7回	思考・情動	オンデマンド
第8回	動機づけ	オンデマンド
第9回	発達	オンデマンド
第10回	人格	オンデマンド
第11回	障害	オンデマンド
第12回	社会行動	オンデマンド
第13回	対人関係とコミュニケーション	オンデマンド

事前・事後学修	【事前学修】 ・心理学の書籍・web資料等を用いて授業内容に関する予習 【事後学修】 ・授業内容の復習と自身の興味・関心に応じた内容の掘り下げ 事前・事後学修それぞれ2.5時間程度を目安とします。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	(1) 授業内小テスト（50％） (2) 授業内課題の提出（50％）
テキスト	授業で使用するプリントを事前にwebclassにて公開します。各自、ダウンロード・印刷して授業中に活用できるようにしてください。
参考文献	授業中に適宜紹介します。

年度	2026
講義コード	5518002
講義名称	多文化共生論[幼教]【遠隔B】
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(B)
単位数	2単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：7061b

担当教員

氏名
◎ 野崎 剛毅

授業の目的と概要	本講義は、主に日本国内の多文化主義に関する実情、対策を取り上げ、共生のあり方を検討することを目的とする。現状の把握をもとに、これまでに蓄積してきた理論の批判的検討や各国の事例を学ぶことで、社会が多文化であること、他者の文化を尊重することの意義について深めていく。
到達目標	・多文化に関する基礎的な理論を理解し、説明できる。 ・多文化共生の可能性と問題点をともに理解し、よりよい共生のあり方を検討できる。 ・日本と世界における多文化状況を理解する。
授業の進め方	オンデマンド形式でおこなう。毎回、Webclassに動画をアップするので、1週間のうちにみて課題を提出すること。 なお、本講義では「動画をすべてみていること」「各回の小テストに回答していること」を「出席」の条件とする。どちらか一方ができていない場合「欠席」扱いとなるので出欠状況はこまめにチェックすること。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	意見や質問は毎回の講義課題内で受け付ける。また、メールやWebclassでも歓迎する。質問に対しては講義内で必ずフィードバックをおこなう。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス：多文化共生とはなにか	オンデマンド
第2回	差別とはなにか	オンデマンド
第3回	多文化共生前史 / 文化とはなにか	オンデマンド
第4回	文化相対主義：普遍的な価値は存在するか	オンデマンド
第5回	日本の多文化状況①在留資格	オンデマンド
第6回	日本の多文化状況②	オンデマンド
第7回	日本の多文化状況③ニューカマーとオールドカマー	オンデマンド
第8回	日本の多文化状況④	オンデマンド
第9回	生活共生とシステム共生	オンデマンド
第10回	共生と教育	オンデマンド
第11回	システム共生の実際	オンデマンド
第12回	改めて差別・共生とはなにか	オンデマンド
第13回	まとめと最終課題	オンデマンド

事前・事後学修	事前・事後それぞれ2時間半を目安とする。
---------	----------------------

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	各回小テスト：計80点 課題・ノート：計20点
テキスト	指定しない
参考文献	ゴゴリン他編『異文化間教育ハンドブック』明石書店（978-4-7503-5687-7） 多文化共生キーワード事典編集委員会編『【改訂版】多文化共生キーワード事典』明石書店（978-4-7503-3196-6） 小内透、1999、「共生概念の再検討と新たな視点」『北海道大学教育学部紀要』79（ http://hdl.handle.net/2115/29597 ）

年度	2026
講義コード	5642001
講義名称	異文化と生活【遠隔A】
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	遠隔(A)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71432

担当教員

氏名
◎ 石田 麻英子

授業の目的と概要	本講義では、主に海外の生活文化を知ることを通して、自分がよく知っている済み慣れた地域と異なることにに関して理解を深めながら、他文化を理解し、自国の文化を客観的に見直すことも目指します。異文化について学び、視野を広げることのほかに、自身が生まれ育った文化で伝統として守られている価値観に気づくことも目的とします。
到達目標	①異文化の生活に現れる考え方を学ぶ ②過去と現在を結ぶ文化的要素に気づく ③考える力とコミュニケーションスキルを伸ばす ④「異なるもの」を受け入れる際に重要な姿勢を身に着ける
授業の進め方	主に講義スタイル、だが、Zoomの諸機能を用い、オンラインで演習形式も取り入れるほか、適宜オンデマンド、対面の授業回も設定する。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業内で行うアンケート、意見聴取についてはできる限り授業内でコメントを行う。 また、事前または事後に提出する課題については、次回授業内またはLMSを用いて個別にコメントを行う コメントに上がった意見や疑問は、次の授業会で取り上げ補足する。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス 異文化と自文化 あなたと異文化 暮らしの中の異文化 これまでの自分、今の自分の文化と、それと異なると考えられる文化について意見交換などをしながら考えます	対面
第2回	タイトな文化 ルーズな文化 日本文化の特徴と言われているものについて学び、世界の文化の傾向について知ったうえで、自分と相性のいい文化について考えます	同時双方向 又は対面
第3回	異文化と宗教、神話① 文化の中でも大きく人々の考えに影響を与えていると思われる宗教について概観し考えます。 死生観やジェンダー観等についても触れます。	同時双方向 又は対面
第4回	異文化と宗教、神話② 文化の中でも大きく人々の考えに影響を与えていると思われる宗教について概観し考えます。 死生観やジェンダー観等についても触れます。 第3回の授業内容を学習している前提です。	同時双方向 又は対面
第5回	異文化と家族：結婚、子育て、教育 他の文化の不思議、良さ、取り入れるとする場合のハードル等について考えます。	同時双方向 又は対面

第6回	異文化の受容と衝突 コミュニケーションやトラブルとその原因について考えていきます。	同時双方向　又は対面
第7回	異文化と食文化 講義後、個別にテーマを決め、異文化の特徴の現れていると思われる「食、食習慣」について調べてまとめ、意見交換をします。	同時双方向　又は対面
第8回	図書館で探そう異文化の本 動画視聴後、それに従って個人テーマの候補を決め、図書館で書籍を探し、入手します。	同時双方向　又は対面
第9回	テーマを決定しよう 借りた本を基に、テーマを絞り込んで追加調査をしましょう。 必要に応じてテーマ決定の面談もします	同時双方向　又は対面
第10回	個人テーマ発表に向けた準備学習 発表の準備を各自行ってください。必要に応じて個人指導も行います	同時双方向　又は対面
第11回	個人テーマ発表に向けた準備学習 発表の準備を各自行ってください。　必要に応じて個人指導も行います	同時双方向　又は対面
第12回	発表、視聴とコメント①	同時双方向　又は対面
第13回	発表、視聴とコメント②　と　まとめ	同時双方向　又は対面

事前・事後学修	次回扱うテーマについて自分の意見を形成しておくことや、授業後のコメント課題等を行うため、または授業中に終わらなかったワーク等のために事前事後学修はそれぞれ2時間半の学習が必要。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回の授業コメント　50％ 最終発表　　　　　30％ 授業内ワーク　　　　20％
テキスト	LMSなどを用いて資料、プリントを配布します
参考文献	授業中に適宜指示します。

備考	信憑性の高い資料を読むこと。データならソースをはっきりわけて、他と比較できるものを選ぶこと。ニュースや教育番組の視聴が助けになることが多い。関心の高いものにたいしては日常的に目を通しておく。
----	---

年度	2026
講義コード	5646001
講義名称	サービス接遇
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73611
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 中里　のぞみ

授業の目的と概要	サービススタッフとしての所作・言葉遣い・クレーム対応など、接客の基本的な知識と技能を身につけます。 サービス接遇検定2級を目指し、そのためのポイントを理解できるようになります。
到達目標	接客の業務についた時、お客様対応の実践力があり、顧客満足を提供できる人材となる。 接遇検定2級に合格する。
授業の進め方	サービス接遇の公式テキストを使って、検定合格に必要なポイントを説明します。 知識を理解した後は検定対策の過去問を体験したり、実習を通して体験的に理解を深化していただきます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション　体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題があった場合には授業内でフィードバックしていきます。 授業内で模擬試験など検定対策のプリントを実施した場合はその場で、できなかった部分などの説明をしています。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	ガイダンス、検定についての説明と対策	対面授業
第2回	接遇のポイント、接客のマインドとスキル	対面授業
第3回	接遇スタッフの資質の理解	対面授業
第4回	接遇の専門知識・用語	対面授業
第5回	社会常識	対面授業
第6回	接客で求められる敬語	対面授業
第7回	接客におけるコミュニケーション（聴き方・伝え方）	対面授業
第8回	クレーム対応	対面授業
第9回	事例検討	対面授業
第10回	検定合格の対策（求められる現場での判断力と対応力）	対面授業
第11回	検定模擬試験	対面授業
第12回	報告書やメールの実習	対面授業
第13回	総括とテスト	対面授業

事前・事後学修	授業後は学んだことの振り返りをしてください。 検定受験では過去問で苦手部分を見つけ出すことがまず大事です。 授業前に見直しすることで、授業の時に質問して、クリアにさせることを繰り返しましょう。 事前事後の学習はそれぞれ1～2時間を目安にしましょう。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	テスト 80点 レポート 20点
テキスト	「サービス接客検定2級公式テキスト」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版
参考文献	「サービス接客1・2級実問題集」 実務技能検定協会編 早稲田教育出版

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	担当教員は、日本航空で客室乗務員の実務経験を積み、ホスピタリティやコミュニケーション研修を実施。その後、産業カウンセラーとしてカウンセリングや就職支援にも従事し、これらの経験を活かして具体的な事例を挙げながら講義や解説を行う。
備考	検定に関しては授業内で詳細を説明します。

年度	2026
講義コード	5652001
講義名称	企業の戦略
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：81511
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 河田　真清

授業の目的と概要	・ビジネスの社会では、行き当たりばったりの経営ではなく、戦略的思考に基づき経営課題の解決を図るとともに、経営資源（人、物、金、情報）を有効に使い、リスクを管理しながら経営を展開することが重要です。 ・そのために必要な基礎理論（経営学）や手法について身近な事例により皆さんと一緒に考えていきます。
到達目標	【到達目標】 ・ビジネスを進めるうえでの考え方を自分の言葉で語れ、他の教員や企業関係者とも共通の言葉で会話ができるようになることを目標とします。 ・自分の身近なアルバイトや部活、ゼミ活動の中や、これから社会に出てからも、経営学的な手法で体系的に組織を見て、課題解決に使えるようにすることを目標とします。 【卒業認定・学位授与の方針との関連】 ・社会に出たとき、会社に入ったとき、創業するときなど、多様な場で自立した職業人として活躍できる実務能力を身につけるために、基礎的な経営学の知識を基に戦略的思考を進めることを習得します。
授業の進め方	・通常は講義方式で授業を行います。 ・テーマに応じてグループ討議やプレゼンテーションも取り入れます。 ・毎回、講義の最後に課題を出しますので取り組んでもらいます。 ・途中で数回、ミニテストを実施します。皆さんの理解度を確認する意味もありますので、予告なしに不定期で実施します。 ・授業の後半には、モデルとなる企業の情報に基づき、経営課題を抽出し、その解決策を検討し、経営戦略を策定してレポートにまとめる実習を行います。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション　体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	・提出して頂いた課題により講義の理解度をチェックし、次の講義に反映させていきます。課題は次回の講義で、講師から総評させて頂きます。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ビジネスを進めるうえで重要なこと、企業の戦略とは何か～ガイダンス～
第2回	企業とは何か、企業はどのように成長していくか
第3回	経営を数字から見てみよう（１）経営数字の基礎
第4回	経営を数字から見てみよう（２）資金を集めるには
第5回	企業の中で人の管理（１）人事労務管理とは
第6回	企業の中で人の管理（２）人から組織へ
第7回	ものづくりの基本と仕事のカイゼン
第8回	売れる仕組みをつくろう（１）マーケティングの基本

第9回	売れる仕組みをつくろう（2）マーケティング戦略のいろいろ
第10回	経営戦略を考えよう～企業の課題解決の方向性は？
第11回	経営戦略から経営計画へ～戦略をどうやって実現する？
第12回	ケーススタディ～企業の課題を抽出、課題解決を進める戦略を提案してください
第13回	プレゼンテーションとまとめ

事前・事後学修	【具体的な内容】 ・毎回の授業の冒頭で、前回の授業内容につき指名して質問しますので、必ず前回の授業内容を復習しておいて下さい。 ・日常生活の中でも最近の企業の動き、情報をニュースや新聞、ネット等から授業に関係する言葉や情報などを調べる習慣をつけるよう心掛けてください。 【必要な時間】 予習・復習の時間はそれぞれ2時間半を目安とします。
-----------------------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	毎回授業時の出席＋課題提出　20% ミニテスト（不定期に実施）　30% 課題レポート　50% ※期末にケーススタディによる企業の課題解決に資する経営戦略をレポートとして作成します。
テキスト	毎回、プリントを配布します。
参考文献	周佐喜和　他『経営学Ⅰ企業の本質』（実教出版）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	・中小企業診断士として、数多くの企業の経営課題解決に当たった実務経験のある教員による実践的な授業として、企業支援の事例や経験を授業に反映させながら進めています。
---------------------------------	---

年度	2026
講義コード	5656001
講義名称	販売士演習
講義開講時期	秋学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：82311

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の 目的と 概要	販売業に関わる資格としては、唯一の公的な資格である日商販売士検定（リテールマーケティング検定）3級の合格を目指して学修を進めます。この検定は、小売店などにおける販売員として必要となる業務内容や、顧客や市場のニーズに応えるためのリテールマーケティングの基本的な知識を問う検定試験です。 具体的な授業内容として、スーパーや百貨店など店舗形態別小売店の商品戦略の違い、消費者ニーズの掘り起こし（顕在的需要と潜在的需要）のための工夫などから、販売員として必要な基礎的な知識と技術について理解を深めます。
到達目 標	①販売員に必要な基本的な知識と技術を身につけ、実務で活用できる力を養う。 ②顧客の視点からのマーケティングの発想、提案ができるようになる。 ③日商リテールマーケティング（販売士）検定3級に合格できる実力をつける。
授業の 進め方	対面型授業にて、テキストの重要部分を説明しながら、演習問題の解説を中心に進めます。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題は、過去問題や対策問題ならびに小テストの実施となります。 演習後に解説を行ってフィードバックします。
----------------------------	---

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス／第1章 小売業の類型(1)	対面
第2回	第1章 小売業の類型(2)	対面
第3回	第2章 マーチャンダイジング(1)	対面
第4回	第2章 マーチャンダイジング(2)	対面
第5回	第3章 ストアオペレーション(1)	対面
第6回	第3章 ストアオペレーション(2)	対面
第7回	第4章 マーケティング(1)	対面
第8回	第4章 マーケティング(2)	対面
第9回	第5章 販売・経営管理(1)	対面
第10回	第5章 販売・経営管理(2)	対面
第11回	模擬試験対策(1)	対面
第12回	模擬試験対策(2)	対面
第13回	授業のまとめと振り返り	対面

事前・事後学修	授業で扱われる内容に関し、テキストを事前に読んでおき、内容を確認しておくこと。また新聞記事およびニュースなどに積極的に触れることで関心を持って授業に臨むこと。 授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。
---------	---

事前・事後学修に、1講あたり5時間程度の学修時間を目安としてください。

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内での提出物など 70% 小テスト 30% 検定試験の受験や合格なども評価にプラスします。
テキスト	「ユーキャンのリテールマーケティング（販売士）検定3級 速習テキスト&問題集 第6版」 ユーキャン販売士検定試験研究会（編） 株式会社ユーキャン学び出版
参考文献	適宜プリントや資料を提示します。一部資料はWebClassにて共有します。

年度	2026
講義コード	5647001
講義名称	ビジネス会計
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71641

担当教員

氏名
◎ 小林 純

授業の目的と概要	ビジネスの世界では、日常的に数字を扱う場面が数多くあり、自分自身が所属する企業や部署の現状を把握するために、会計数値をはじめとした数字の意味を理解することが大切です。 この授業では小売業で販売されている各種商品の製造を行っている製造業、ならびに製品原価（各種商品の原価）に焦点をあてます。さまざまなビジネスシーンで求められる製品やサービスの収益と原価（コスト）の計算方法、各種差異の分析に関する基本的な考え方を修得します。製品やサービスの原価には、「コントロール（統制）」と「マネジメント（経営管理）」といった側面があり、ビジネスを遂行していく上で、コスト意識（コストカットとコストダウン）を持つ、常に費用対効果を考えて、工夫・改善しようとする意識を育てます。
到達目標	①製造業における製品の原価計算に関する基本用語や原価と利益の関係を分析・理解し、業務活動に利活用するための基本的な知識とスキルを身につける。 ③日商簿記検定3級受験のための基本的な知識とスキルを身につける。 ②製品の製造方法に見合った製造原価の計算方法と原価管理の意味を理解し、基本的な差異の分析ができるようになる。
授業の進め方	原価計算に関する基本的な用語や仕組みを理解しやすくするために、授業は対面講義形式を基本とした内容解説を行い、その後、受講者に計算や作表・分析をしてもらう演習形式により実施します。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	集めた課題は添削して返却することを基本とし、授業の中で補足解説をします。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	授業ガイダンス／原価計算の基礎、CVP分析	対面
第2回	予算実績差異分析、製造原価の計算	対面
第3回	製造原価の分類と集計	対面
第4回	製造原価の分類と製品原価の計算	対面
第5回	製品原価の計算と損益計算書	対面
第6回	原価計算初級の仕訳	対面
第7回	授業のまとめと原価計算初級の検定問題	対面

事前・事後学修	授業で扱われる内容に関し、テキストを事前に読んでおき、内容を確認しておくこと。 特に会計や取引などの独自の用語などの学修が必要になります。 授業後は、講義の復習を欠かさずに行い内容理解に努め、さらに深く調べ、その内容もまとめておくこと。 事前・事後学修に、1講あたり5時間程度の学修時間を目安としてください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●

(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	授業内での提出物 70% 小テスト・まとめ 30% 日商原価計算初級の受験・合格なども評価にプラスします。
テキスト	「スッキリわかる 日商原価計算初級」 滝澤ななみ・TAC出版開発グループ（著） TAC株式会社 出版事業部（TAC出版）

年度	2026
講義コード	5650001
講義名称	EnglishIII
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	対面授業
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73711

担当教員

氏名
◎ デントン ルーカス

授業の目的と概要	This course aims to provide an opportunity to develop students' communicative ability through learning and playing cooperative board games. Students will learn how to perform a personal needs analysis of language required for communication in specific tasks. After using this language in practice, students will reflect on their performances in order to further develop their communicative competence. この授業では、協力型ボードゲームを学び、実際にプレイすることを通して、学生のコミュニケーション能力を向上させる機会を提供することを目的とする。 学生は、特定のタスクにおいてコミュニケーションに必要な言語について、自分自身でニーズ分析を行う方法を学ぶ。その言語を実際に使用した後、自身のパフォーマンスを振り返り、さらなるコミュニケーション能力の向上を目指す。
到達目標	・ Students can identify key vocabulary necessary for task completion ・ Students can reflect on their language performance and identify points for improvement ・ Students can utilise learned vocabulary and phrases for communication with peers ・ 課題達成に必要な重要語彙を特定できる。 ・ 自分の言語使用を振り返り、改善点を見つけることができる。 ・ 学習した英語語彙や表現を用いて、他の学生とコミュニケーションを取ることができる。
授業の進め方	At the beginning of the course, students will research and choose two games from a list of games. The rules and English necessary for each game will be researched and studied before playing. Then games will be played and recorded in class. These recordings will then be transcribed and analysed. The results of analyses will then be used to improve students language ability in a second, assessed playthrough. After two playthroughs, students will report on their language learning. 授業の初めに、学生は提示されたゲームのリストから2つのゲームを調べて選ぶ。 それぞれのゲームについて、ルールや必要な英語表現を調べ、プレイする前に学習する。 その後、授業内でゲームをプレイし、その様子を録画する。録画された内容は書き起こしを行い、分析する。 分析結果は、2回目の評価対象となるプレイにおいて学生の言語能力を向上させるために活用する。 2回のプレイ後、学生は自身の言語学習についてレポートを作成する。

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	Feedback on performance tasks will be given to students individually during class, and general feedback to all students will be given at the beginning of the next lesson. パフォーマンス課題に関するフィードバックは授業中に個別に行い、全体への一般的なフィードバックは次回の授業の冒頭で行う。
--	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	Researching games to play・ゲームの調査	対面
第2回	Presenting research results・ゲーム調査の発表	対面
第3回	Learning game rules・ゲームのルール学習	対面
第4回	Playing in English・ゲーム実行	対面
第5回	Performance analysis・パフォーマンス分析	対面
第6回	Replay, assessment ①・再プレイ、英語使用評価①	対面
第7回	Final analysis and report・最終分析、レポート①	対面

第8回	Learn rules・ゲームのルール学習	対面
第9回	Playing in English・ゲーム実行	対面
第10回	Performance analysis・パフォーマンス分析	対面
第11回	Replay, assessment ②・再プレイ、英語使用評価②	対面
第12回	Final analysis and report・最終分析、レポート②	対面
第13回	Final replay, feedback・最終プレイ・フィードバック	対面

事前・事後学修	・ Practice speaking the words and phrases that will be used in the following class aloud until you have memorised them. ・ Look at the class content and try to think of vocabulary that will be useful for you during communication activities. Investigate and memorise this vocabulary. ・ After class activities, review the words and phrases above in order to improve your communication ability. ・ Two hours of preview time and two hours of review time should be allocated to this course. ・ 次回の授業で使用する単語やフレーズを、覚えるまで声に出して練習すること。 ・ 授業の内容を確認し、コミュニケーション活動で役立つような語彙を考えること。その語彙を調べて覚えること。 ・ 授業後には、上記の単語やフレーズを復習し、コミュニケーション能力の向上を図ること。 ・ 予習・復習を合わせて5時間程度行ってください。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ Active in-class participation・授業内での積極的な参加 30% ・ Language use assessment・英語使用評価 (2x 20%) 40% ・ Language report・英語使用レポート (2x 10%) 20% ・ Homework・宿題 10%
テキスト	Printouts will be provided as necessary. 資料を適宜配布する。

備考	Active participation in communicative activities is essential for this course. 本授業では、コミュニケーション活動への積極的な参加が不可欠である。
----	---

年度	2026
講義コード	5651001
講義名称	[夏集]English Activities
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：73721

担当教員

氏名
◎ 石田　麻英子

授業の目的と概要	英語を使って、様々な活動を行うことを通じて、声に出すことの抵抗を減らし、自分で表現したいことを英語で表現できるように練習するための、学科の英語の学びの仕上げとなる授業です。活動の内容は、自分たちで計画します。
到達目標	いろいろな場面で、自分の言いたいことを英語で言えるようにする。 英語を声に出すことに対しての抵抗感をなくす。
授業の進め方	グループワークを中心に、体験を通じて、自主的に英語を使ってもらうようにします。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　フィールドワーク　ディスカッション　体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	ワークのための準備として、単語の準備学習や、成果のまとめの作成などに、1時間程度の学習が必要です
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	Let`s plan どのような目的で、どのようなActivityを行うかを考え、計画を立てる
第2回	A c t①　準備 立てた計画をもとに、活動の準備をする
第3回	A c t　1　実行 アクティビティを実際に行い、成果をまとめる
第4回	A c t②　準備 立てた計画をもとに、活動の準備をする
第5回	A c t②　実行 アクティビティを実際に行い、成果をまとめる
第6回	A c t②　実行 アクティビティを実際に行い、成果をまとめる
第7回	まとめと振り返り

事前・事後学習	それぞれの活動の準備と振り返り、成果の作成は、授業中だけでは終わらないため、1時間程度の学習が必要です
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	準備提出物	30%
	実動中の英語使用	40%
	成果のまとめ	30%

備考	活動にかかる入場料や飲食に関係する費用については、原則受益者負担となり、大学から出すことはできません。（交通費は一部負担可） 過去の活動として、以下のようなものを行いました。参考にしてください。 ・市内観光地を英語で案内する、案内資料や動画を作る ・英語レシピを使い英語を話しながら料理をする ・英語を使うゲームをする ・英語でショートドラマ、朗読劇などを作る、演じる ・洋楽を完ぺきに歌えるようにする
----	---

年度	2026
講義コード	5657001
講義名称	保育指導法(言葉)
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8037a

担当教員

氏名
◎ 森岡 毅

授業の目的と概要	保育内容「言葉」との関連を図りながら、子どもの発達過程を踏まえた具体的な指導方法を個人及びグループで構想するとともに、実践場面を想定した発表を行う中で指導力を高める。
到達目標	保育内容「言葉」に関わり、ねらい及び内容、発達過程を踏まえ、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう、具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付けることができる。
授業の進め方	テキストやプリント等を用いて言葉に関わる活動の概要を説明するとともに、個人やグループで活動内容を構想し、発表を行うなどしながら指導力を高める。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題について授業内で適宜解説し、グループワークや発表での自己評価、相互評価を通して、自己の学びを深めていく。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	ガイダンス・小学校との連携
第2回	保育指導の実際 1 紙芝居① 特徴の理解・実践の構想
第3回	保育指導の実際 2 紙芝居② 発表
第4回	保育指導の実際 3 想像やことばのリズム（素話）①（特徴の理解・個人案構想）
第5回	保育指導の実際 4 想像やことばのリズム（素話）②（グループ案構想）
第6回	保育指導の実際 5 想像やことばのリズム（素話）③（発表）
第7回	保育指導法（言葉）のまとめ・レポート

事前・事後学修	【事前学修】 ・次回授業内容について自分の考えをまとめるとともに、活動内容を構想し練習する。 【事後学修】 ・授業内容を振り返り、ポイントをノートやファイルにまとめる。 【必要な時間】 ・事前、事後学修ともに、1時間～2時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・提出物：40％ 「到達目標」に明示してある「具体的な指導場面を想定した保育を構想する力を身に付ける」ことができることを評価基準とする。 ・グループでの貢献度、発表：40％ 「具体的な指導場面を想定した保育を構想」し、実践できることを評価基準とする。 ・振り返り、レポート等：20％ 授業内容について「指導場面を想定」して考えることができることを評価基準とする。
テキスト	保育・教育ネオシリーズ『保育内容・言葉』（太田光洋編著 同文書院） ※１年次「保育内容（言葉）」で購入したものを使用する。
参考文献	『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園保育・教育要領解説』

備考	授業での配付資料を保管するためのファイル（A4 版）を用意しておくこと。
----	--------------------------------------

年度	2026
講義コード	5662001
講義名称	保育指導法(音楽表現)
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8037c
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 伊藤 柱子

授業の目的と概要	様々な音楽的表現方法を学び、実践することを通して、自身の感性や表現を豊かにするとともに、保育者としてのかわりの方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	①領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 ②子どもの感性や表現を豊かに育むための方法を考え、発達に応じた遊びを考えることができる。 ③他者の表現を柔軟に受け入れることにより、自分なりの表現をすることができる。
授業の進め方	豊かな感性や表現はどのように育まれているか考え、保育者自身の感性や表現を豊かにするために、自分なりに表現することを通してその方法を学ぶ。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については学生の実践に合わせて助言を行います。また、授業終了時に提出するリアクションシート（感想や質問）をもとに、次回の授業時に課題に対する具体的な助言を行う。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／領域「表現」のねらい・内容について考える
第2回	子どもの発達と表現
第3回	表現活動（1）うたうことを中心とした表現
第4回	表現活動（2）楽器あそびを中心とした表現
第5回	表現活動（3）様々な動きを実践して表現を学ぶ
第6回	表現活動（4）素材を見つけ、他者と意見交換して表現を学ぶ（グループワーク）
第7回	期末試験、まとめ

事前・事後学修	【事前学修】 ・ 次回の授業内容を確認し、テキストの該当部分を読み、自分の考えや疑問を整理しておく。 ・ 模擬保育に向けて指導案の構想や教材の準備を行う。 【事後学修】 ・ 講義内容や配布資料を整理し、理解を深める。 ・ 模擬保育やグループワークの内容を振り返り、改善点や学びをまとめる。 事前事後学修はそれぞれ1時間～2時間を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 期末試験（レポート） 30％（授業内で扱った課題について、到達目標①②を評価基準とする） ・ 課題提出 30％（授業内で扱った課題について、到達目標①②を評価基準とする） ・ グループワーク取り組み 20％（授業内で扱った課題について、到達目標③を評価基準とする） ・ リアクションシートの提出 20％
テキスト	・ 新版 遊びの指導 乳・幼児編（同文書院）※1年次に購入済 ・ こどものうた200（チャイルド本社）※1年次に購入済
参考文献	・ 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	ピアニスト、演奏家としての実務経験（演奏活動）や、指導者としての経験を活かして、技術を習得していけるように授業を進めます。
-------------------	--

年度	2026
講義コード	5663001
講義名称	現代生活と多様性【ブレB】
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	講義
授業形態	ブレンド(B)
単位数	2単位
ナンバリング	総合生活キャリア学科：71431

担当教員

氏名
◎ 石田　麻英子

授業の目的と概要	グローバル化や社会の変化に伴い、多様性が日本の現代生活にどのような影響を与えているかを理解することを目的とします。文化的、社会的、経済的な観点から多様性を考察し、共生社会の実現に向けた課題や可能性を探ります。また、異なる価値観や背景を持つ人々と協働する力を養い、多様性を尊重する態度を育成します。
到達目標	様々な人々が暮らす現代の日本の社会について知り、どうすれば共生社会を構築できるかについて、視点を深め、自分なりの考えをもつことを目指します。
授業の進め方	歴史的背景や現代社会の動向について、複数の観点からテーマを取り上げ、講義、ディスカッション、ケーススタディを通じて理解を深めます。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
グループワーク　ディスカッション　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	オンデマンド授業については必ずノートとコメントレポートを提出、それに対して授業やLMSでフィードバックを行う。 対面回については、授業中に意見を聞く場面ではその場でフィードバック、授業後のまとめレポートについては、LMSへ提出後、次回授業内または個別でフィードバックを行います。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容	授業形態
第1回	多様性とは① 同じ人はいない、当たり前は人の数だけある、ということについて、いろいろな側面から考えてみます。 ディスカッションやグループワークを通して、実感を持ちながら、多様性と、少数派多数派のものの見方、他者を尊重するということはどういうことかを考え、今の自分の考え方を整理します。	対面
第2回	多様性とは② 前回のディスカッションやグループワークを通して、実感を持ちながら、多様性と、少数派多数派のものの見方、他者を尊重するということはどういうことかを考えたことから、日本の状況の変化についてみていきながら、疑問に思ったことや知りたいと思ったことを整理しよう	オンデマンド
第3回	多様な性、いろいろなあり方（ゲスト）	対面
第4回	多様な性に関する学習を深めよう	オンデマンド
第5回	共生社会のために取り組む人たち①	対面
第6回	共生社会を目指すうえで重要な視点について考えよう	オンデマンド
第7回	理解すること、ともに進むということ ダイバーシティ＆インクルージョン	

第8回	誰も取り残されない、とはどういうことか ダイバーシティ & インクルージョン いろいろな取り組みについて	オンデマンド
第9回	私たちを取り巻く問題 ディスカッション、グループワーク	対面
第10回	個人テーマを立て考えよう	オンデマンド
第11回	テーマの確定とまとめ、意見交換	対面
第12回	発表の作成と提出に向けて	オンデマンド
第13回	発表と最終レポートの作成	対面

事前・事後学習	主に事後学習のほうに重点を置いてください。授業までにやっておくべき課題をこなす事前学習、授業後に提出するコメントの作成には、それぞれ1時間以上の学習が必要です。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	授業後コメントレポート40% オンデマンド回ノート20% 授業内アクティビティ（ディスカッションなど）20% 最終レポート20%
テキスト	主にプリントを配布します
参考文献	指定はありません。図書館の書籍や、新聞、ニュースの記事などが参考になります

備考	授業では、実際の事例やゲストスピーカーの講演を取り入れ、理論だけでなく実践的な視点からも多様性について考察します。 ゲストの都合により、授業スケジュールが変わることもありますのでお気を付けください。
----	---

年度	2026
講義コード	5658001
講義名称	保育指導法(環境)
講義開講時期	春学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80379

担当教員

氏名
◎ 森岡 毅

授業の目的と概要	「保育内容（環境）」での学修を踏まえ、幼児が様々な環境に関わりながら遊びを展開し、物事の法則に気付き、自分なりに考えていく過程を理解する。その上で幼児が身近な環境や自然と関わっていくための指導法を体得する。
到達目標	・ 保育内容（環境）のねらいと内容を踏まえ、保育の実践につなげていくことができる。 ・ 幼児が周囲に関心をもち、理解を深めていく過程を考察した上で、各園や地域、季節等の特色を捉えた指導実践を構想できる。
授業の進め方	講義、演習、グループワーク等の中で専門的知識や指導方法などの実践力を身に付ける。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク ディスカッション

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題については授業内で説明し、グループワークや発表を通して他者の考えや学びを知ることから、自分の考えや学びを深めていくことを目指す。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	幼児教育の基本と領域「環境」の概要
第2回	子どもの成長を促す保育環境①（環境構成の重要性）
第3回	子どもの成長を促す保育環境②（保育環境の構想）
第4回	子どもの成長を促す保育環境③（保育環境の構想・発表）
第5回	自然環境を生かした保育①
第6回	自然環境を生かした保育②（自然環境マップ）
第7回	保育指導法（環境）のまとめ、レポート

事前・事後学修	【事前学修】 ・ 次回の学修内容を確認し、準備しておくこと。 【事後学修】 ・ 授業内容について振り返り、確実に自分のものにしておくこと。 【必要な時間】 ・ 事前学修・事後学修ともに、1時間～2時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・提出物：40％ 「保育内容（環境）のねらいと内容を踏まえ保育の実践につなげていくことができる」「各園や地域、季節等の特色を捉えた指導実践を構想できる」ことを評価基準とする。 ・グループワーク等への取組・発表：40％ 「保育内容（環境）のねらいと内容を踏まえ保育の実践につなげていくことができる」「各園や地域、季節等の特色を捉えた指導実践を構想できる」ことを評価基準とする。 ・振り返り：20％ 授業内容について「指導実践を構想」し、「実践につなげていく」ことを考えることができることを評価基準とする。
テキスト	授業内で資料を配布
参考文献	『新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境』 ※ 1 年次、保育内容（環境）でを使用したもの

備考	授業での配付資料を保管するためのファイル（A4 版）を用意すること。
----	------------------------------------

年度	2026
講義コード	5660001
講義名称	保育指導法(健康)
講義開講時期	秋学期第2Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：80377
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 林　二士

授業の目的と概要	乳幼児期における健康の意義について、幼稚園教育要領・保育所保育指針等に示される領域「健康」のねらい及び内容を基盤として理解を深める。 また、基本的生活習慣の形成、運動遊び、安全教育などの観点から幼児の健康な心身の発達を支える保育のあり方について学ぶ。 さらに、具体的な保育場面を想定した指導案作成、教材研究、模擬保育を通して、幼児理解を踏まえた保育の構想力と実践力を身につける。
到達目標	① 領域「健康」のねらい及び内容について説明できる。 ② 基本的生活習慣の形成や運動遊び、安全教育など、幼児の健康づくりに関わる保育の意義と方法を理解する。 ③ 幼児の発達や意欲を踏まえた健康領域の指導案を作成できる。 ④ 模擬保育やグループワークを通して、保育を評価し改善する視点を身につける。
授業の進め方	専門事項については講義形式で理解を深める。 また具体的な保育場面を想定した教材研究やグループワーク、模擬保育等の演習を通して、実践的な理解を深める。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL　グループワーク　体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出された課題（指導案・レポート等）については、講義内での講評や解説を通してフィードバックを行う。 また、模擬保育後には振り返りの時間を設け、学生同士および教員からのコメントを通して改善点を明確にする。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	領域「健康」の基本理解 幼稚園教育要領等における領域「健康」のねらいと内容を理解する。
第2回	基本的生活習慣の形成と援助 食事・排泄・着脱衣・清潔などの生活習慣を育む環境構成と保育者の援助について学ぶ。
第3回	幼児期の運動遊びと健康 幼児期運動指針をもとに、運動遊びの意義と多様な動きを引き出す援助について理解する。
第4回	健康管理と安全教育 事故予防、交通安全、避難訓練など、安全能力を育む指導のあり方について学ぶ。
第5回	健康領域の保育の構想 幼児の興味・意欲を踏まえた健康領域の指導案を作成する。
第6回	模擬保育の実践 作成した指導案をもとに模擬保育を行い、実践的な指導力を養う。
第7回	模擬保育の振り返りとまとめ 模擬保育を振り返り、評価と改善の視点から健康領域の保育について理解を深める。

事前・事後学修	【事前学修】 ・ 次回の授業内容を確認し、テキストの該当部分を読み、自分の考えや疑問を整理しておく。 ・ 模擬保育に向けて指導案の構想や教材の準備を行う。 【事後学修】 ・ 講義内容や配布資料を整理し、理解を深める。 ・ 模擬保育やグループワークの内容を振り返り、改善点や学びをまとめる。 事前事後学修はそれぞれ1時間～2時間を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	・ 指導案および教材作成 40％ ・ 模擬保育の実践内容 30％ ・ レポート・提出物 30％ ＊授業への主体的な参加やグループ活動への貢献も評価の参考とする。
テキスト	・ 新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 健康 ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
参考文献	・ ACPガイドブック（日本スポーツ協会） ・ 幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省）

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	認定こども園での保育実践などの実務経験を踏まえ、保育現場の具体的な子どもの姿をもとに、健康領域に関する指導を実践的に学ぶ授業を展開する。
備考	日ごろから「子ども（幼児）の健康」に関する出来事や情報に関心を持ち、それについて自分は「どう思うか」「どう考えるか」など意見を持つ習慣をつけよう。

年度	2026
講義コード	5661001
講義名称	保育指導法(造形表現)
講義開講時期	春学期第1Q
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8037b
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 梅田 真紀

授業の目的と概要	幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解を深める。また保育現場でを使用することを想定した課題制作を通して、保育者としての実践的な保育、造形表現の指導力を身に付ける。
到達目標	①幼稚園教育要領と保育所保育指針に示された領域「表現」のねらいと内容について理解することができる。 ②表現活動の実践を通して、子どもの表現に関する知識・技術を身に付けることができる。 ③実践の内容を学生が相互に評価し合うことで、各自の保育技術の課題を見つけ、領域「表現」の理解を実践的に深めることができる。
授業の進め方	子ども、表現、遊び、保育、保育者などの観点を取り入れながら、主に作品制作と作品を使った実践を行う。また作品や配布物を綴じてポートフォリオを作成し、授業内容の振り返りと学生個人の資料とする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
体験学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	造形表現の作品（成果物）の鑑賞、実践の学生同士の相互評価や教員からのアドバイスを行う。また毎時間の取り組みの振り返りや質問等のコメントを記入・提出し、教員がコメント等で応える。
----------------------------	--

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション／子どもの表現・自分の表現
第2回	「表現」の指導の実際（変身あそび）
第3回	「表現」の指導の実際（元永定正の絵本を題材に）
第4回	「表現」の実践的理解（紙飛行機）
第5回	保育での作品活用（パネルシアター／制作①）
第6回	保育での作品活用（パネルシアター／制作②）
第7回	保育での作品活用（パネルシアター／制作③・作品発表）

事前・事後学修	【事前学修】 ・ 次回の授業内容を確認し、テキストの該当部分を読み、自分の考えや疑問を整理しておく。 ・ 模擬保育に向けて指導案の構想や教材の準備を行う。 【事後学修】 ・ 講義内容や配布資料を整理し、理解を深める。 ・ 模擬保育やグループワークの内容を振り返り、改善点や学びをまとめる。 事前事後学修はそれぞれ1時間～2時間を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	
(DP6)社会に貢献する姿勢	

成績評価基準と方法	①造形表現実践・成果物：70点 ②毎時間の取り組みの振り返り（小レポート）：30点
テキスト	・新版　遊びの指導　乳・幼児編（財団法人幼少年教育研究所／同文書院／2009）
参考文献	・幼稚園教育要領解説（文部科学省／フレーベル館／2018） ・保育所保育指針解説（厚生労働省／フレーベル館／2018） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（内閣府・文部科学省・厚生労働省／フレーベル館／2018） ・授業時にプリント、資料を配布し参考作品等を提示する。

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で美術教諭として実務経験のある教員が実践的教育を行う。
備考	・制作に関わる費用は、教員と相談の上可能な限り学科で用意する。 ・制作時は「子どもの図画工作」で購入した教材等を使用する。 ・スマートフォンおよびタブレット、パソコンを使用するので持参する。

年度	2026
講義コード	5668003
講義名称	保育プロジェクト演習Ⅰ[小岩]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8157a
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小岩 季之

授業の目的と概要	本授業では、学生が自らの興味・関心に基づいて保育に関するテーマを設定し、主体的に学びを深めるプロジェクト型学習を行う。 指導教員の専門性を踏まえて提示されたテーマを参考に、学生自身が具体的な学習課題を設定し、文献調査や情報収集、討議などを通して理解を深めていく。 課題設定や情報収集・分析の過程を通して、保育者として必要な基礎的知識の深化と探究的な学習態度を養う。
到達目標	①保育に関する課題について、自ら学習テーマを設定することができる。 ②文献調査や情報収集を通して、テーマに関する基礎的知識を整理・理解することができる。 ③調査や討議を通して得た知見を整理し、自らの考えをまとめることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 保育プロジェクト演習Ⅰでの学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習の振り返り（レポートなど）

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	学習への取り組み状況・授業参加（ディスカッション等） 40％ 調査・学習の過程で提出する課題やレポート 30％ テーマ設定および調査内容のまとめ 30％
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2026
講義コード	5668004
講義名称	保育プロジェクト演習Ⅰ[田村]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8157a
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 田村　めぐみ

授業の目的と概要	本授業では、学生が自らの興味・関心に基づいて保育に関するテーマを設定し、主体的に学びを深めるプロジェクト型学習を行う。 指導教員の専門性を踏まえて提示されたテーマを参考に、学生自身が具体的な学習課題を設定し、文献調査や情報収集、討議などを通して理解を深めていく。 課題設定や情報収集・分析の過程を通して、保育者として必要な基礎的知識の深化と探究的な学習態度を養う。
到達目標	①保育に関する課題について、自ら学習テーマを設定することができる。 ②文献調査や情報収集を通して、テーマに関する基礎的知識を整理・理解することができる。 ③調査や討議を通して得た知見を整理し、自らの考えをまとめることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 保育プロジェクト演習Ⅰでの学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディベート　ディスカッション　体験学習　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション　授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習の振り返り（レポートなど）

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	学習への取り組み状況・授業参加（ディスカッション等） 40％ 調査・学習の過程で提出する課題やレポート 30％ テーマ設定および調査内容のまとめ 30％
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2026
講義コード	5668001
講義名称	保育プロジェクト演習Ⅰ[林(二)]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8157a
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 林　二士

授業の目的と概要	本授業では、学生が自らの興味・関心に基づいて保育に関するテーマを設定し、主体的に学びを深めるプロジェクト型学習を行う。 指導教員の専門性を踏まえて提示されたテーマを参考に、学生自身が具体的な学習課題を設定し、文献調査や情報収集、討議などを通して理解を深めていく。 課題設定や情報収集・分析の過程を通して、保育者として必要な基礎的知識の深化と探究的な学習態度を養う。
到達目標	①保育に関する課題について、自ら学習テーマを設定することができる。 ②文献調査や情報収集を通して、テーマに関する基礎的知識を整理・理解することができる。 ③調査や討議を通して得た知見を整理し、自らの考えをまとめることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 保育プロジェクト演習Ⅰでの学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディベート　ディスカッション　体験学習　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション　授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習の振り返り（レポートなど）

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	学習への取り組み状況・授業参加（ディスカッション等） 40% 調査・学習の過程で提出する課題やレポート 30% テーマ設定および調査内容のまとめ 30%
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2026
講義コード	5668002
講義名称	保育プロジェクト演習Ⅰ[伊藤]
講義開講時期	春学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8157a
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 伊藤 柱子

授業の目的と概要	本授業では、学生が自らの興味・関心に基づいて保育に関するテーマを設定し、主体的に学びを深めるプロジェクト型学習を行う。 指導教員の専門性を踏まえて提示されたテーマを参考に、学生自身が具体的な学習課題を設定し、文献調査や情報収集、討議などを通して理解を深めていく。 課題設定や情報収集・分析の過程を通して、保育者として必要な基礎的知識の深化と探究的な学習態度を養う。
到達目標	①保育に関する課題について、自ら学習テーマを設定することができる。 ②文献調査や情報収集を通して、テーマに関する基礎的知識を整理・理解することができる。 ③調査や討議を通して得た知見を整理し、自らの考えをまとめることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。 保育プロジェクト演習Ⅰでの学びが、秋学期の保育・教職実践演習における模擬保育に繋がるようなものとする。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	オリエンテーション 授業の目的とすすめ方
第2回	専門領域ごとの概要とテーマの設定
第3回	課題についての情報収集とアドバイス
第4回	専門学習 1
第5回	専門学習 2
第6回	専門学習 3
第7回	専門学習の振り返り（レポートなど）

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
--------------------	---

(DP2)コミュニケーション能力	●
(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	学習への取り組み状況・授業参加（ディスカッション等） 40％ 調査・学習の過程で提出する課題やレポート 30％ テーマ設定および調査内容のまとめ 30％
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2026
講義コード	5669001
講義名称	保育プロジェクト演習Ⅱ[林(二)]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8257a
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 林　二士

授業の目的と概要	本授業では、プロジェクト演習Ⅰで設定したテーマや学習内容を発展させ、保育に関する課題について実践的に探究する。調査結果や学習成果をもとに、具体的な活動や提案、教材作成などの実践的取り組みを行い、その成果をまとめて発表する。学習の成果を共有し、相互の意見交換を通して理解を深めることで、保育者としての実践的視点と課題解決能力を養う。
到達目標	①保育に関するテーマについて、調査結果を基に実践的な取り組みや提案を行うことができる。 ②学習成果を整理し、他者に分かりやすくまとめて発表することができる。 ③他者の発表や意見を踏まえて、自らの学びを振り返り、理解を深めることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディベート　ディスカッション　体験学習　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	フィールドワーク１　（実践１）
第2回	フィールドワーク２　（実践２）
第3回	フィールドワーク３　（実践３）
第4回	調査のまとめ（資料のまとめ）　（実践４）
第5回	調査のまとめ（活動のまとめ）　（実践５）
第6回	ディスカッション（発表）
第7回	授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ２時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プロジェクト活動への主体的参加　（40％） 成果物（レポート・教材・資料等）　（30％） 最終発表および発表内容　　（30％）
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2026
講義コード	5669002
講義名称	保育プロジェクト演習Ⅱ [伊藤]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8257a
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 伊藤 柱子

授業の目的と概要	本授業では、プロジェクト演習Ⅰで設定したテーマや学習内容を発展させ、保育に関する課題について実践的に探究する。調査結果や学習成果をもとに、具体的な活動や提案、教材作成などの実践的取り組みを行い、その成果をまとめて発表する。学習の成果を共有し、相互の意見交換を通して理解を深めることで、保育者としての実践的視点と課題解決能力を養う。
到達目標	①保育に関するテーマについて、調査結果を基に実践的な取り組みや提案を行うことができる。 ②学習成果を整理し、他者に分かりやすくまとめて発表することができる。 ③他者の発表や意見を踏まえて、自らの学びを振り返り、理解を深めることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	フィールドワーク１ （実践１）
第2回	フィールドワーク２ （実践２）
第3回	フィールドワーク３ （実践３）
第4回	調査のまとめ（資料のまとめ） （実践４）
第5回	調査のまとめ（活動のまとめ） （実践５）
第6回	ディスカッション（発表）
第7回	授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ２時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

（DP1）専門知識・技能を活用する力	●
（DP2）コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プロジェクト活動への主体的参加　（40％） 成果物（レポート・教材・資料等）　（30％） 最終発表および発表内容　　（30％）
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2026
講義コード	5669003
講義名称	保育プロジェクト演習Ⅱ[小岩]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8257a
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 小岩 季之

授業の目的と概要	本授業では、プロジェクト演習Ⅰで設定したテーマや学習内容を発展させ、保育に関する課題について実践的に探究する。調査結果や学習成果をもとに、具体的な活動や提案、教材作成などの実践的取り組みを行い、その成果をまとめて発表する。学習の成果を共有し、相互の意見交換を通して理解を深めることで、保育者としての実践的視点と課題解決能力を養う。
到達目標	①保育に関するテーマについて、調査結果を基に実践的な取り組みや提案を行うことができる。 ②学習成果を整理し、他者に分かりやすくまとめて発表することができる。 ③他者の発表や意見を踏まえて、自らの学びを振り返り、理解を深めることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL グループワーク フィールドワーク ディベート ディスカッション 体験学習 調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	-------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	フィールドワーク 1 （実践 1）
第2回	フィールドワーク 2 （実践 2）
第3回	フィールドワーク 3 （実践 3）
第4回	調査のまとめ（資料のまとめ） （実践 4）
第5回	調査のまとめ（活動のまとめ） （実践 5）
第6回	ディスカッション（発表）
第7回	授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ2時間程度を目安とする。
---------	---

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プロジェクト活動への主体的参加　（40％） 成果物（レポート・教材・資料等）（30％） 最終発表および発表内容　（30％）
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。

年度	2026
講義コード	5669004
講義名称	保育プロジェクト演習Ⅱ[田村]
講義開講時期	秋学期
必選区分	選択
学年	2年
授業方法	演習
授業形態	対面授業
単位数	1単位
ナンバリング	幼児教育保育学科：8257a
実務経験のある教員の授業	○

担当教員

氏名
◎ 田村　めぐみ

授業の目的と概要	本授業では、プロジェクト演習Ⅰで設定したテーマや学習内容を発展させ、保育に関する課題について実践的に探究する。調査結果や学習成果をもとに、具体的な活動や提案、教材作成などの実践的取り組みを行い、その成果をまとめて発表する。学習の成果を共有し、相互の意見交換を通して理解を深めることで、保育者としての実践的視点と課題解決能力を養う。
到達目標	①保育に関するテーマについて、調査結果を基に実践的な取り組みや提案を行うことができる。 ②学習成果を整理し、他者に分かりやすくまとめて発表することができる。 ③他者の発表や意見を踏まえて、自らの学びを振り返り、理解を深めることができる。
授業の進め方	各コースにおいて、それぞれの授業目的に合った方法（講義形式・演習形式等）で行う。

アクティブ・ラーニング

アクティブラーニング
PBL　グループワーク　フィールドワーク　ディベート　ディスカッション　体験学習　調査学習

課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	課題や振り返りの解説、学生からの疑問等は授業内で対応する。
----------------------------	--------------------------------------

授業計画表

回	授業内容
第1回	フィールドワーク１　（実践１）
第2回	フィールドワーク２　（実践２）
第3回	フィールドワーク３　（実践３）
第4回	調査のまとめ（資料のまとめ）　（実践４）
第5回	調査のまとめ（活動のまとめ）　（実践５）
第6回	ディスカッション（発表）
第7回	授業内レポート（発表）・履修カルテ記入

事前・事後学修	毎回の授業において、次回の授業までに行う予習や課題が提示される。 次回の授業においては、その課題を行っていることが前提となるため、必ず準備しておくこと。 事前学修および事後学修はそれぞれ２時間程度を目安とする。
---------	--

DP（学位授与の方針）との関連

(DP1)専門知識・技能を活用する力	●
(DP2)コミュニケーション能力	●

(DP3)課題を発見し、解決する力	●
(DP4)多様性の理解と協働する力	●
(DP5)能動的に学び続ける力	●
(DP6)社会に貢献する姿勢	●

成績評価基準と方法	プロジェクト活動への主体的参加　（40％） 成果物（レポート・教材・資料等）（30％） 最終発表および発表内容　（30％）
テキスト	各グループにおいて、適宜指示される
参考文献	各グループにおいて、適宜指示される

実務経験のある教員の有無

有り

実務経験のある教員の経歴と授業内容	それぞれの分野で実務経験のある教員が担当となり、専門的な講義や実技の学びを深める。
備考	各グループにより毎回の準備が異なるため、担当教員の指示を確認するようにすること。 またスマートフォン、タブレット、パソコンを使用することもあるため持参すること。